

### 3. 調査結果の概要・分析



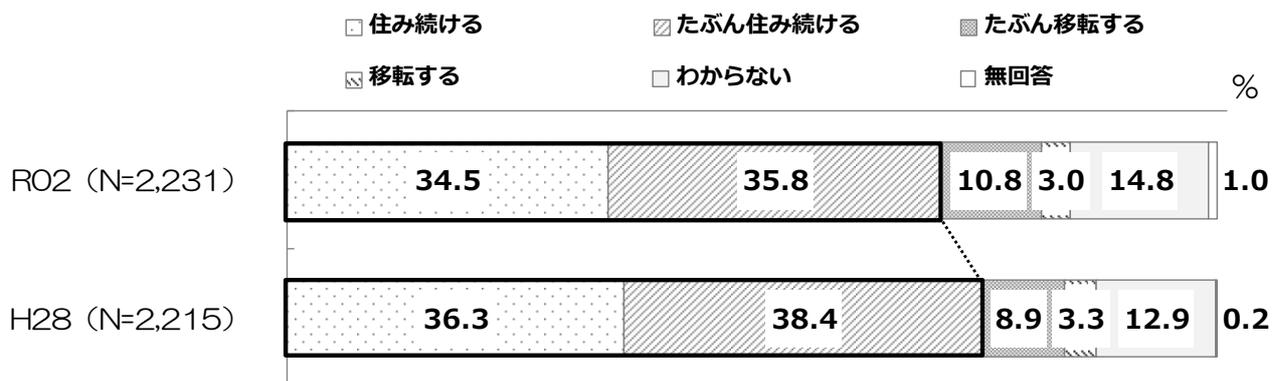
### 3 調査結果の概要・分析

#### (1) 港北区内での継続居住意向について

##### 【港北区内居住継続意向】（問2）

- ・「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の回答の合計が7割を越え（70.3%）、前回調査と比較すると若干の減少ですが、高い定住意向を維持しています。
- ・年代別でみると、「住み続ける」と「たぶん住み続ける」は年代が上がるほど多くなっています。

問2. あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っていますか。（〇は1つだけ）  
[N=2,231]

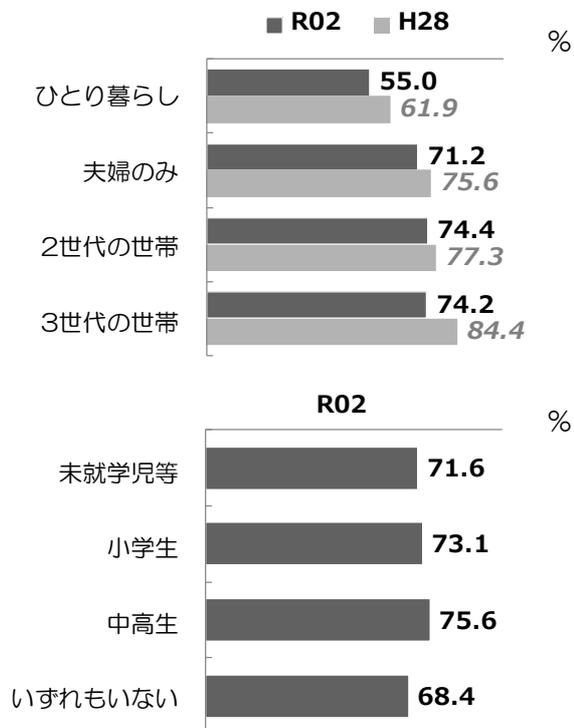
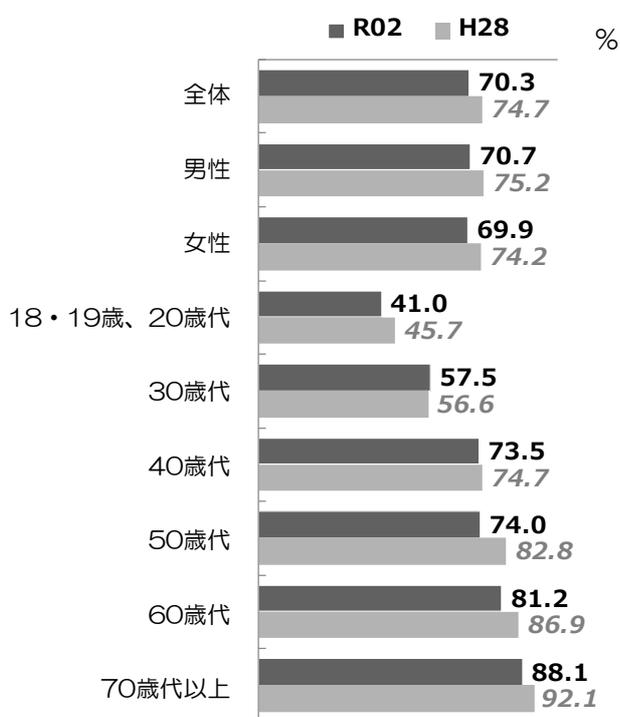


#### [ 港北区内に「住み続ける」 + 「たぶん住み続ける」の回答合計の割合

×性別 ×年代 ×世帯構成 ×同居家族]

性別/年代別

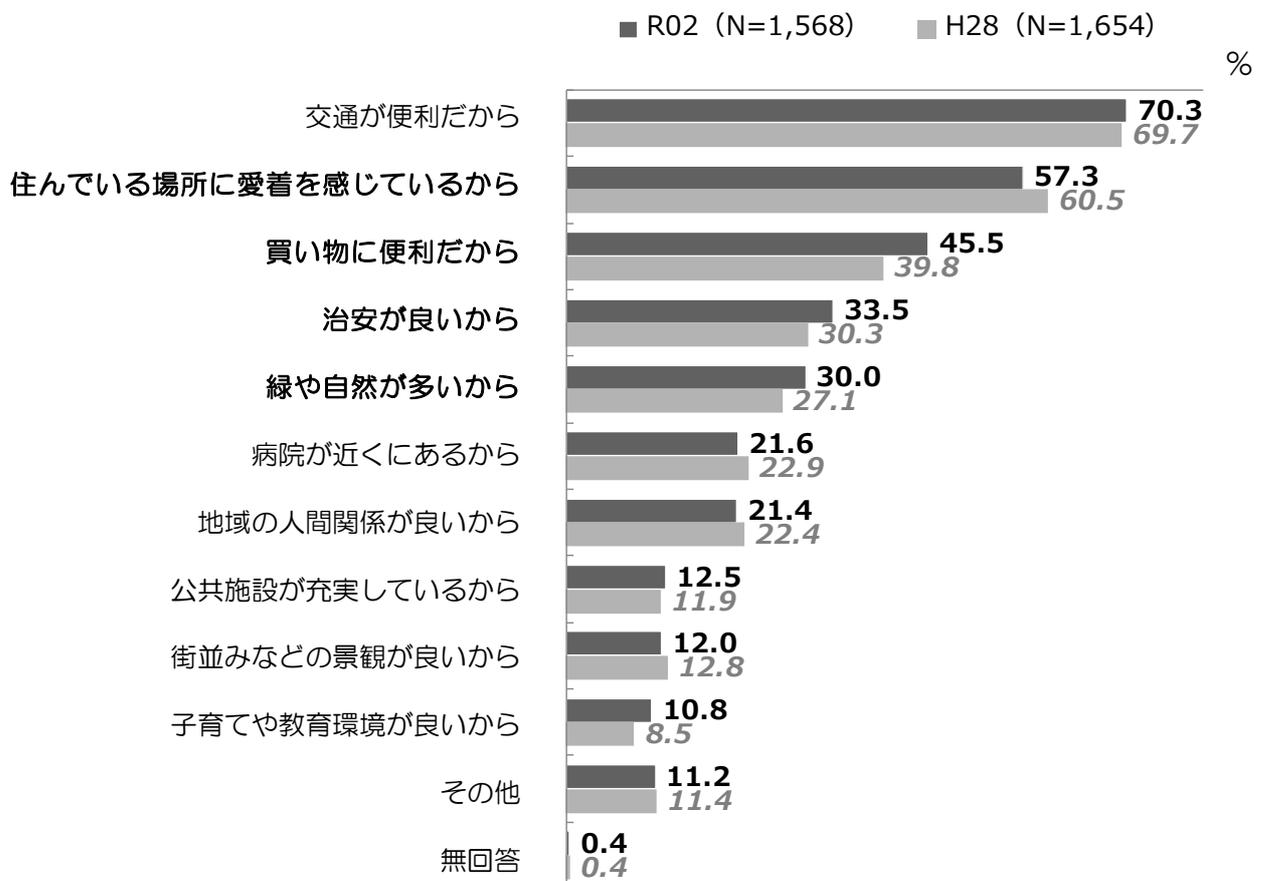
世帯構成別/同居家族別



【居住継続意向理由】（問2-1）（問2＝「1.住み続ける」＋「2.たぶん住み続ける」ベース）

- ・港北区に住み続けようと思う理由は、「交通が便利だから」の70.3%が最も多く、「住んでいる場所に愛着を感じているから」の57.3%、「買い物に便利だから」の45.5%がそれに次いでいます。
- ・前回調査と比較すると、概ね同様の傾向です。増加しているのは「買い物に便利だから」（前回比+5.7ポイント）、次いで、「治安が良いから」（同+3.2ポイント）、「緑や自然が多いから」（同+2.9ポイント）です。一方で、「住んでいる場所に愛着を感じているから」（同-3.2ポイント）については、減少しています。

＜問2で「1.住み続ける」「2.たぶん住み続ける」とお答えの方＞  
 問2-1. 港北区内に住み続けようと思う理由についてお選びください。（〇はいくつでも） [N=1,568]

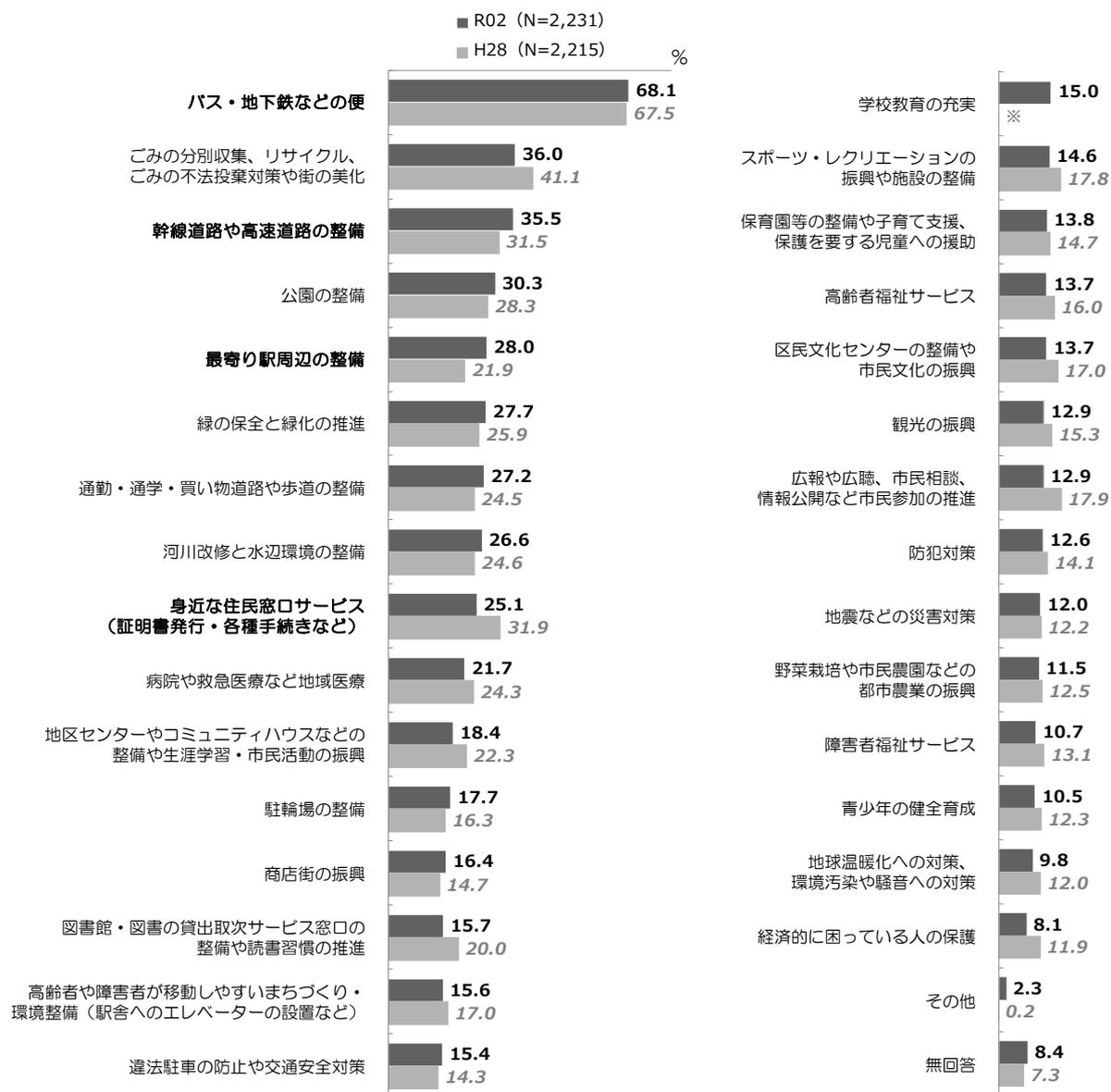


## (2) 公共サービスについて

### 【満足している公共サービス】（問3-1）

- 満足している公共サービスは、「バス・地下鉄などの便」の68.1%が最も多く、交通に関する項目を中心に満足しているサービスとなっています。
- 前回調査と比較すると、増加しているのは「最寄り駅周辺の整備」（前回比+6.1ポイント）、次いで、「幹線道路や高速道路の整備」（同+4.0ポイント）です。一方で、「身近な住民窓口サービス」（同-6.8ポイント）は最も減少しています。

問3-1. あなたが、満足している公共サービスは何ですか。以下の1~31の項目の中からいくつでも選んで、回答欄の番号に○印をつけてください。（○はいくつでも）【N=2,231】

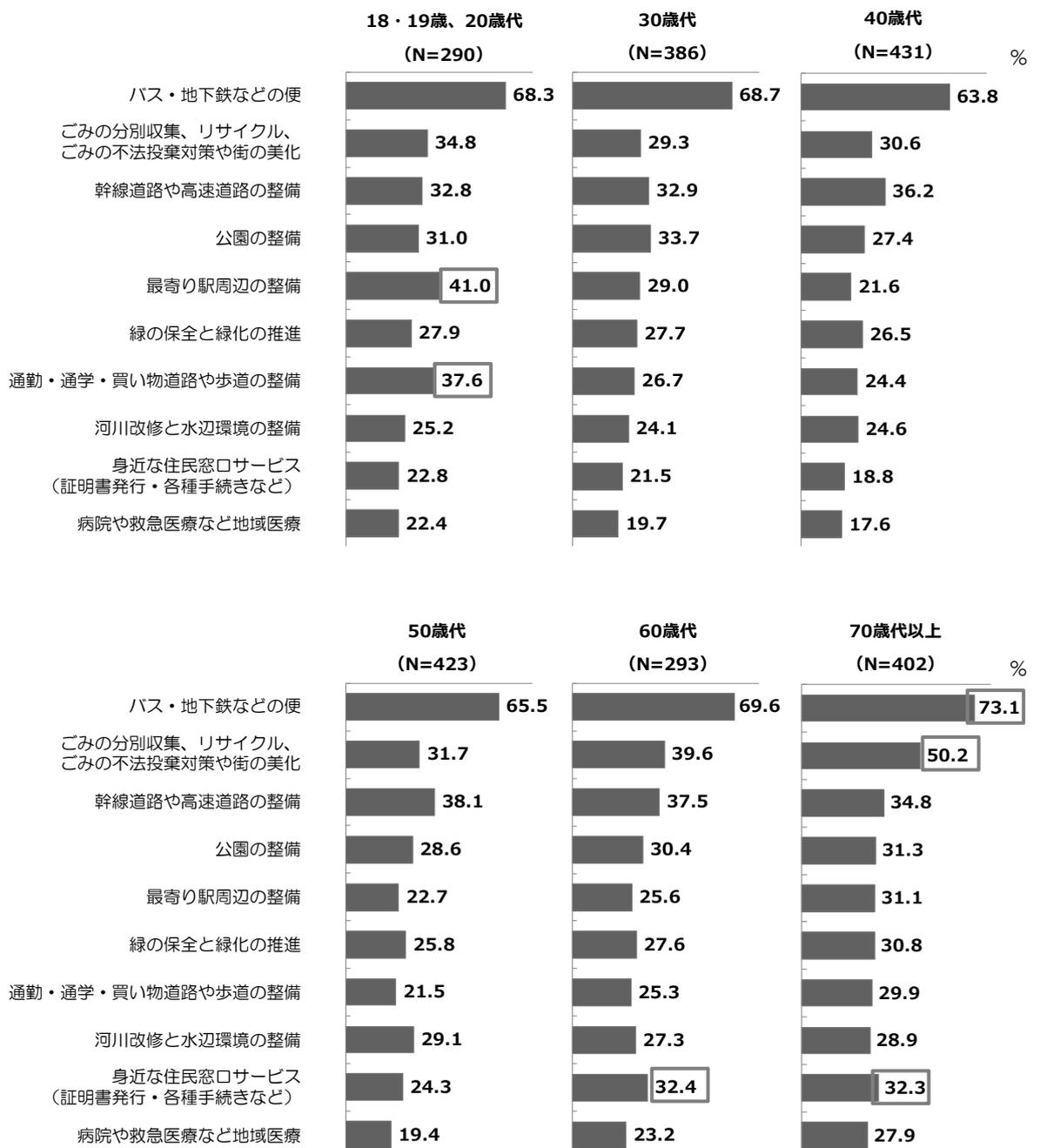


※の項目は、聴取を実施せず

[ 満足している公共サービス（問3-1） ×年代 ]

- 年代別でみると、すべての年代で「バス・地下鉄などの便」が最も多くなっています。
- 18・19歳、20歳代が他の年代と比べて多いものは、「最寄り駅周辺の整備」（41.0%）と「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」（37.6%）となっており、特に40歳代、50歳代との差が大きくなっています。
- 70歳代以上が他の年代と比べて多いものは、「バス・地下鉄などの便」（73.1%）と「ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化」（50.2%）となっています。
- 「身近な住民窓口サービス」の60歳代（32.4%）と70歳代以上（32.3%）は、他の年代と比べて割合が多くなっています。

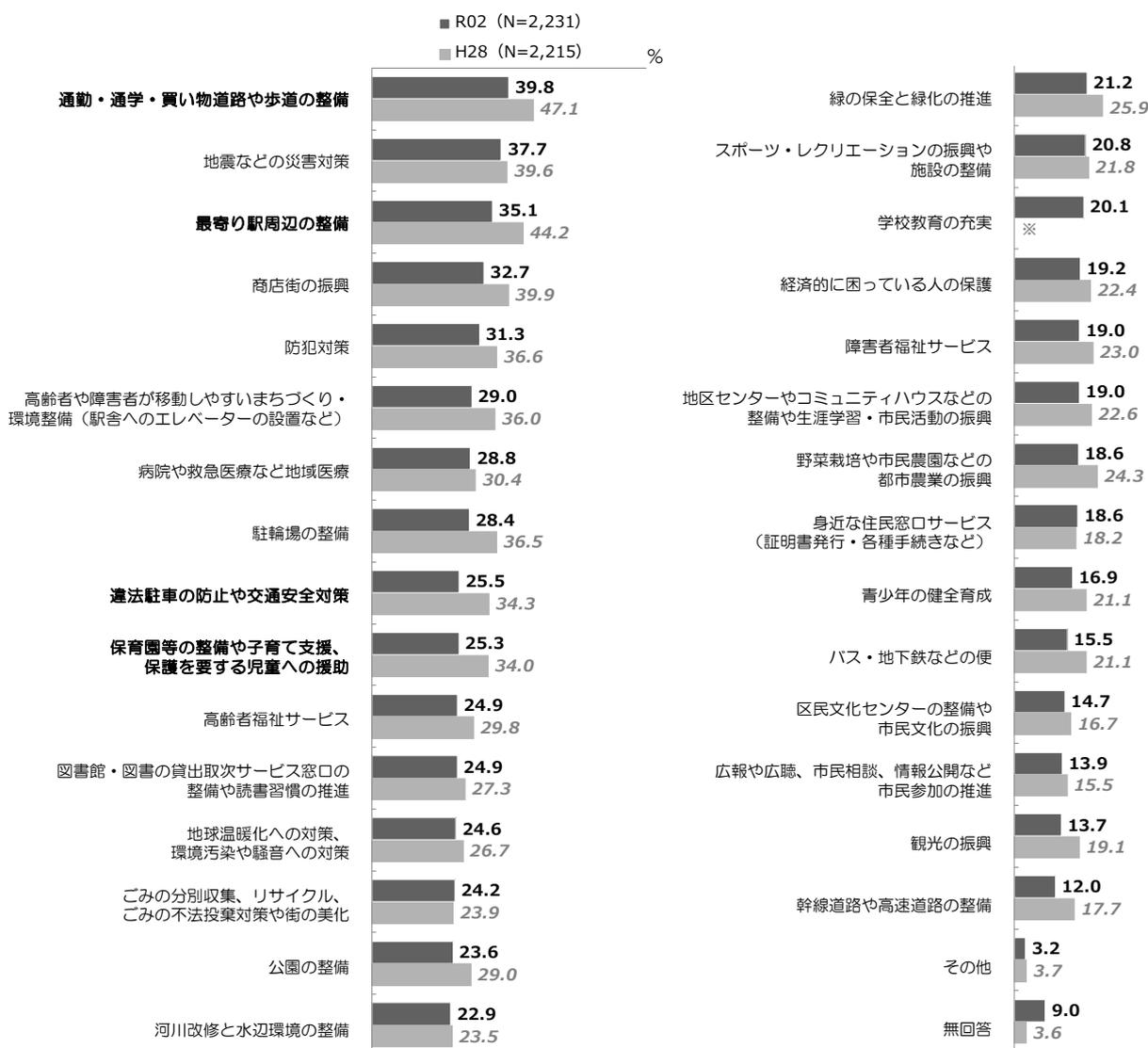
年代別  
上位10項目



【充実すべき公共サービス】（問3-2）

- 充実すべき公共サービスは、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」の39.8%が最も多くなっています。
- 前回調査と比較すると、順位はほぼ同様ですが、減少している項目が多くなっています。
- 前回調査と比較すると、「最寄り駅周辺の整備」（前回比-9.1ポイント）は最も減少し、「違法駐車防止や交通安全対策」（同-8.8ポイント）や「保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助」（同-8.7ポイント）が減少しています。また、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」（同-7.3ポイント）や「最寄り駅周辺の整備」（同-9.1ポイント）については、減少していますが、前回調査と同様に上位3つの理由の1項目であることに変わりはありません。

問3-2. あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。以下の1~31の項目の中からそれぞれいくつでも選んで、回答欄の番号に○印をつけてください。（○はいくつでも）【N=2,231】

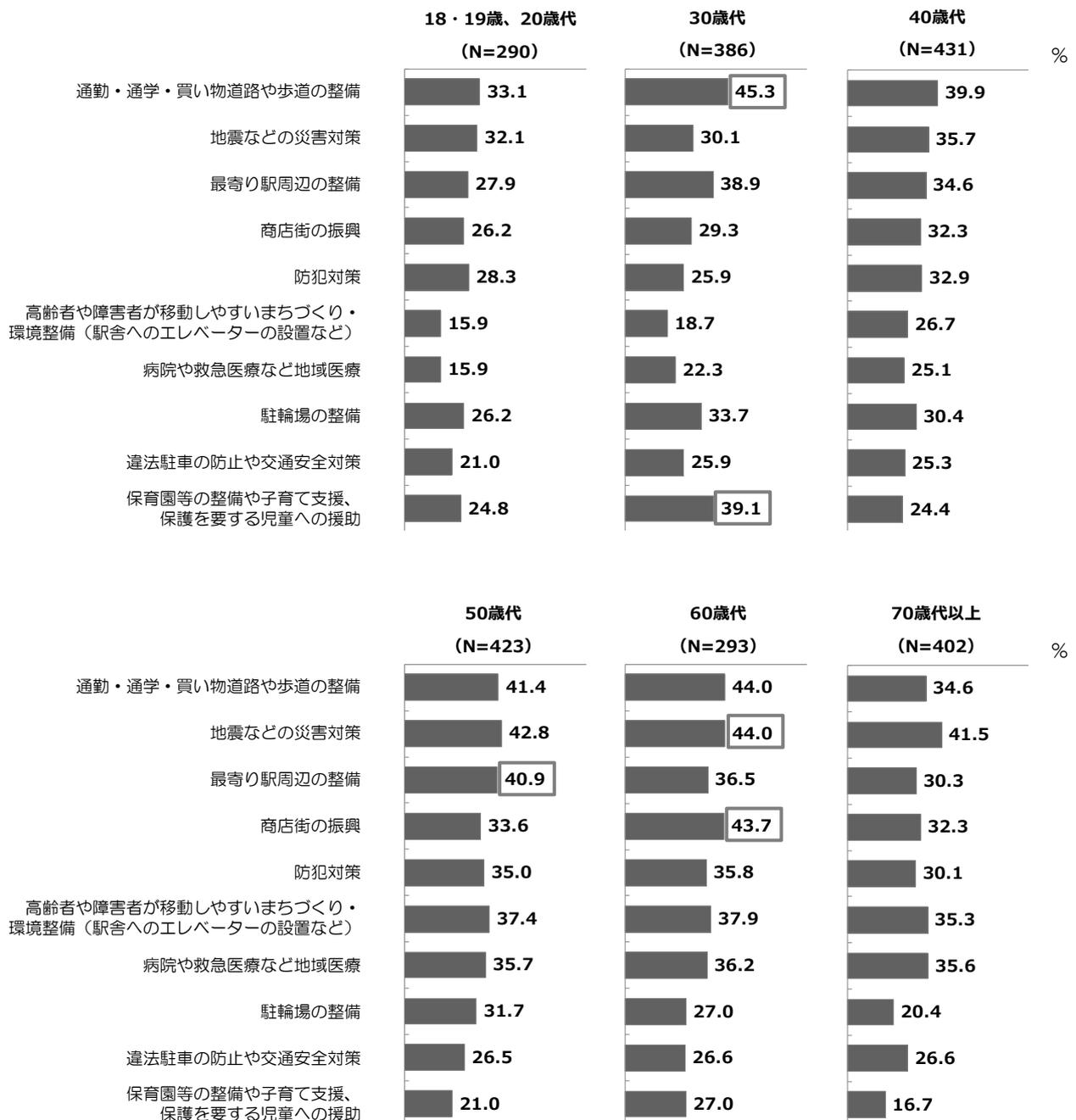


※の項目は、聴取を実施せず

[ 充実すべき公共サービス（問3-2） ×年代 ]

- 年代別でみると、他の年代と比べて多いものは、30歳代では「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」（45.3%）、「保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助」（39.1%）、50歳代では「最寄り駅周辺の整備」（40.9%）、60歳代では「地震などの災害対策」（44.0%）、「商店街の振興」（43.7%）となっています。
- 「高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備」や「病院や救急医療など地域医療」は、年代が上がるにつれて、割合が概ね多くなっています。

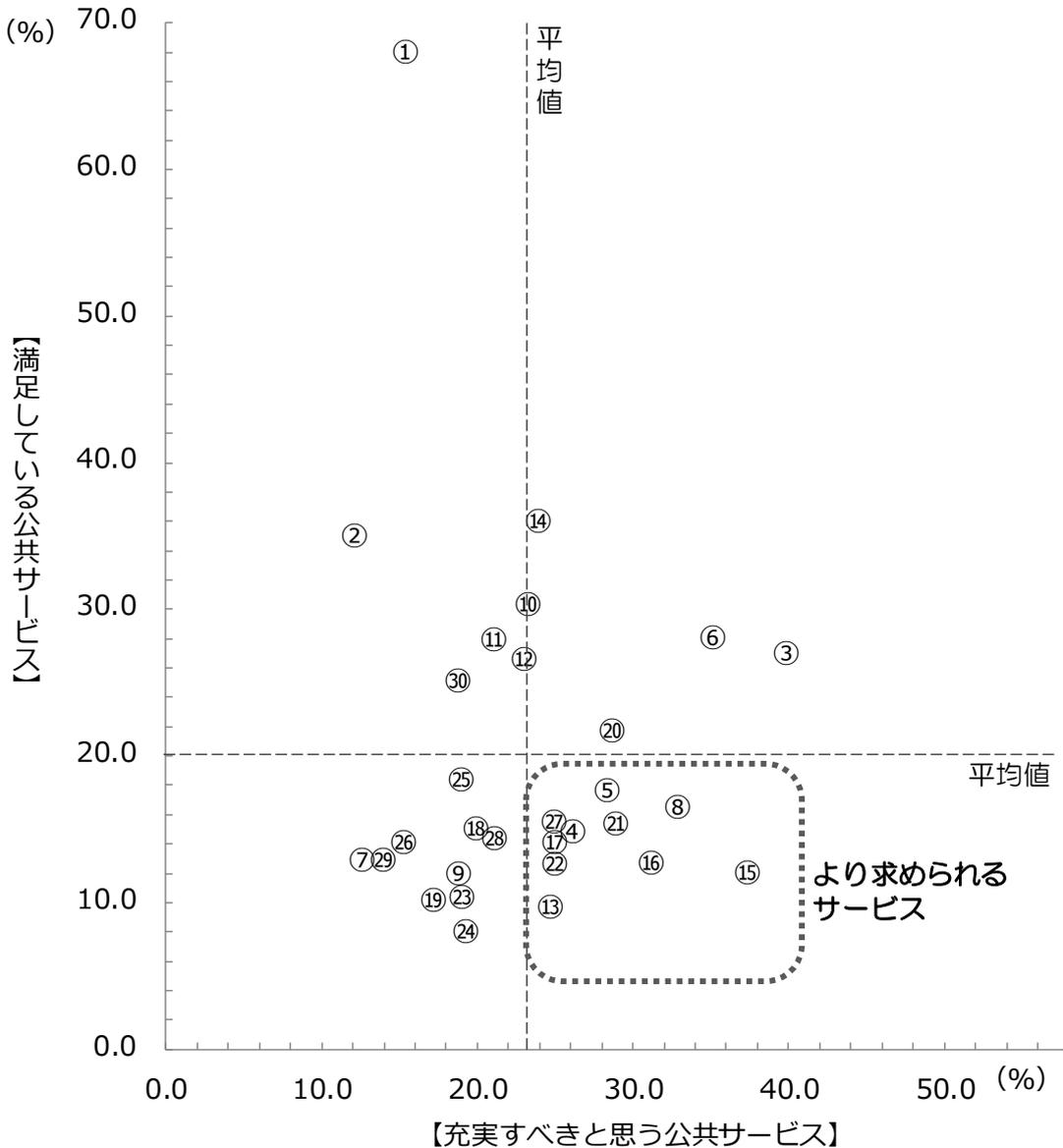
年代別  
上位10項目



[ 満足している公共サービス（問3-1）と充実すべき公共サービス（問3-2）の関係 ]

- 「満足している公共サービス」と「充実すべき公共サービス」の関係を散布図で表すと、以下のとおりとなっています。それぞれの項目の平均値は点線で表しています。
- 右下の部分（「⑮地震などの災害対策」含め 10 項目）がより求められるサービスと言えます。

「満足している公共サービス」と「充実すべき公共サービス」の関係



No. カテゴリー名

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① バス・地下鉄などの便</li> <li>② 幹線道路や高速道路の整備</li> <li>③ 通勤・通学・買い物道路や歩道の整備</li> <li>④ 違法駐車防止や交通安全対策</li> <li>⑤ 駐輪場の整備</li> <li>⑥ 最寄り駅周辺の整備</li> <li>⑦ 観光の振興</li> <li>⑧ 商店街の振興</li> <li>⑨ 野菜栽培や市民農園などの都市農業の振興</li> <li>⑩ 公園の整備</li> <li>⑪ 緑の保全と緑化の推進</li> <li>⑫ 河川改修と水辺環境の整備</li> <li>⑬ 地球温暖化への対策、環境汚染や騒音への対策</li> <li>⑭ ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化</li> <li>⑮ 地震などの災害対策</li> <li>⑯ 防犯対策</li> <li>⑰ 保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>⑱ 学校教育の充実</li> <li>⑲ 青少年の健全育成</li> <li>⑳ 病院や救急医療など地域医療</li> <li>㉑ 高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備（駅舎へのエレベーターの設置など）</li> <li>㉒ 高齢者福祉サービス</li> <li>㉓ 障害者福祉サービス</li> <li>㉔ 経済的に困っている人の保護</li> <li>㉕ 地区センターやコミュニティハウスなどの整備や生涯学習・市民活動の振興</li> <li>㉖ 区民文化センターの整備や市民文化の振興</li> <li>㉗ 図書館・図書の貸出取次サービス</li> <li>㉘ 窓口の整備や読書習慣の推進</li> <li>㉙ スポーツ・レクリエーションの振興や施設の整備</li> <li>㉚ 広報や広聴、市民相談、情報公開など市民参加の推進</li> <li>㉛ 身近な住民窓口サービス</li> <li>㉜ （証明書発行・各種手続きなど）</li> </ul> |
|--|---|

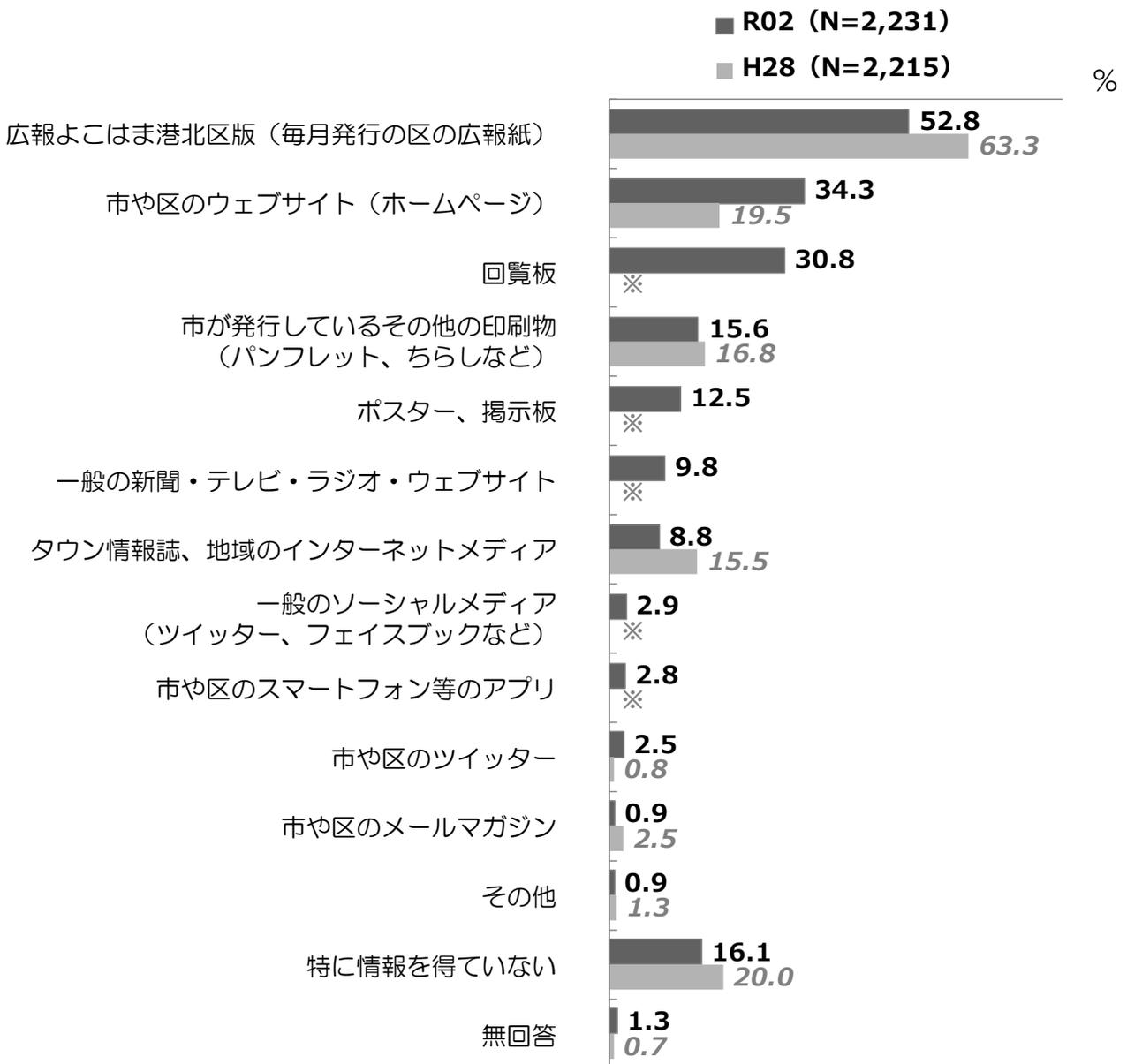
※区割りのラインは、それぞれの項目の平均値です。

(3) 区役所の情報発信について

【区役所に関する情報の主な情報源】(問4)

- 区役所に関する情報の主な情報源をみると、「広報よこはま港北区版」が52.8%と最も多く、「市や区のウェブサイト」の34.3%、「回覧板」の30.8%がそれに次いでおり、行政や地域が発信する身近な情報源の割合が多くなっています。
- 前回調査と比べると、「広報よこはま港北区版」(前回比-10.5ポイント)が減少し、「市や区のウェブサイト」(同+14.8ポイント)が増加しています。

問4. あなたは、区役所に関する情報を主に何から得ていますか。(〇は3つまで) [N=2,231]



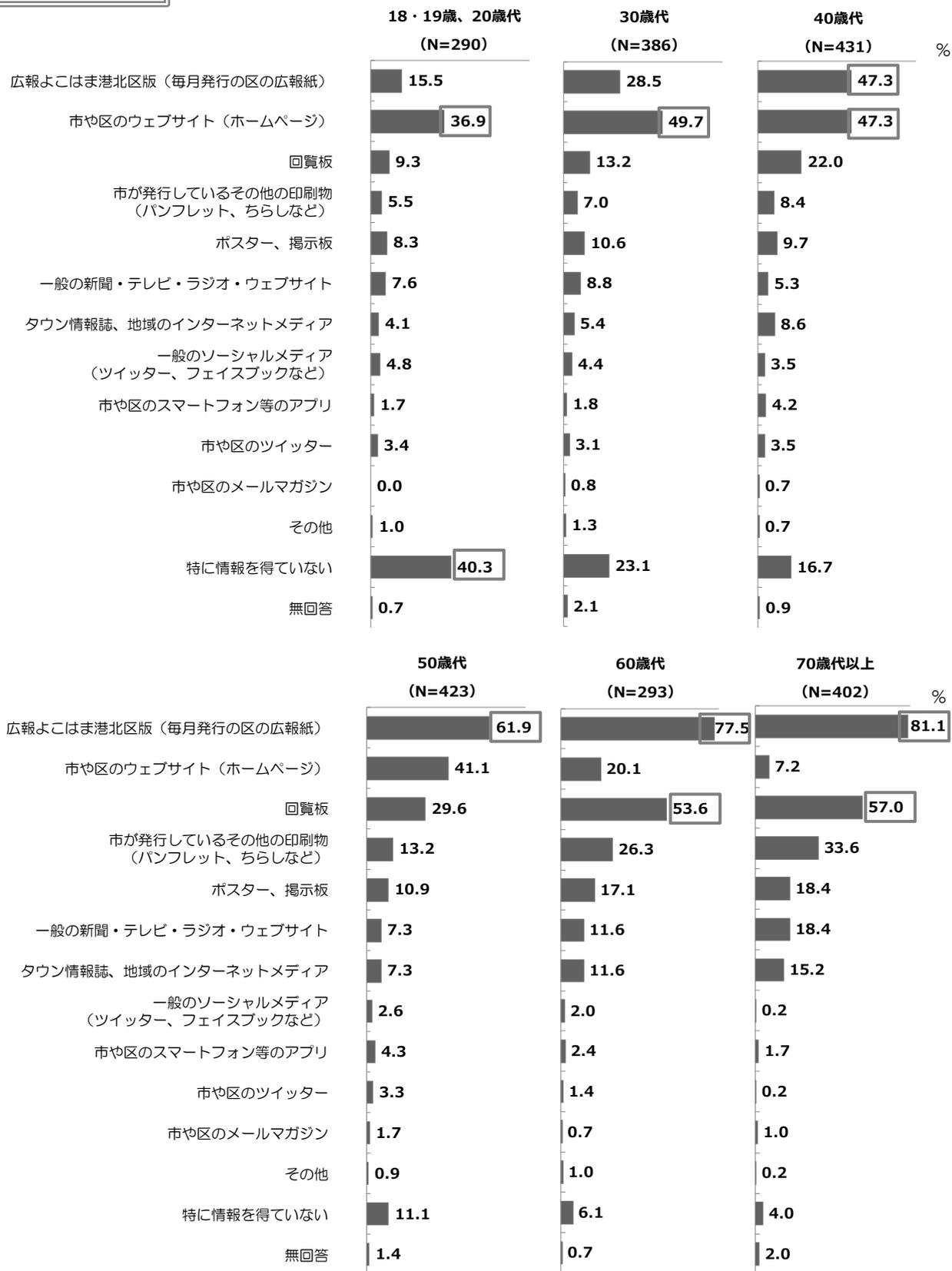
※の項目は、聴取を実施せず

(注) 平成28年度調査では、一部の項目の表現が異なります。

[ 区役所に関する情報の主な情報源（問4）×年代 ]

- 年代別でみると、60歳代、70歳代以上では「広報よこはま港北区版」と「回覧板」が多く、年代が下がるにつれて「市や区のウェブサイト」が概ね多くなっており、30歳代では「広報よこはま港北区版」と逆転しています。
- 「特に情報を得ていない」は、18・19歳、20歳代が40.3%と最も多くなっています。

年代別



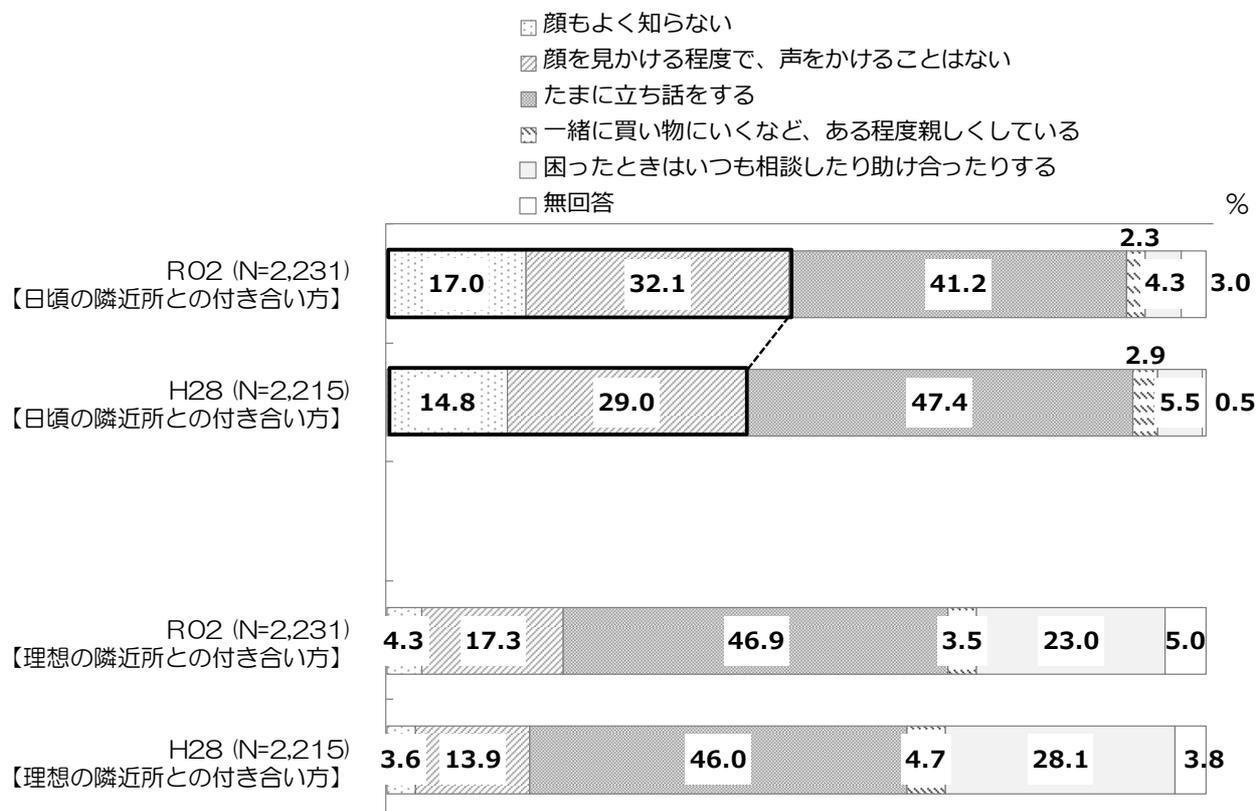
(4) 地域でのつながり・助け合いなどについて

【日頃の隣近所との付き合い方】(問5-1)・【理想の隣近所との付き合い方】(問5-2)

- 日頃の隣近所との付き合い方は、前回調査と比べると、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の割合が微増して、「たまに立ち話をする」の割合が少なくなっています。
- 理想の隣近所との付き合い方は「たまに立ち話をする」が46.9%で最も多くなっています。日頃の隣近所との付き合い方と比べると、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」が2割強で最も増加し、普段からコミュニケーションが取れ、さらに困った時は相談できる関係を望む割合が多くなっています。

問5-1. あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。(〇は1つだけ)  
【N=2,231】

問5-2. あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いますか。(〇は1つだけ) 【N=2,231】

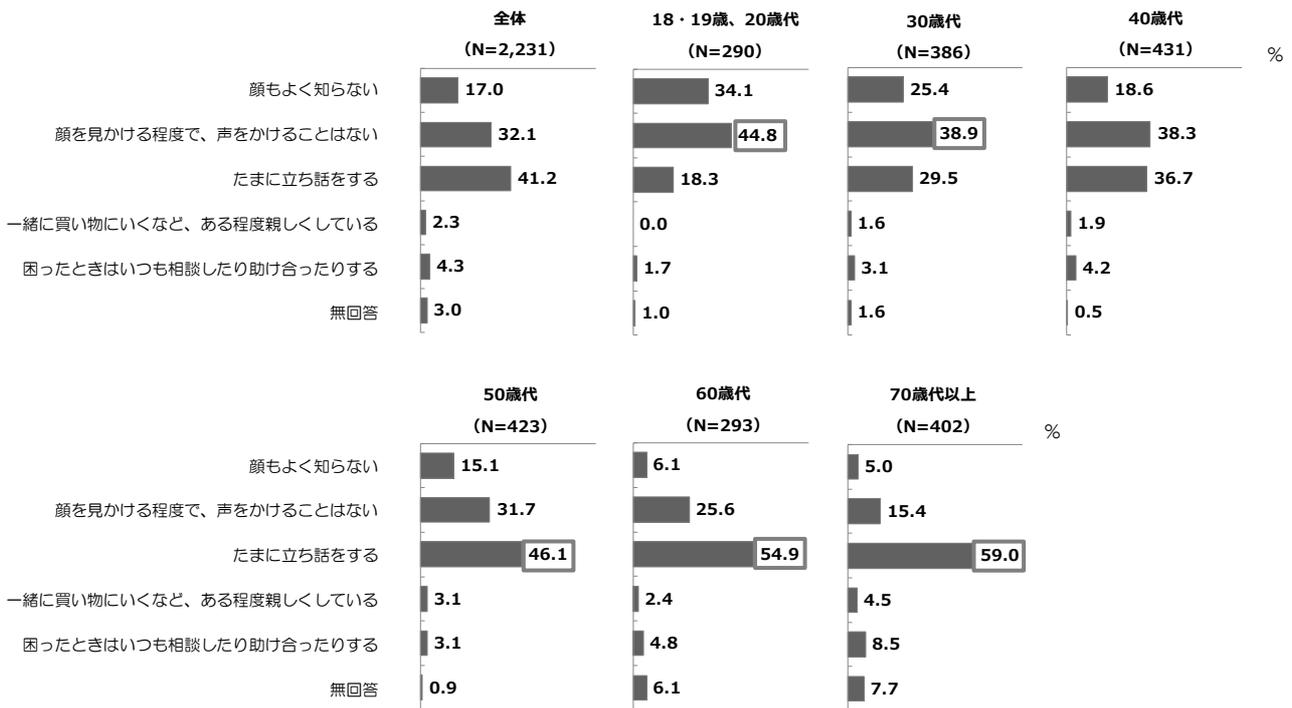


[ 日頃の隣近所との付き合い方（問 5-1）・理想の隣近所との付き合い方（問 5-2）×年代 ]

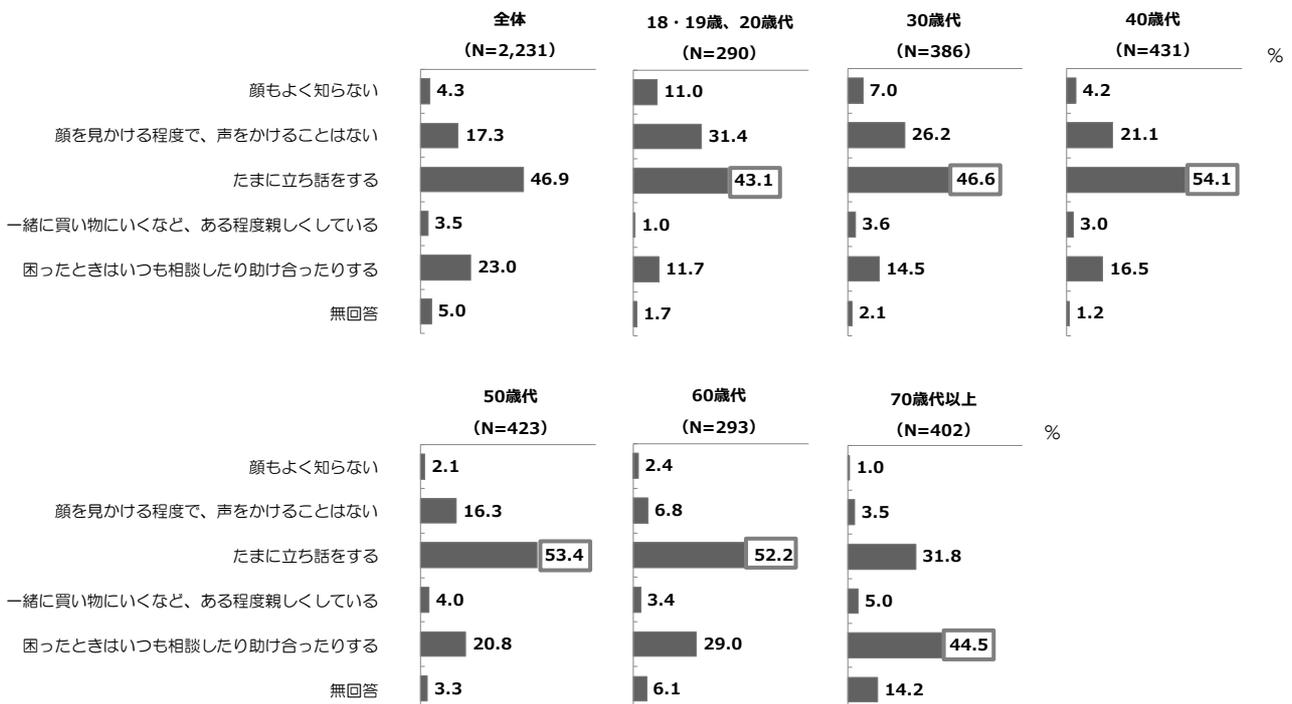
- 日頃の隣近所との付き合い方を年代別で見ると、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」は年代が上がるにつれて少なくなり、「たまに立ち話をする」は年代が上がるにつれて多くなっています。
- 理想の隣近所との付き合い方を年代別で見ると、「たまに立ち話をする」は 70 歳代以上を除いた全ての年代で最も割合が多くなっています。また、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は年代が上がるにつれて多くなっています。

年代別

【日頃の隣近所との付き合い方】（問 5-1）



【理想の隣近所との付き合い方】（問 5-2）



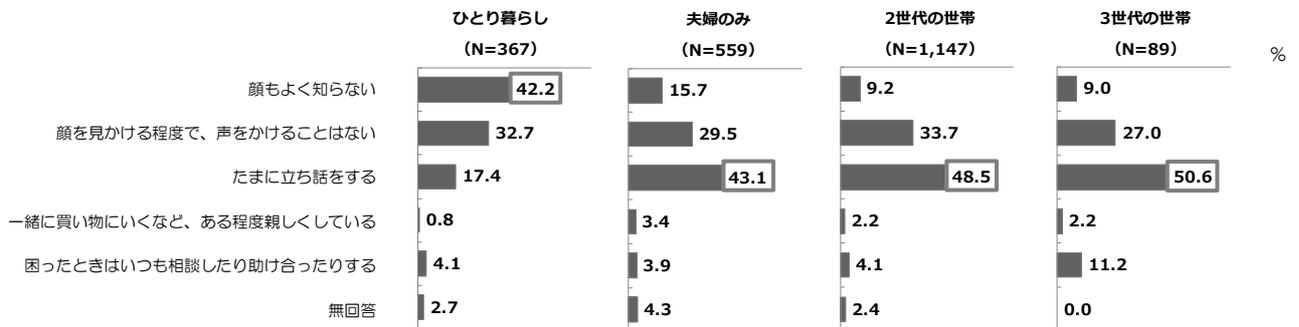
[ 日頃の隣近所との付き合い方（問 5-1） ・ 理想の隣近所との付き合い方（問 5-2）

×世帯構成 ]

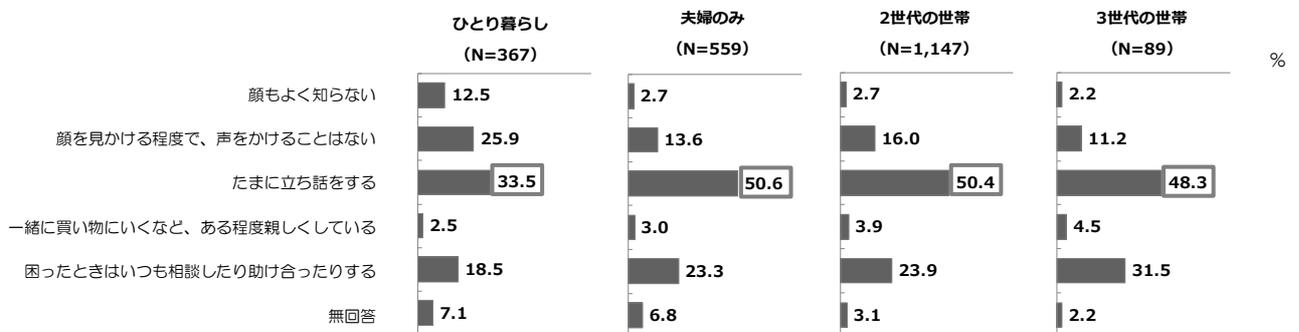
- 日頃の隣近所との付き合い方を世帯構成別で見ると、ひとり暮らしでは「顔もよく知らない」（42.2%）が最も多く、それ以外の世帯構成では「たまに立ち話をする」が最も多くなっています。
- 理想の隣近所との付き合い方を世帯構成別で見ると、全ての世帯構成で「たまに立ち話をする」が最も割合が多くなっています。また、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は多世代であるほうが割合が多くなっています。

世帯構成別

【日頃の隣近所との付き合い方】（問 5-1）



【理想の隣近所との付き合い方】（問 5-2）

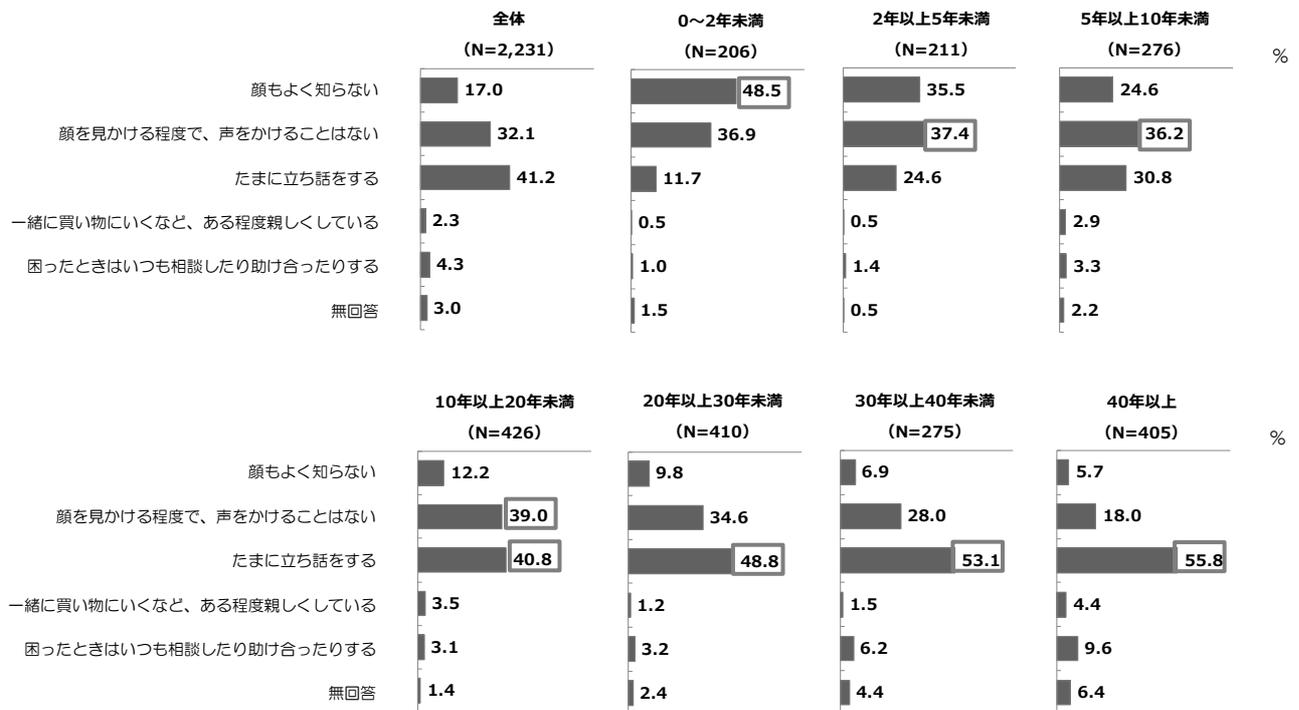


[ 日頃の隣近所との付き合い方（問 5-1）・理想の隣近所との付き合い方（問 5-2）×居住歴 ]

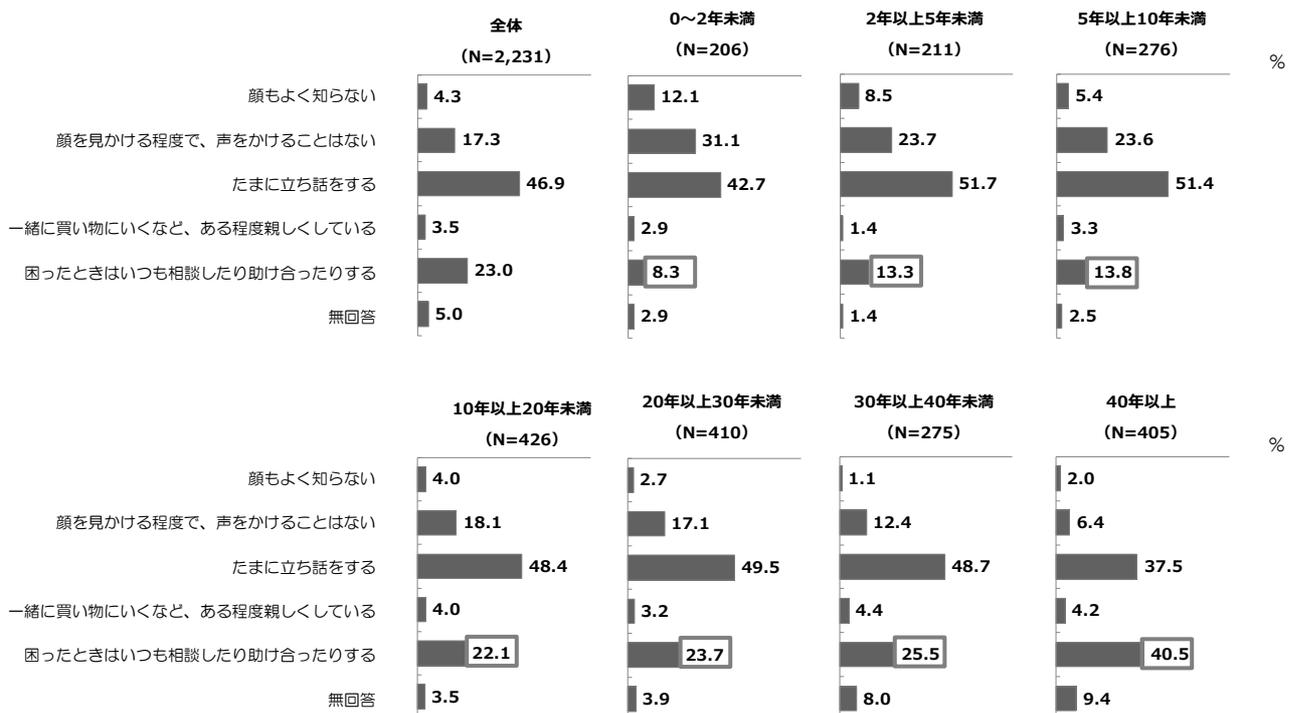
- 日頃の隣近所との付き合い方を居住歴別でみると、「顔もよく知らない」は居住年数が長くなるにつれて少なく、「たまに立ち話をする」は居住年数が長くなるにつれて多くなっています。
- 理想の隣近所との付き合い方を居住歴別でみると、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は居住年数が長くなるにつれて割合が多くなっています。

居住歴別

【日頃の隣近所との付き合い方】（問 5-1）



【理想の隣近所との付き合い方】（問 5-2）

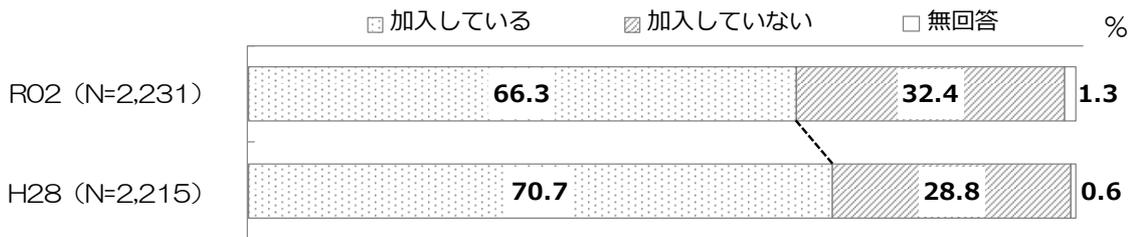


【自治会町内会への加入有無】（問 6）

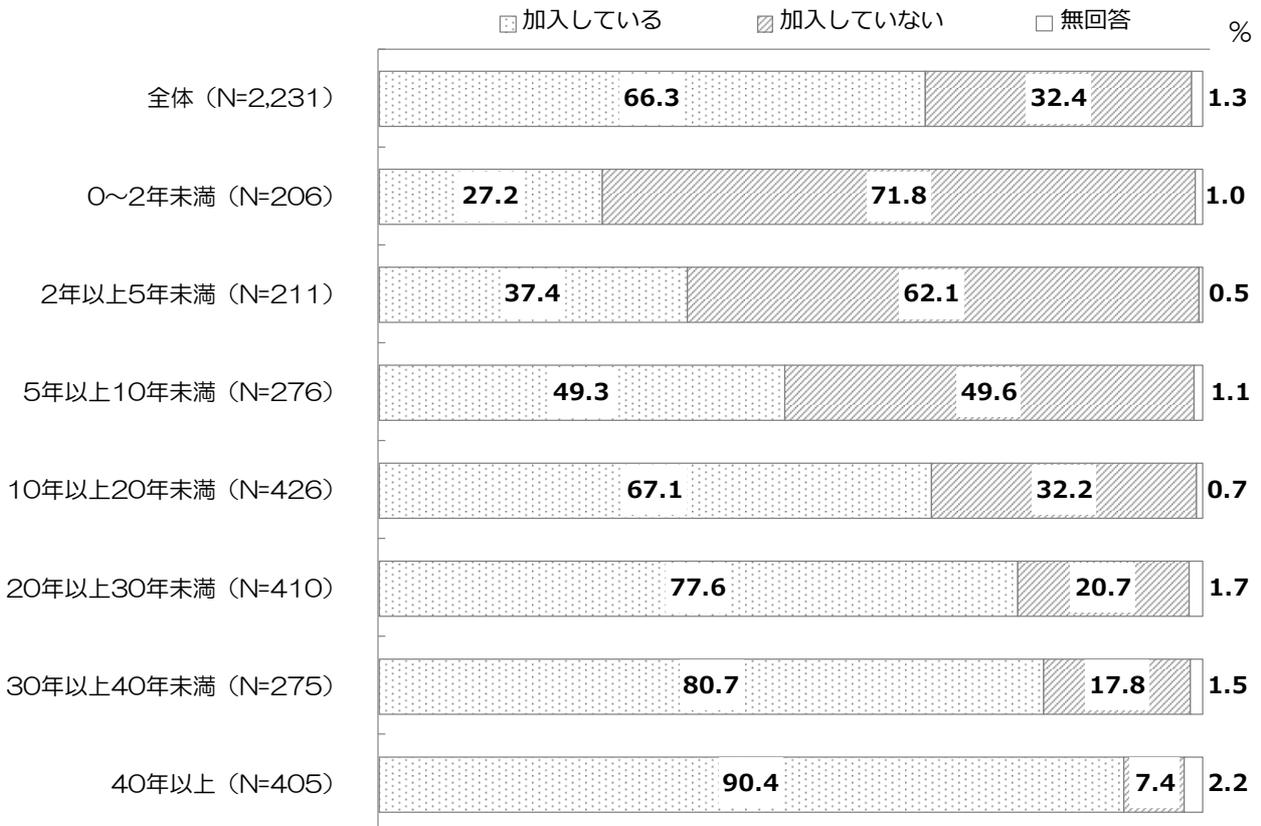
- 自治会町内会への加入をみると、「加入している」が66.3%で、経年で比較すると、前回調査（70.7%）から減少しています。
- 自治会町内会への加入を居住歴別でみると、「加入している」は40年以上が90.4%と最も多くなっています。また、居住年数が長くなるにつれて「加入している」の割合が多くなっています。

問 6. あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（〇は1つだけ） [N=2,231]

全体



居住歴別

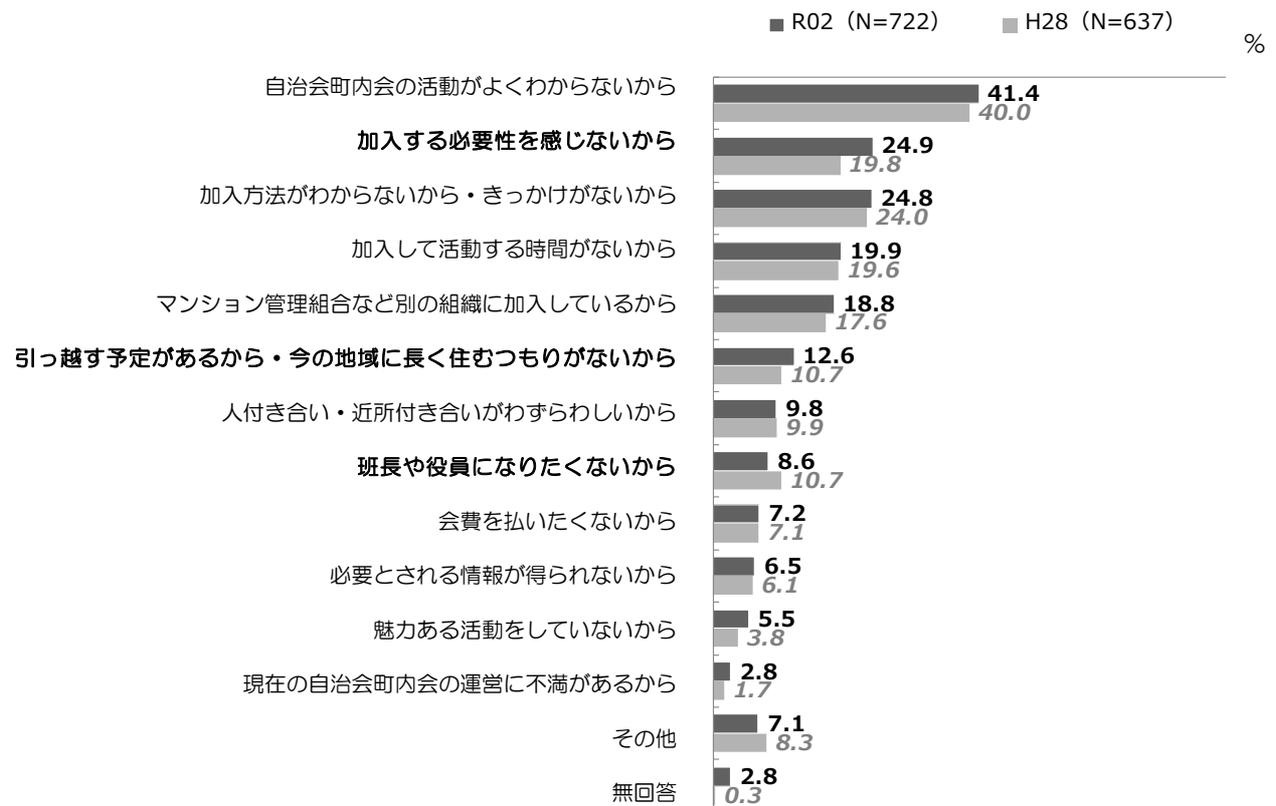


【自治会町内会への非加入理由】（問 6-1）（問 6＝「2.加入していない」ベース）

- 自治会町内会に加入しない理由は、「自治会町内会の活動がよくわからないから」の 41.4%が最も多く、「加入する必要性を感じないから」の 24.9%、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」の 24.8%がそれに次いでいます。
- 前回調査と比較すると、増加しているのは「加入する必要性を感じないから」（前回比+5.1 ポイント）、次いで、「引っ越す予定があるから・今の地域に長く住むつもりがないから」（同+1.9 ポイント）です。一方で、「班長や役員になりたくないから」（同-2.1 ポイント）は、減少しています。

＜問 6 で「2.加入していない」とお答えの方＞

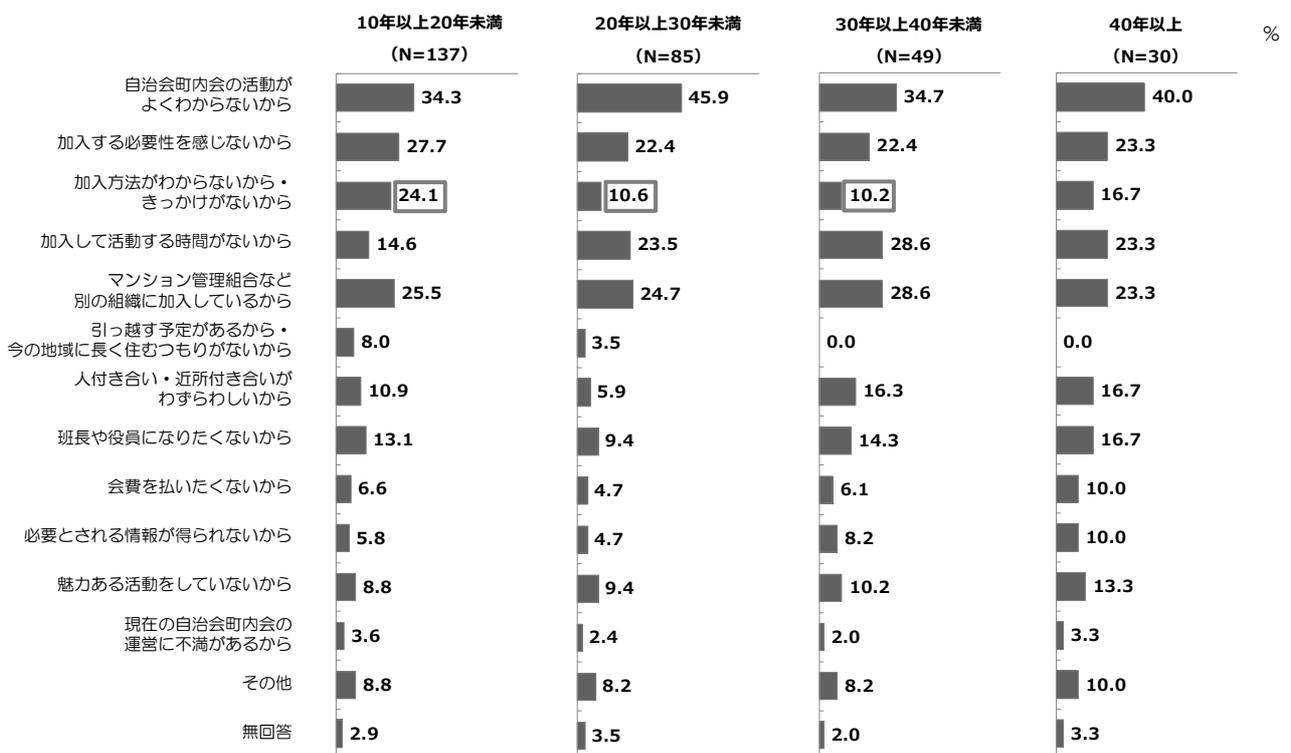
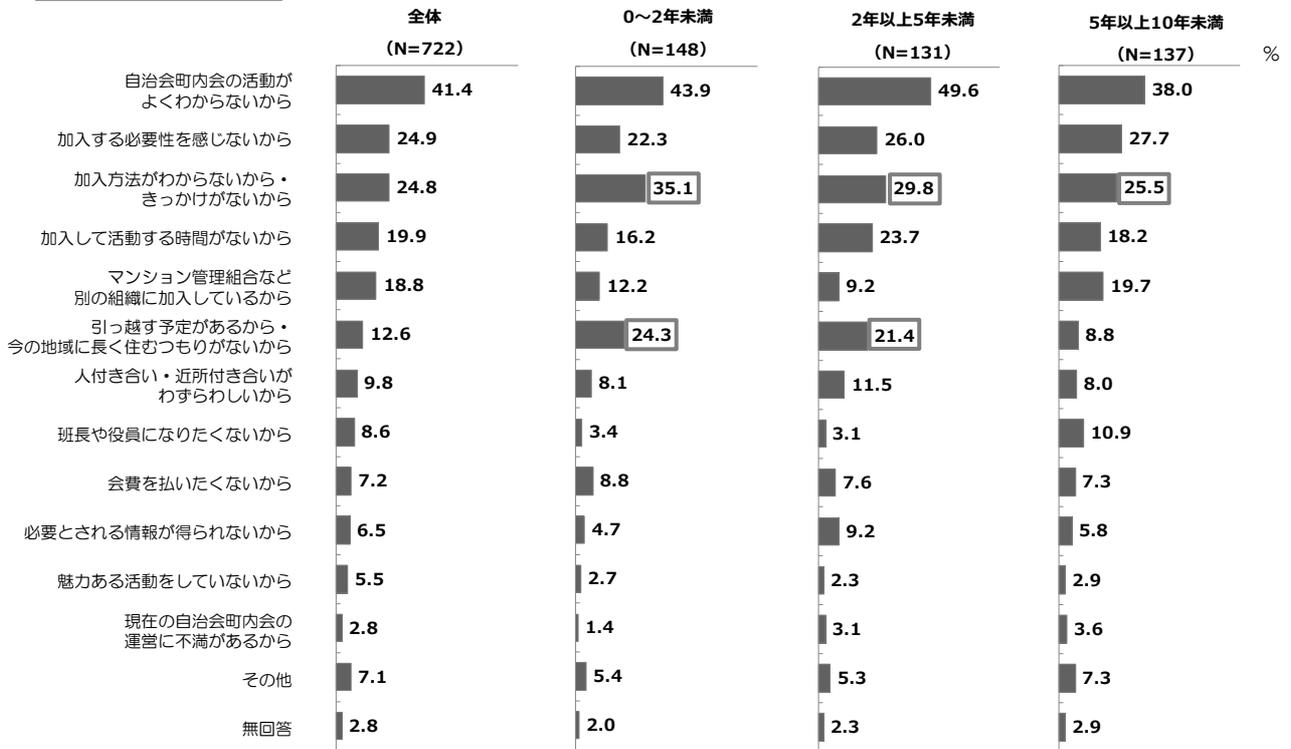
問 6-1. 自治会町内会に加入していない理由は何ですか。（〇は3つまで） [N=722]



[ 自治会町内会への非加入理由 ] (問 6-1) × 居住歴 ]

- 自治会町内会へ加入しない理由を居住歴別でみると、居住年数が短くなるにつれて「加入方法がわからないから・きっかけがないから」の割合が概ね多くなっています。
- 居住歴が5年未満の人は「引っ越す予定があるから・今の地域に長く住むつもりがないから」の割合が多くなっています。

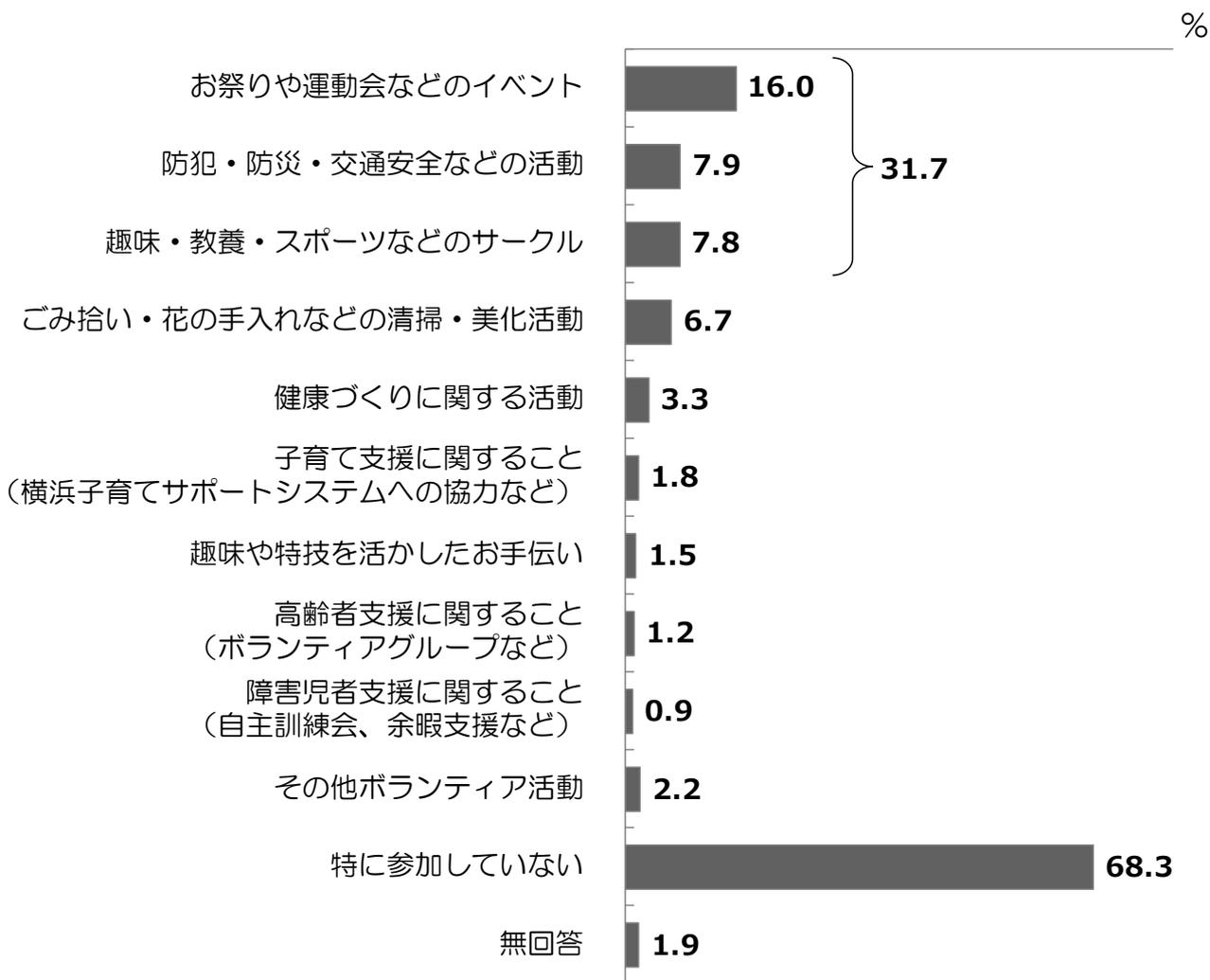
居住歴別



【地域活動への参加状況】（問7）

- 地域活動への参加状況を見ると、「特に参加していない」を除き、「お祭りや運動会などのイベント」が16.0%と最も多く、「防犯・防災・交通安全などの活動」の7.9%、「趣味・教養・スポーツなどのサークル」の7.8%がそれに次いでおり、幅広い年代で参加できる活動が上位となっています。
- 上位3項目の合計は、「特に参加していない」を除くと31.7%となり、全体の約3割を占めています。
- 「特に参加していない」は、約7割を占めています。

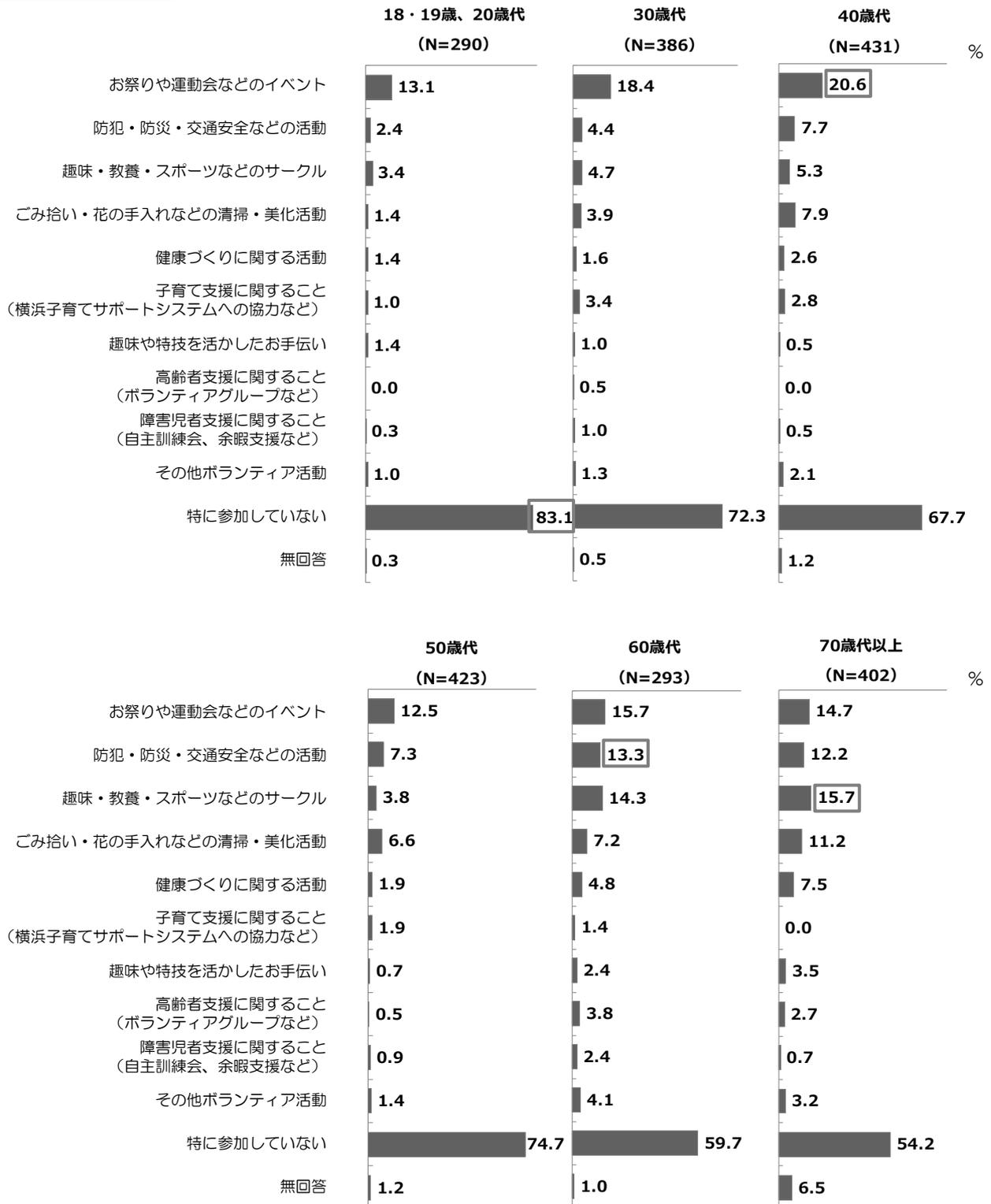
問7. あなたは、お住まいの地域でどのような活動に参加していますか。（〇はいくつでも）[N=2,231]



[ 地域活動への参加状況（問7）×年代 ]

- 地域活動への参加状況を年代別でみると、「お祭りや運動会などのイベント」は、20.6%で40歳代、「防犯・防災・交通安全などの活動」は、13.3%で60歳代、「趣味・教養・スポーツなどのサークル」は、15.7%で70歳代以上がそれぞれ最も多くなっています。
- 「特に参加していない」は、全ての年代で多い割合となり、18・19歳、20歳代の83.1%が最も多くなっています。

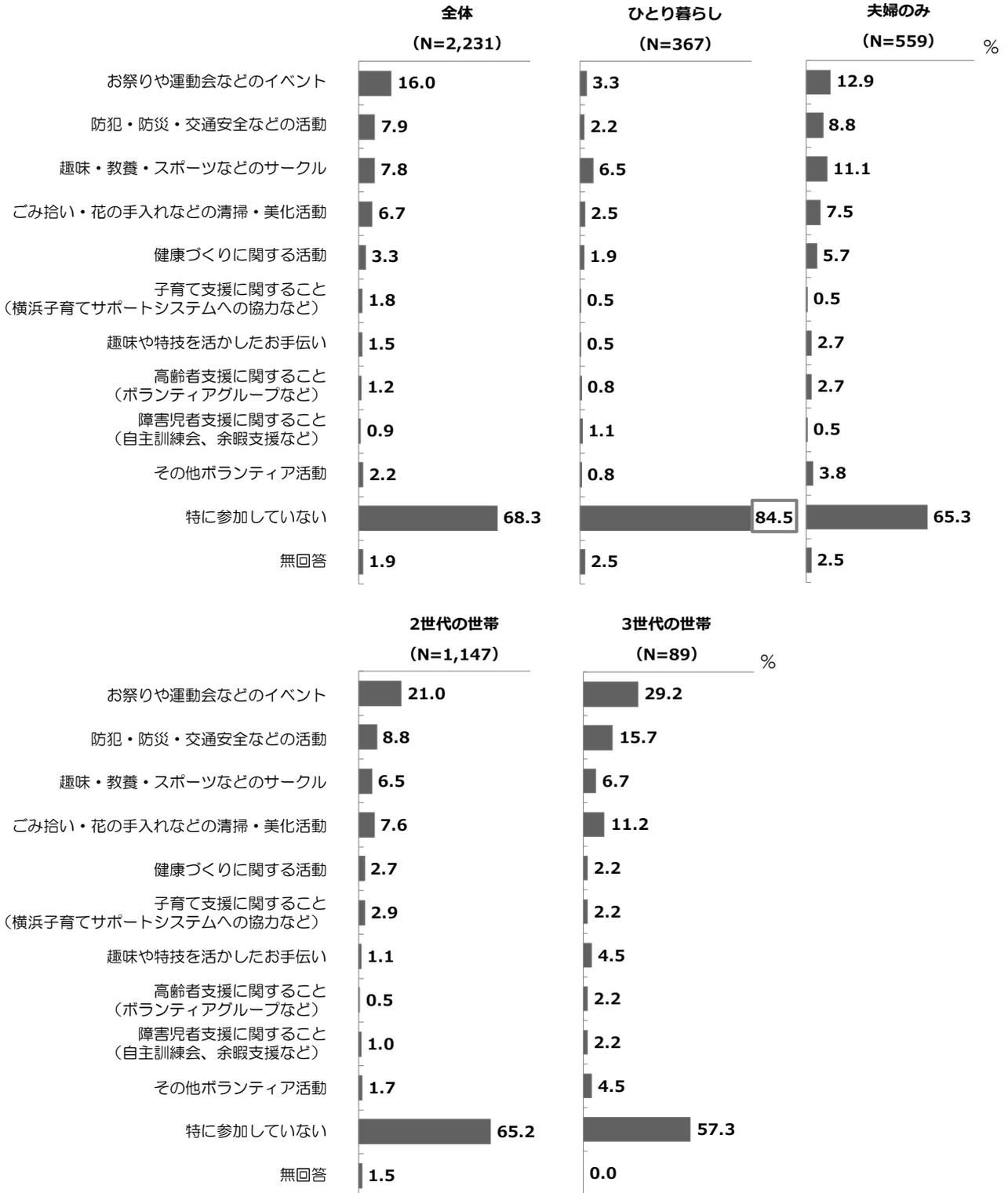
年代別



[ 地域活動への参加状況（問7）×世帯構成 ]

- 地域活動への参加状況を世帯構成別でみると、多世代であるほうが、地域活動への参加が概ね多くなっています。
- 「特に参加していない」は、ひとり暮らしの84.5%が最も多くなっています。

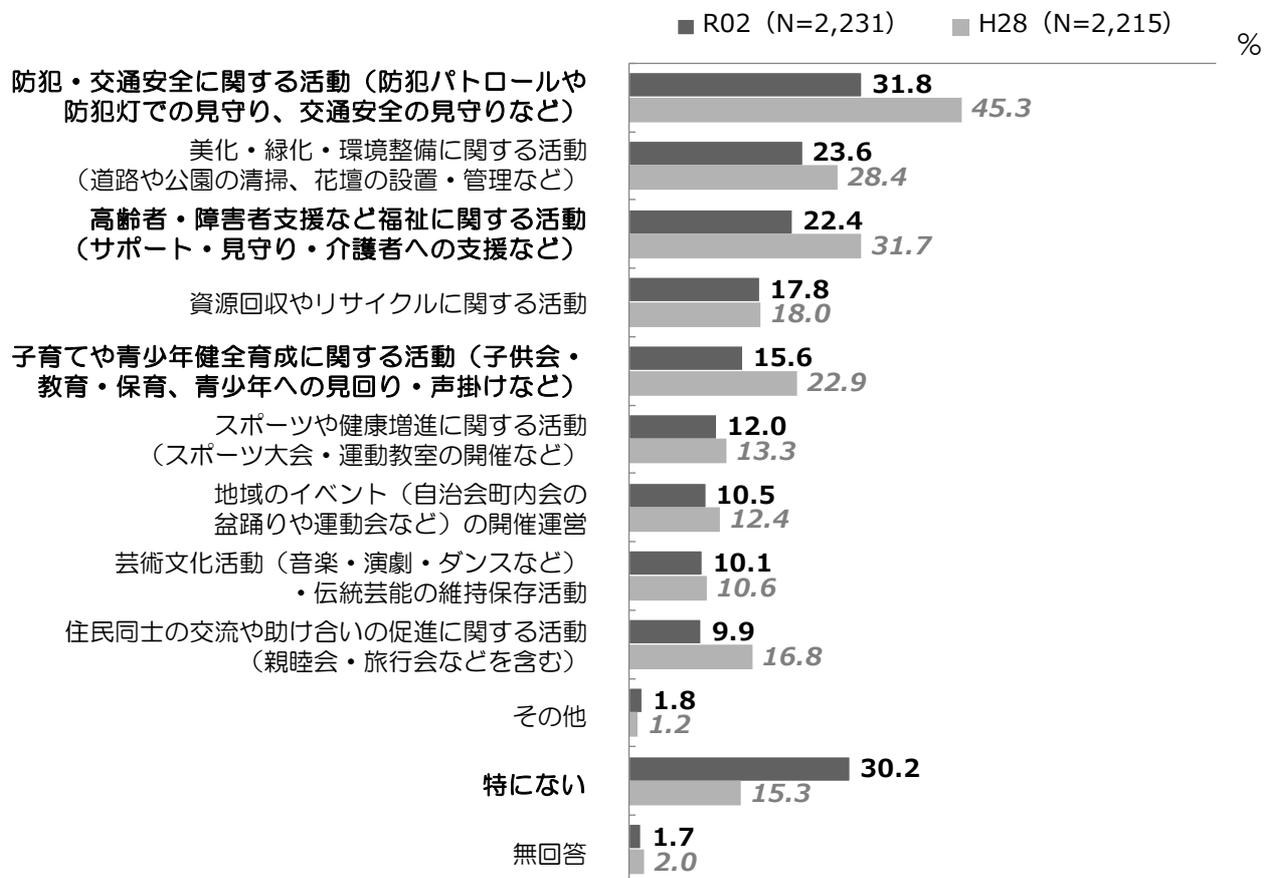
世帯構成別



【居住地域で力を入れて欲しい地域活動】（問 8）

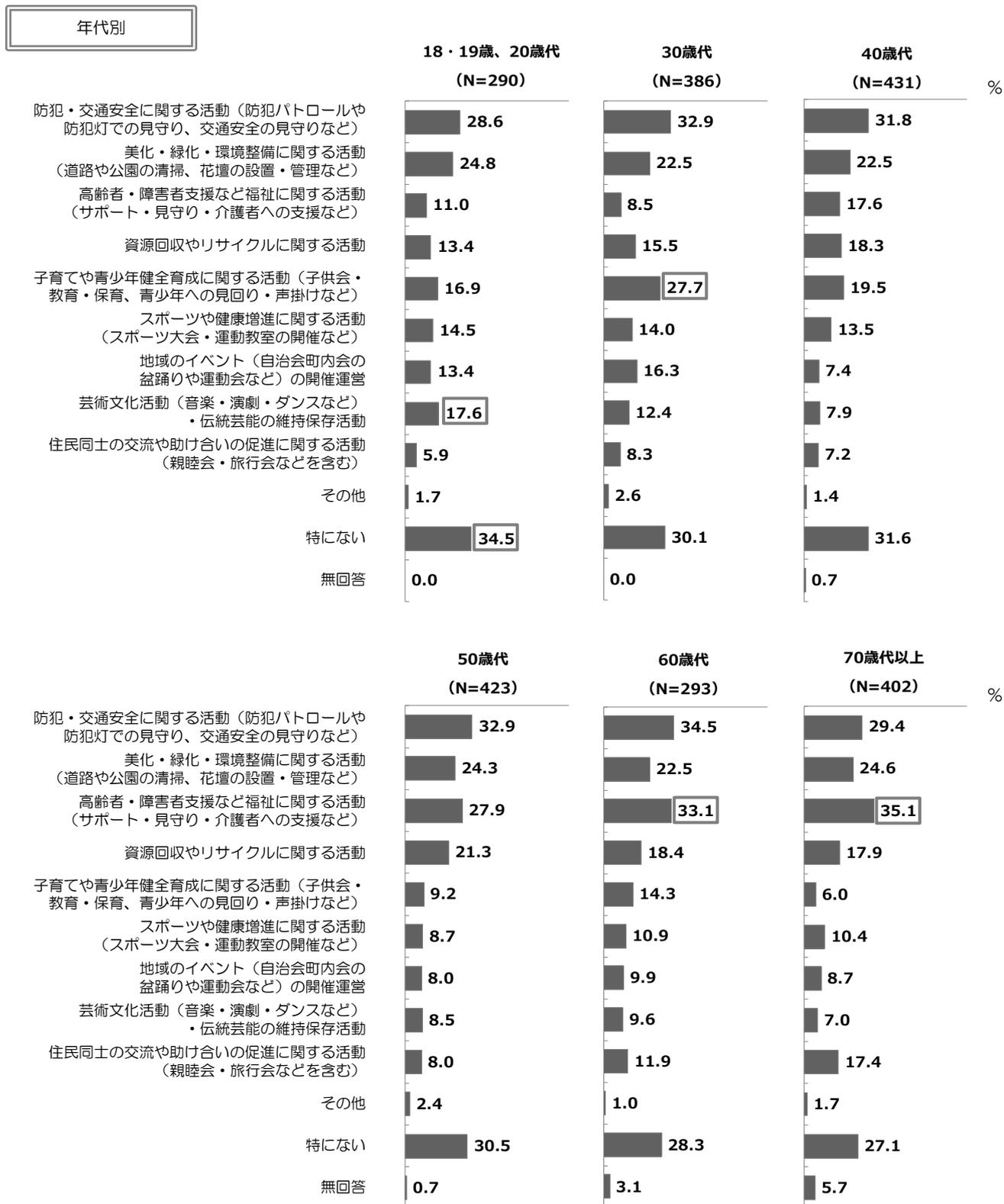
- 居住地域で力を入れて欲しい地域活動をみると、「防犯・交通安全に関する活動」の31.8%が最も多く、「美化・緑化・環境整備に関する活動」の23.6%、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」の22.4%がそれに次いでいます。
- 前回調査と比較すると、全体的に減少しており、「防犯・交通安全に関する活動」（前回比-13.5ポイント）、次いで、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」（同-9.3ポイント）、「子育てや青少年健全育成に関する活動」（同-7.3ポイント）が多く減少しています。一方で、「特にない」（同+14.9ポイント）は増加しています。

問 8. 今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも） [N=2,231]



[ 居住地域で力を入れて欲しい地域活動（問 8）×年代 ]

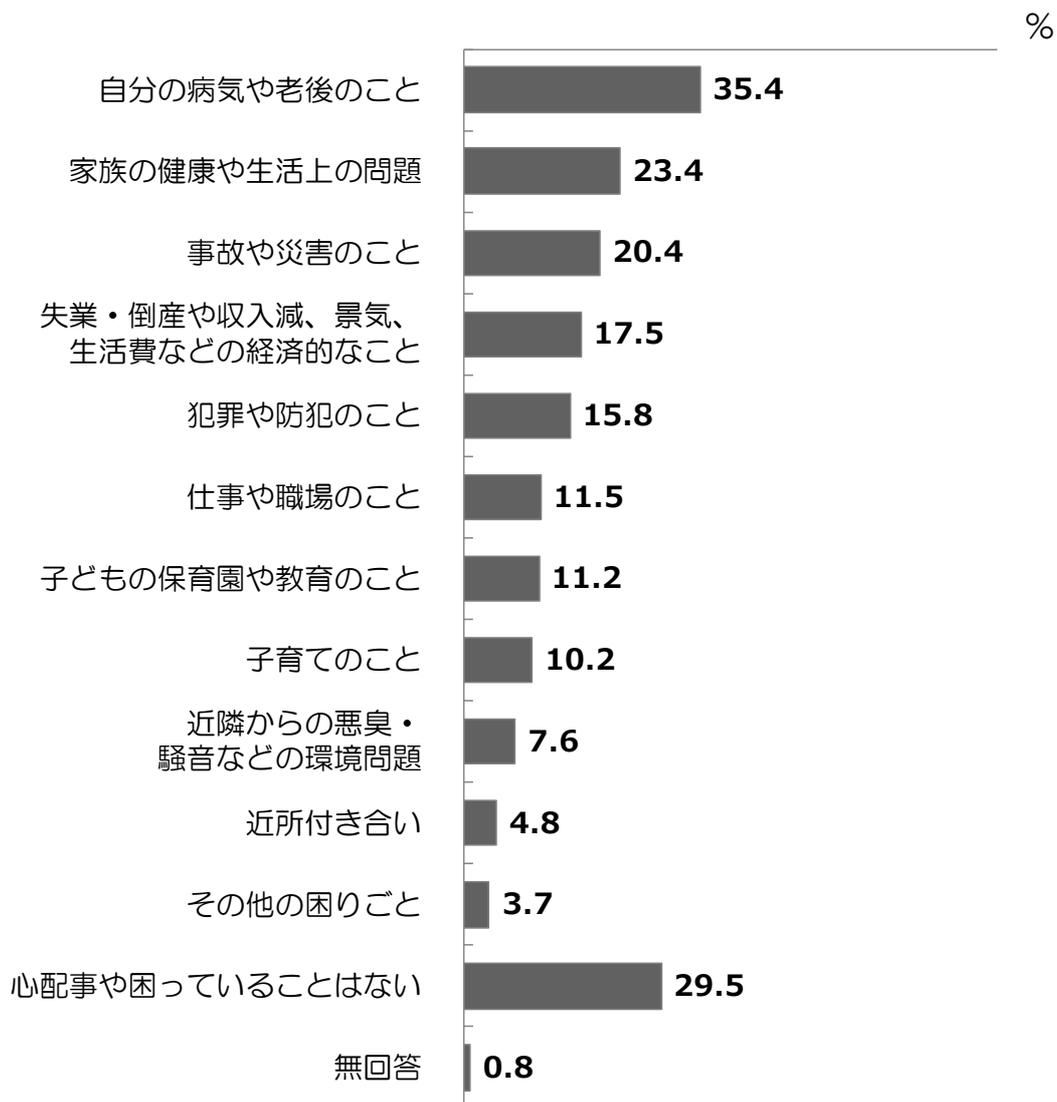
- 居住地域で力を入れて欲しい地域活動を年代別でみると、18・19 歳、20 歳代は他の年代と比べて、「芸術文化活動（音楽・演劇・ダンスなど）・伝統芸能の維持保存活動」（17.6%）が多く、30 歳代は、「子育てや青少年健全育成に関する活動」（27.7%）が多くなっています。
- 「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」は、年代が上がるにつれて割合が概ね多くなっています。



【心配事や困窮事の有無】（問 9）

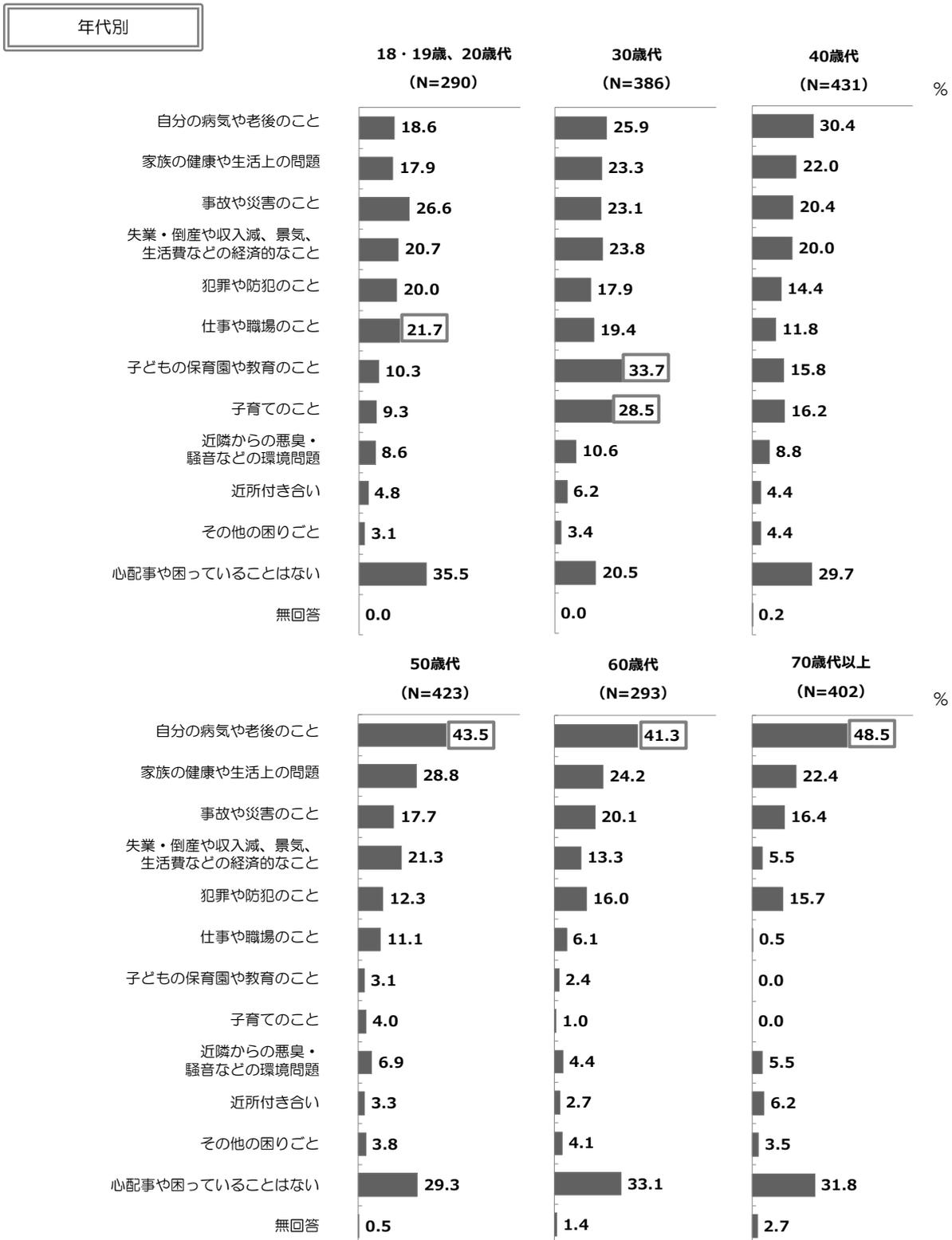
- 心配事や困窮事の有無をみると、「自分の病気や老後のこと」の35.4%が最も多く、「家族の健康や生活上の問題」の23.4%、「事故や災害のこと」の20.4%がそれに次いでいます。
- 「心配事や困っていることはない」は、約3割を占めています。

問 9. あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで、心配ごとや困っていることがありますか。以下にあげたことがらについて、心配ごとや困っていることを選択してください。（〇はいくつでも）  
 [N=2,231]



[ 心配事や困窮事の有無（問 9）×年代 ]

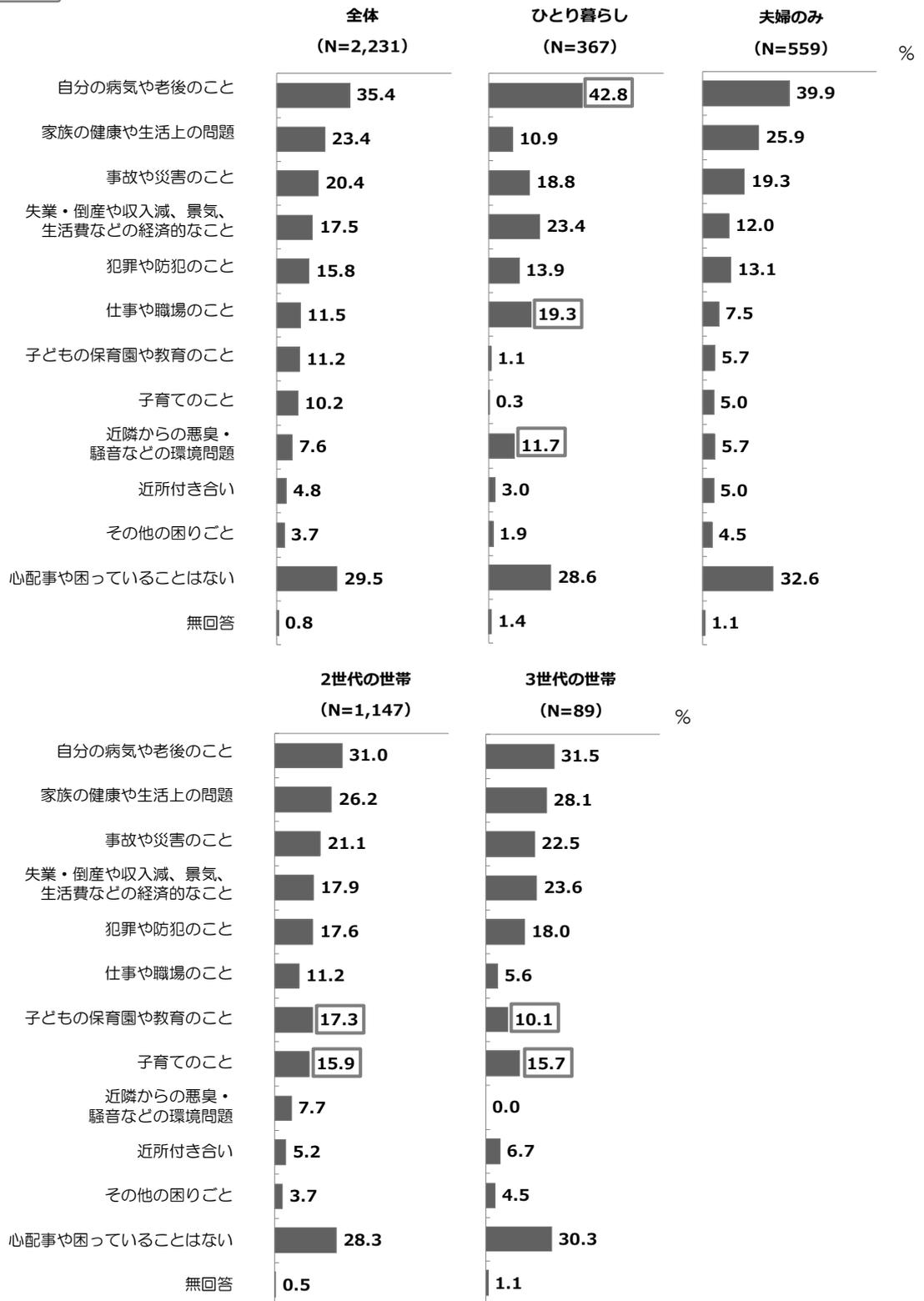
- 心配事や困窮事の有無を年代別で見ると、「自分の病気や老後のこと」は、50 歳代以上で 4 割を超えて多くなっています。「仕事や職場のこと」は年代が上がるにつれて割合が少なくなっています。
- 18・19 歳、20 歳代では、他の年代と比べ「仕事や職場のこと」（21.7%）が多くなっています。
- 30 歳代では「子どもの保育園や教育のこと」（33.7%）と「子育てのこと」（28.5%）が他の年代と比べて割合が多くなっています。



[ 心配事や困窮事の有無（問 9）×世帯構成 ]

- 心配事や困窮事の有無を世帯構成別でみると、ひとり暮らしの「自分の病気や老後のこと」（42.8%）、「仕事や職場のこと」（19.3%）と「近隣からの悪臭・騒音などの環境問題」（11.7%）は、他の世帯構成と比べて割合が多くなっています。
- 2世代及び3世代の世帯では、「子どもの保育園や教育のこと」と「子育てのこと」の割合が多くなっています。

世帯構成別



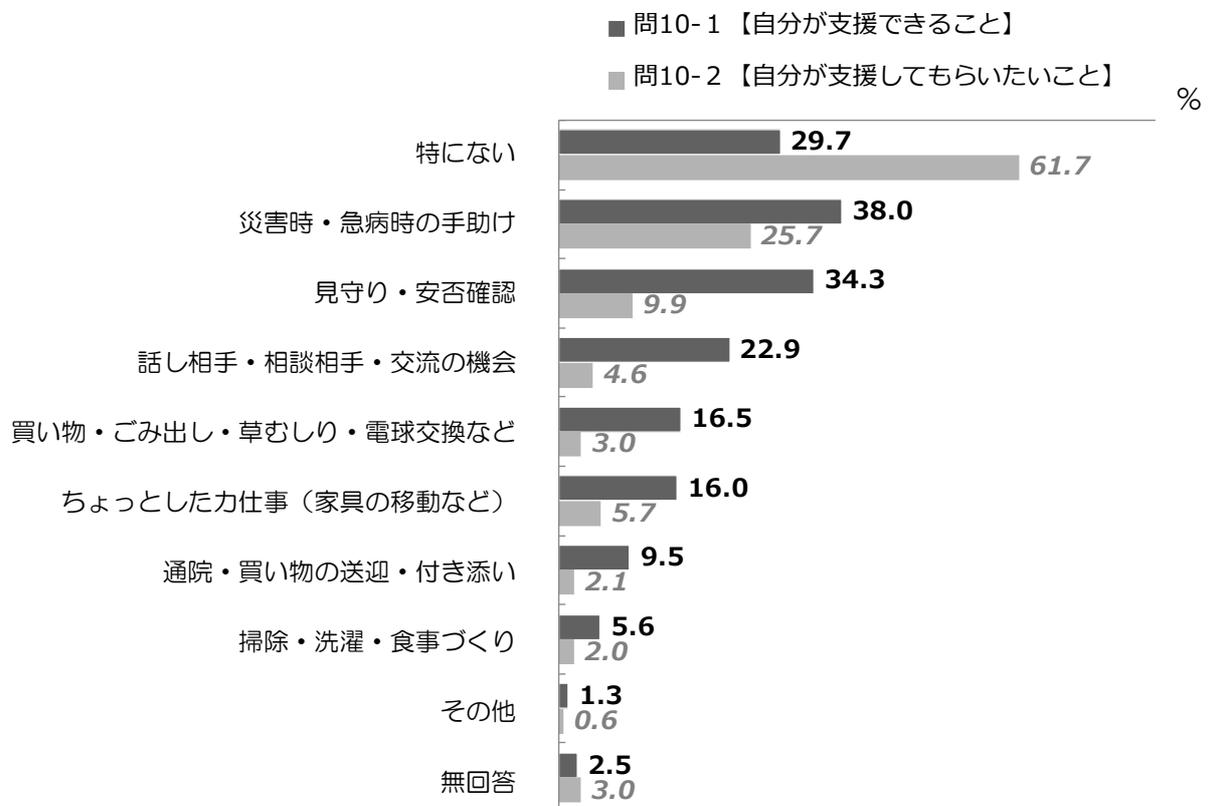
【自分が高齢者などにしてあげられる支援】（問 10-1）・

【自分が近所の人などにしてもらいたい支援】（問 10-2）

- ・自分が高齢者にしてあげられる支援で、「特にない」が3割弱であることから、何かしら支援できると考える人の割合が7割強であることが読み取れます。
- ・自分が近所の人などにしてもらいたい支援で「特にない」が6割強であることから、何かしら支援を必要としている人の割合が4割弱であることが読み取れます。
- ・自分が高齢者にしてあげられる支援及び自分が近所の人などにしてもらいたい支援ともに、「災害時・急病時の手助け」が最も多く、次いで、「見守り・安否確認」となっています。

問 10-1. 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]

問 10-2. また、あなた自身が、近所の方から支援してもらいたいことはありますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]

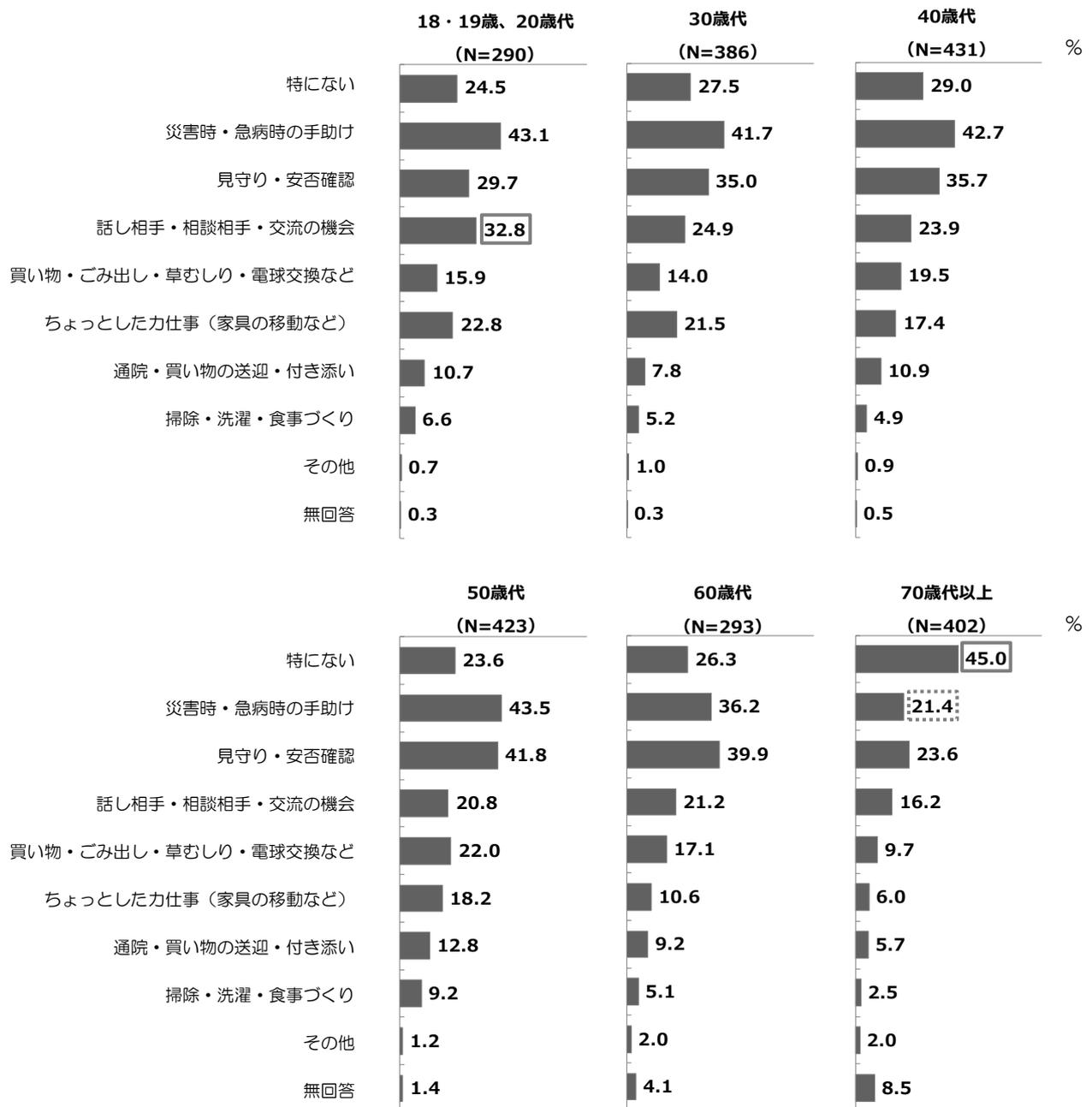


[ 自分が高齢者などにしてあげられる支援（問 10-1）×年代 ]

- 自分が高齢者などにしてあげられる支援を年代別でみると、18・19歳、20歳代では、他の年代と比べ「話し相手・相談相手・交流の機会」（32.8%）が多くなっています。
- 70歳代以上では、「特にない」（45.0%）が多く、「災害時・急病時の手助け」（21.4%）が少なくなっています。

年代別

【自分が高齢者などにしてあげられる支援】（問 10-1）

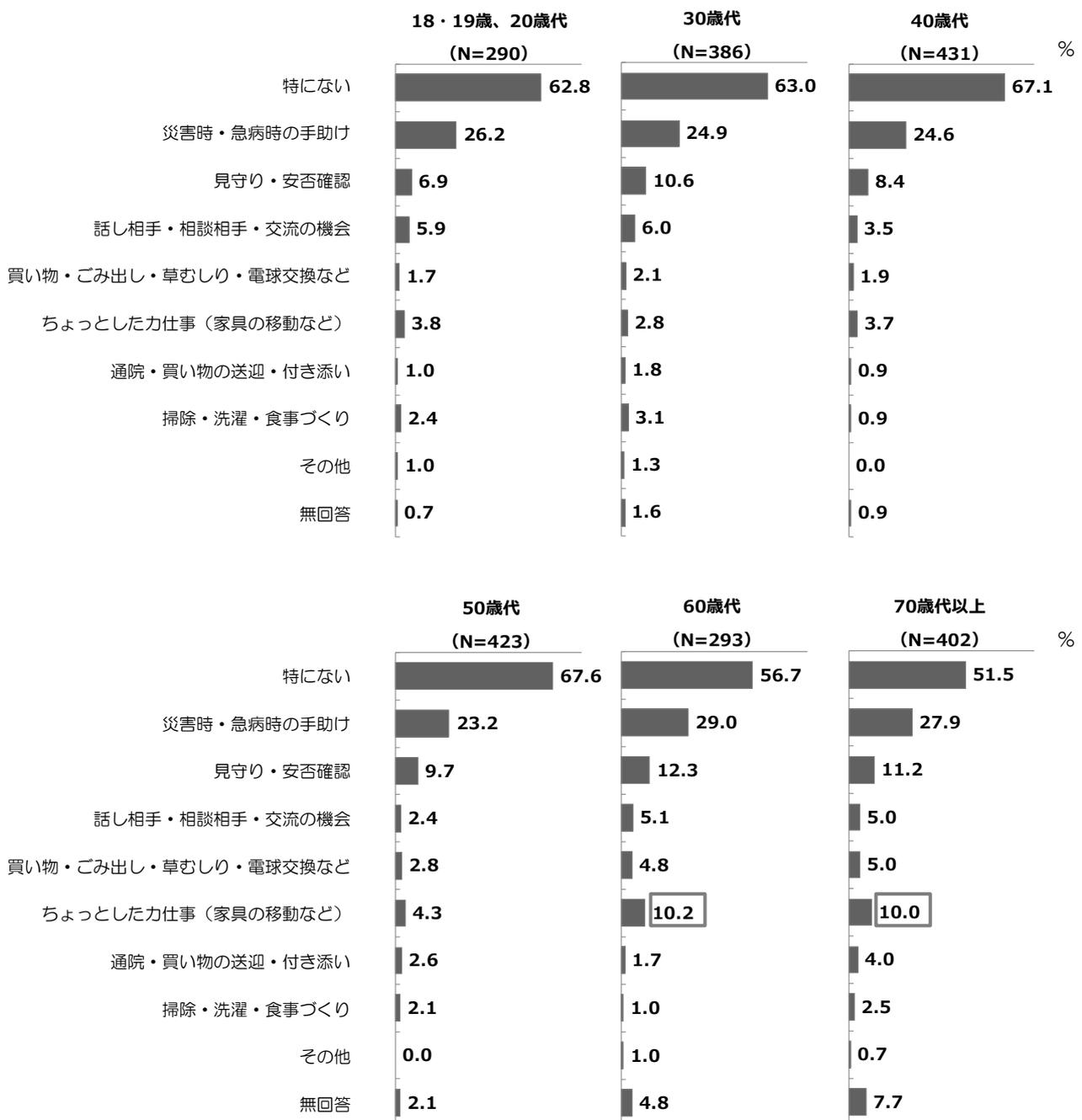


[ 自分が近所の人などにしてもらいたい支援（問 10-2）×年代 ]

- 自分が近所の人などにしてもらいたい支援を年代別でみると、「災害時・急病時の手助け」は、全ての年代で4人に1人程度が望んでいる結果となっています。
- 「ちょっとした力仕事」は、60歳代（10.2%）と70歳代以上（10.0%）が、他の年代と比べて割合が多くなっています。
- 「特にない」は、全ての年代で5割を超えています。

年代別

【自分が近所の人などにしてもらいたい支援】（問 10-2）

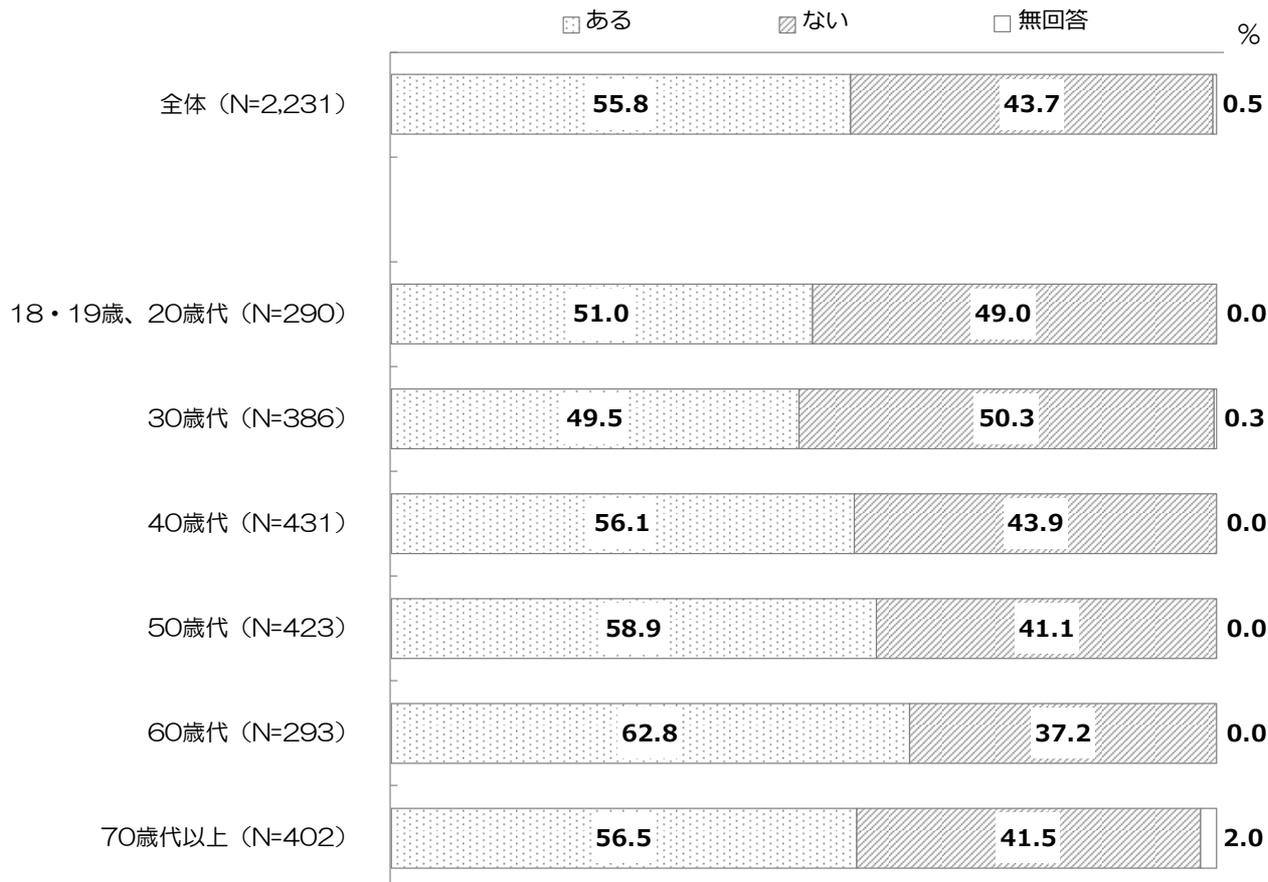


**【障害者への手助け経験】（問 11）**

- 障害者への手助け経験をみると、手助けをしたことが「ある」が55.8%です。
- 年代別でみると、手助けをしたことが「ある」は、60歳代をピークに年代が上がるにつれて概ね割合が多くなっています。

問 11. あなたは、障害のある人が困っているときに、手助けをしたことがありますか。（〇は1つだけ）  
【N=2,231】

全体/年代別

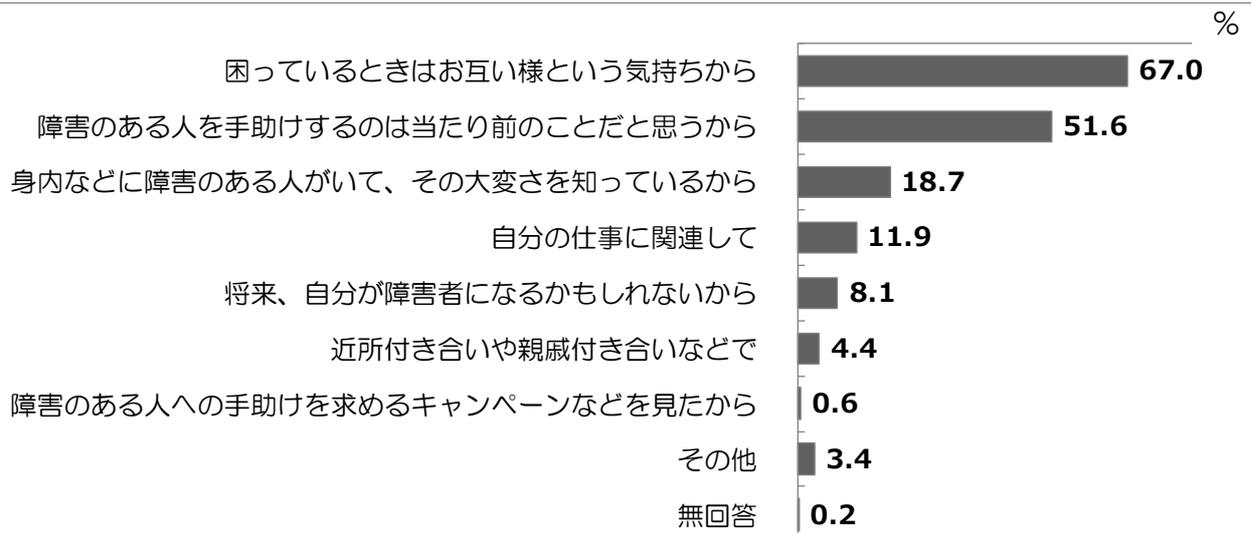


【障害者への手助け理由】（問 11-1）（問 11「1.ある」ベース）

- 障害者への手助け理由をみると、「困っているときはお互い様という気持ちから」の67.0%が最も多く、「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」の51.6%、少し離れて、「身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから」の18.7%がそれに次いでおり、普段の生活から手助けする気持ちが備わっている内容が理由の上位となっています。

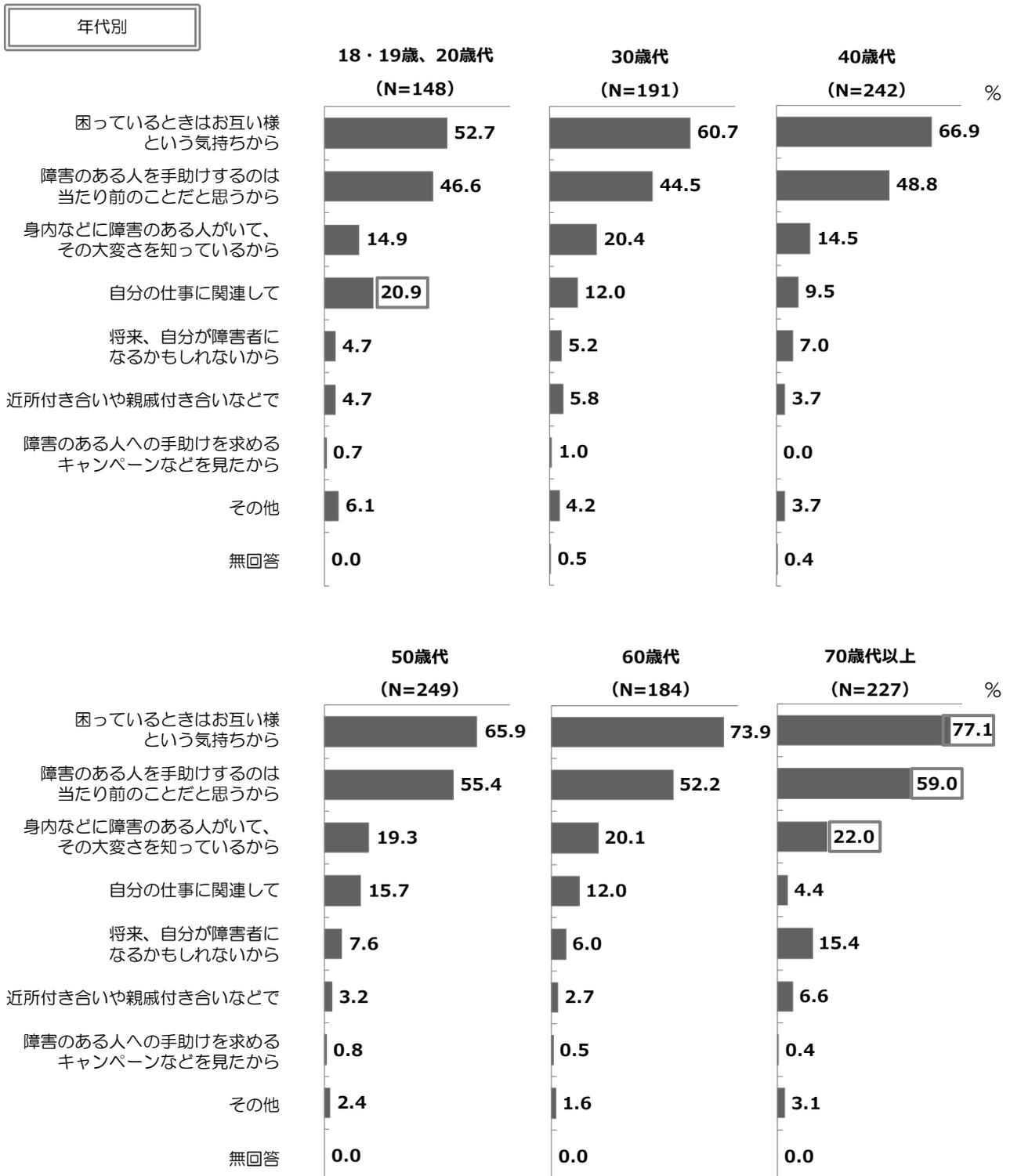
<問 11 で「1 ある」とお答えの方>

問 11-1. それはどのような気持ちからでしょうか。（〇はいくつでも） [N=1,244]



[ 障害者への手助け理由（問 11-1）×年代 ]

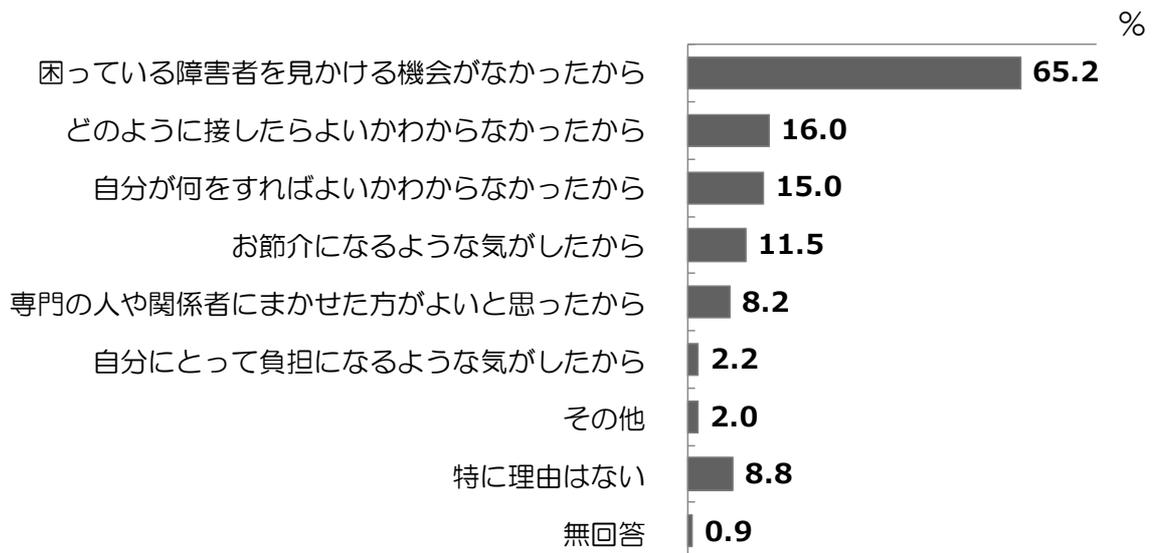
- 障害者への手助け理由を年代別でみると、70 歳代以上の「困っているときはお互い様という気持ちから」(77.1%)、「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」(59.0%)、「身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから」(22.0%)は、それぞれ最も多くなっています。
- 「自分の仕事に関連して」は、18・19 歳、20 歳代 (20.9%) が、他の年代と比べて割合が多くなっています。



【障害者を手助けしなかった理由】（問 11-2）（問 11「2.ない」ベース）

- 障害者を手助けしなかった理由をみると、「困っている障害者を見かける機会がなかったから」の 65.2%が最も多く、「どのように接したらよいかわからなかったから」の 16.0%、「自分が何をすればよいかわからなかったから」の 15.0%がそれに次いでおり、なかなか障害者に接する機会がないことが理由の上位となっています。

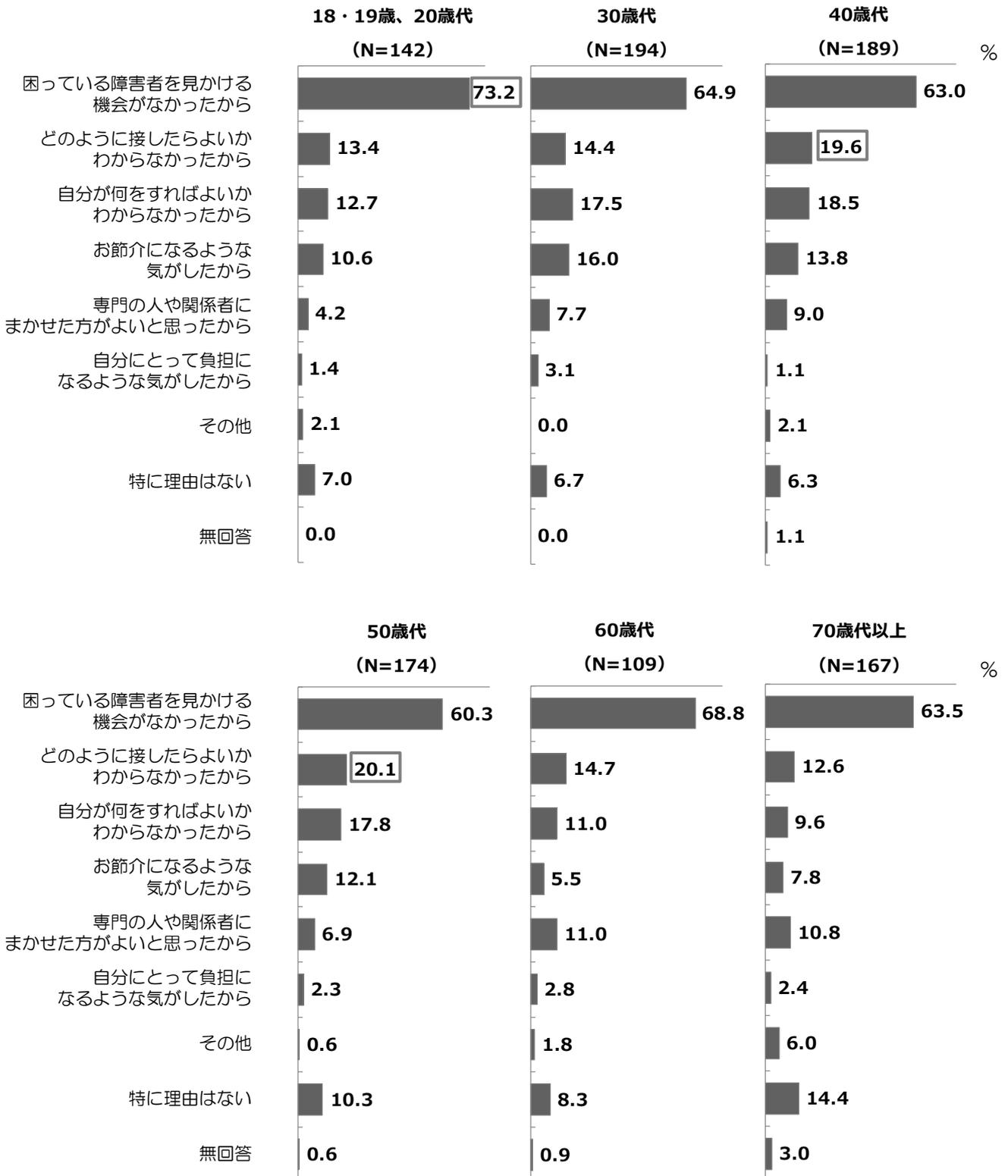
＜問 11 で「2 ない」とお答えの方＞  
問 11-2. なかったのはどうしてでしょうか。（〇はいくつでも） [N=976]



[ 障害者を手助けしなかった理由（問 11-2）×年代 ]

- 障害者を手助けしなかった理由を年代別でみると、「困っている障害者を見かける機会がなかったから」は、73.2%で18・19歳、20歳代が最も多くなっています。
- 「どのように接したらよいかわからなかったから」は、40歳代（19.6%）と50歳代（20.1%）が、他の年代と比べて割合が多くなっています。

年代別



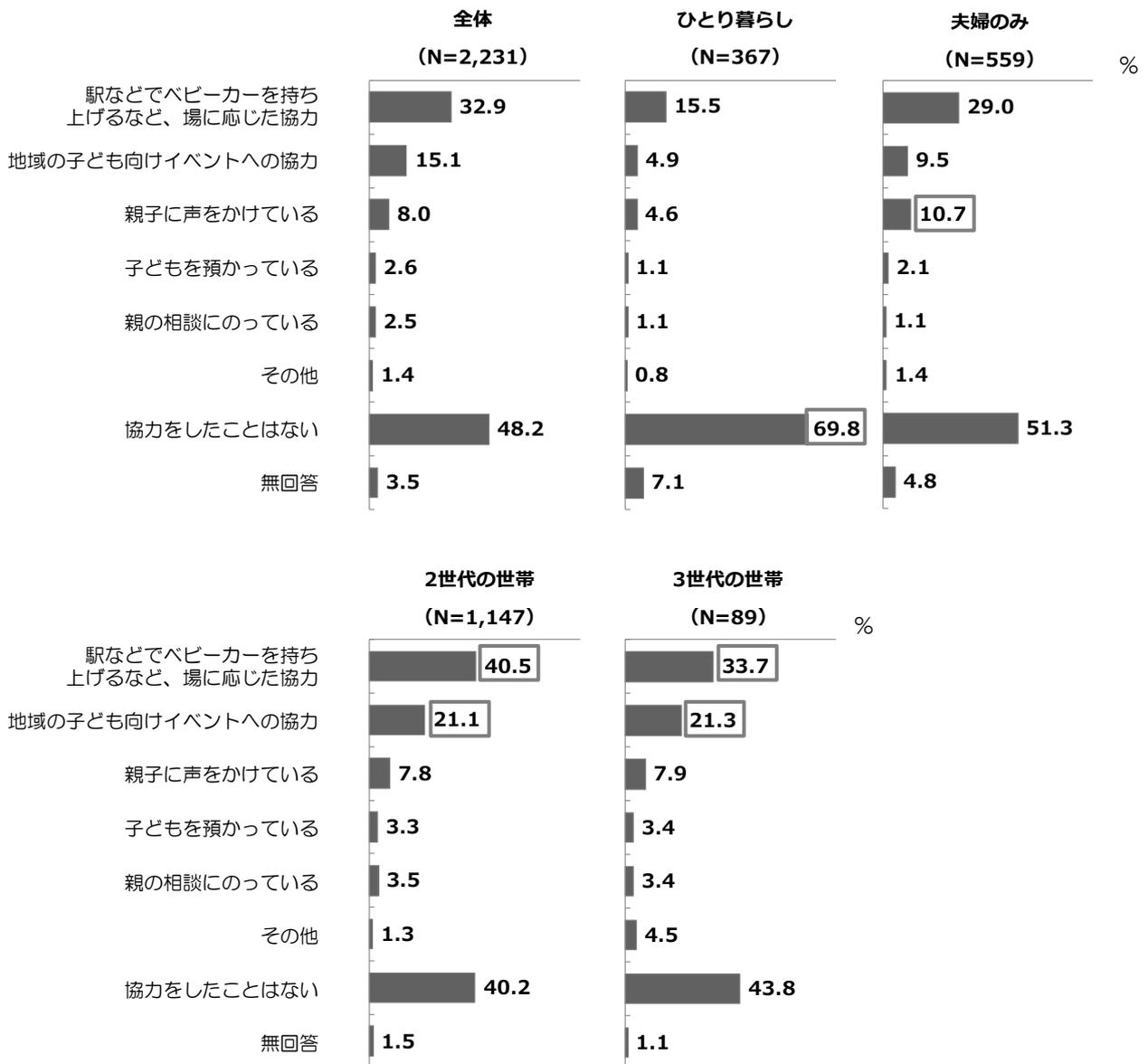
(5) 子育てについて

【地域の子育てへの協力】（問 12）

- 地域の子育てへの協力をみると、「駅などでベビーカーを持ち上げるなど、場に応じた協力」の 32.9%が最も多く、「地域の子ども向けイベントへの協力」の 15.1%、「親子に声をかけている」の 8.0%がそれに次いでいます。
- 世帯構成別でみると、2 世代及び 3 世代の世帯では、「駅などでベビーカーを持ち上げるなど、場に応じた協力」と「地域の子ども向けイベントへの協力」の割合が多くなっています。また、夫婦のみの「親子に声をかけている」は他の世帯構成と比べて多くなっています。
- ひとり暮らしは、「協力をしたことはない」（69.8%）が最も多くなっています。

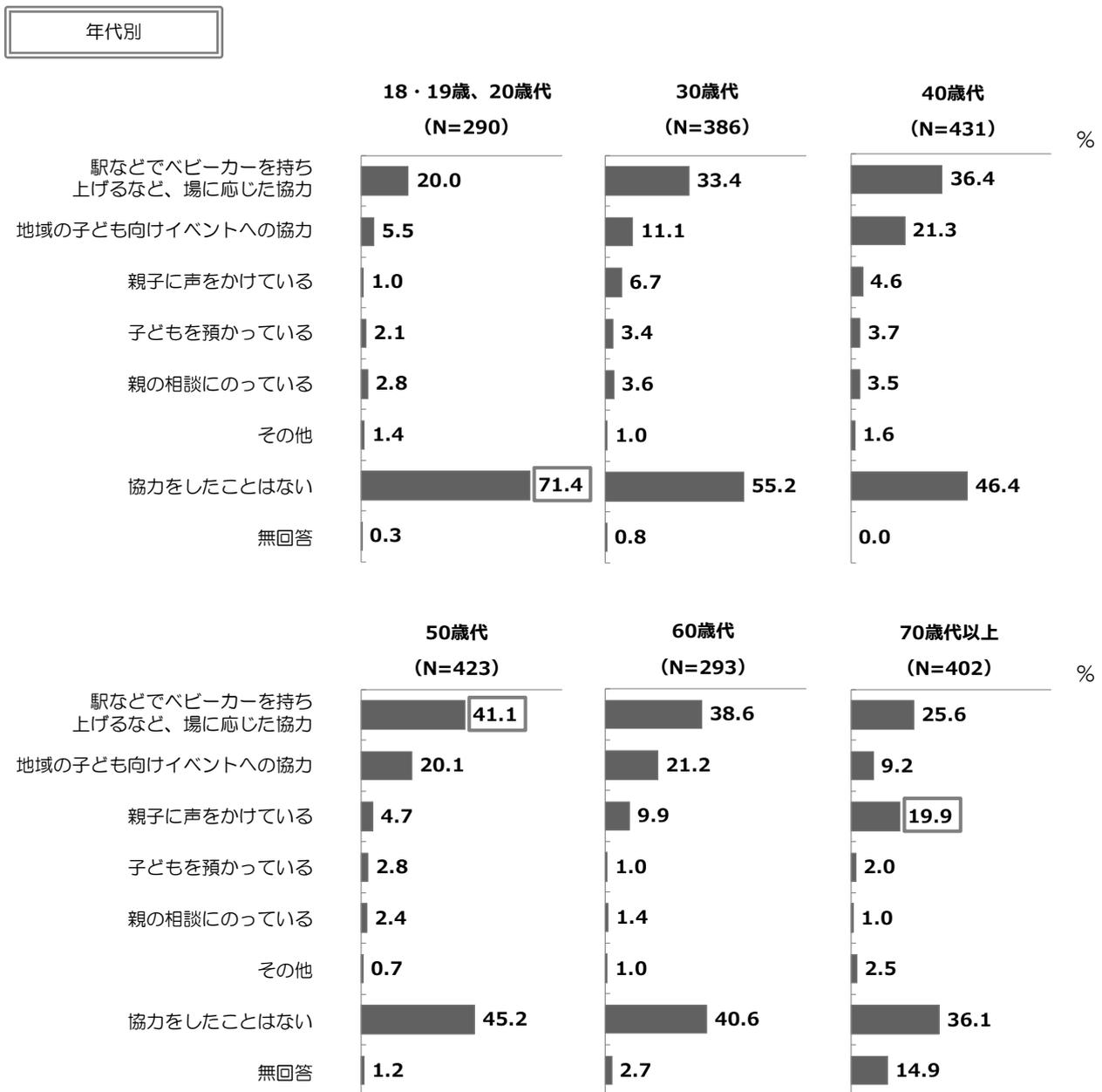
問 12. あなたは、地域の子育てにどのような協力をしたことがありますか。（〇はいくつでも）  
[N=2,231]

全体/世帯構成別



[ 地域の子育てへの協力（問 12）×年代 ]

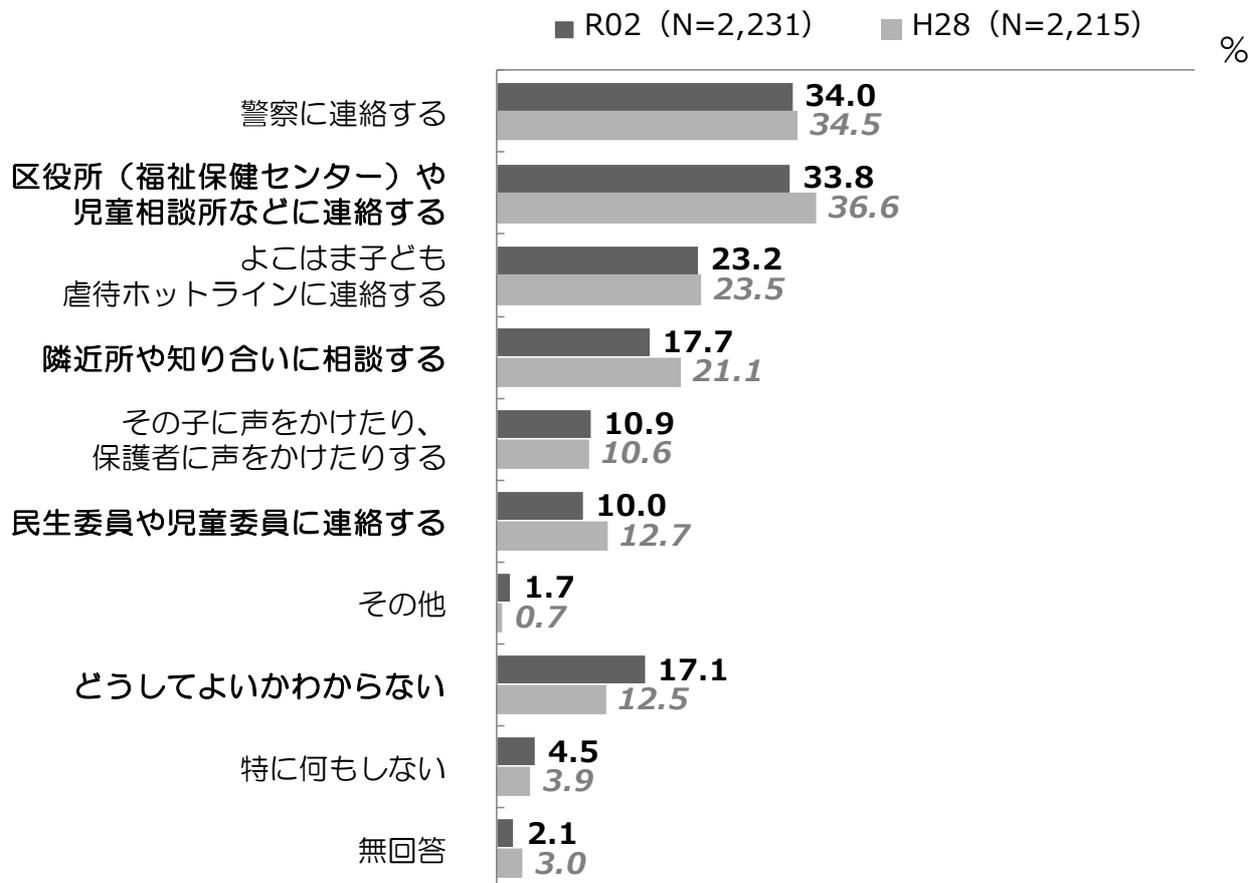
- 地域の子育てへの協力を年代別でみると、「協力をしたことはない」は、18・19歳、20歳代の71.4%が最も多く、年代が上がるにつれて割合が減少しています。
- 「駅などでベビーカーを持ち上げるなど、場に応じた協力」は、41.1%で50歳代、「親子に声をかけている」は、19.9%で70歳代以上がそれぞれ最も多くなっています。



【虐待疑いの児童に気づいた場合の対応】（問 13）

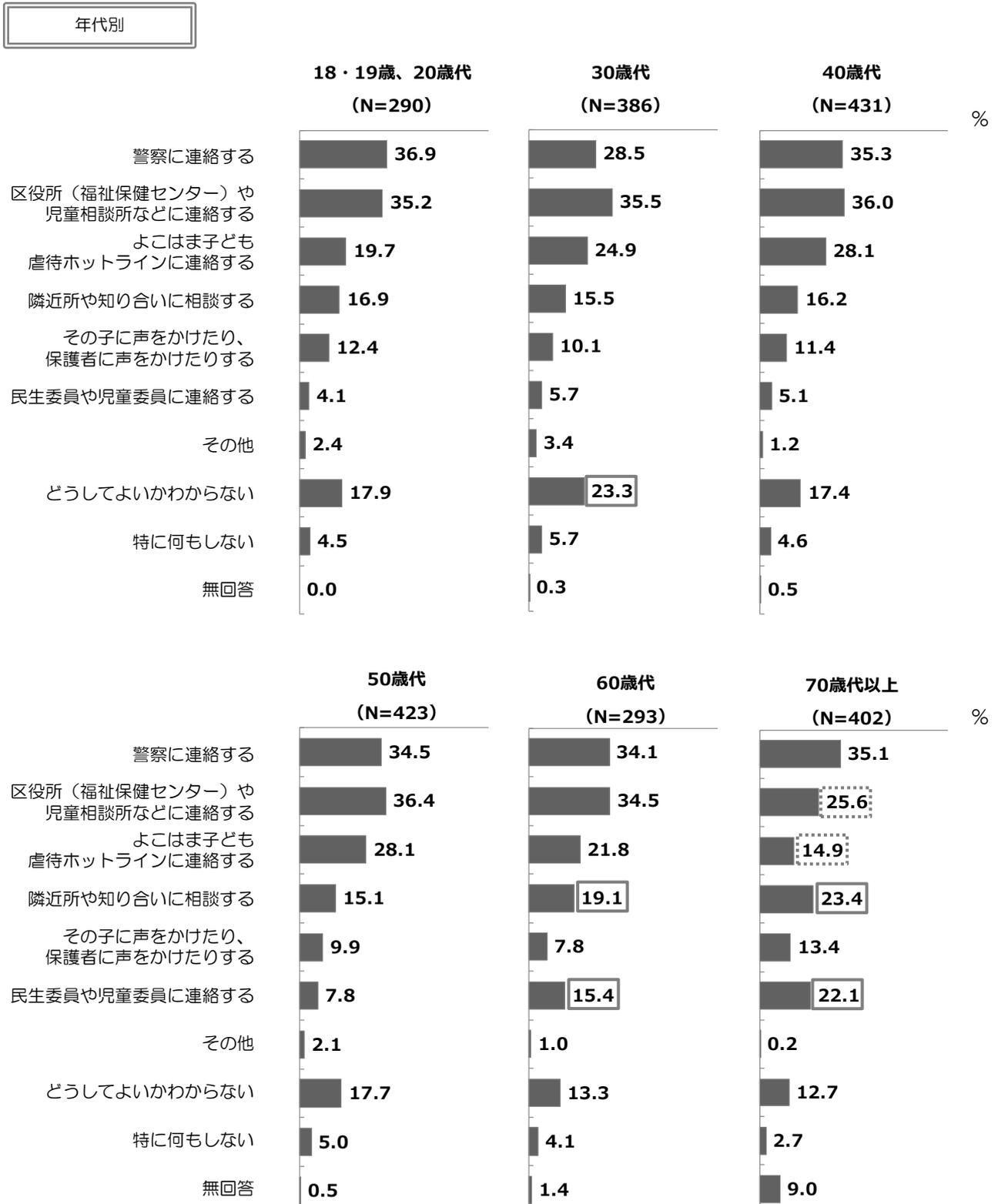
- 虐待疑いの児童に気づいた場合の対応をみると、「警察に連絡する」の34.0%が最も多く、「区役所（福祉保健センター）や児童相談所などに連絡する」の33.8%、「よこはま子ども虐待ホットラインに連絡する」の23.2%がそれに次いでいます。
- 前回調査と比較すると、全体的に減少しており、「隣近所や知り合いに相談する」（前回比-3.4ポイント）、次いで、「区役所（福祉保健センター）や児童相談所などに連絡する」（同-2.8ポイント）、「民生委員や児童委員に連絡する」（同-2.7ポイント）が減少しています。また、「どうしてよいかわからない」（同+4.6ポイント）は増加しています。

問 13. あなたは、虐待が疑われる児童に気づいた場合、どのような対応をとりますか。  
（〇はいくつでも）【N=2,231】



[ 虐待疑いの児童に気づいた場合の対応（問 13）×年代 ]

- 虐待疑いの児童に気づいた場合の対応を年代別でみると、70 歳代以上では、「区役所（福祉保健センター）や児童相談所などに連絡する」（25.6%）と「よこはま子ども虐待ホットラインに連絡する」（14.9%）が他の年代と比べて割合が少なくなっています。
- 60 歳代と 70 歳代以上は、「隣近所や知り合いに相談する」と「民生委員や児童委員に連絡する」が、他の年代と比べて割合が多くなっています。
- 「どうしてよいかわからない」は、30 歳代が 23.3%と最も多くなっています。

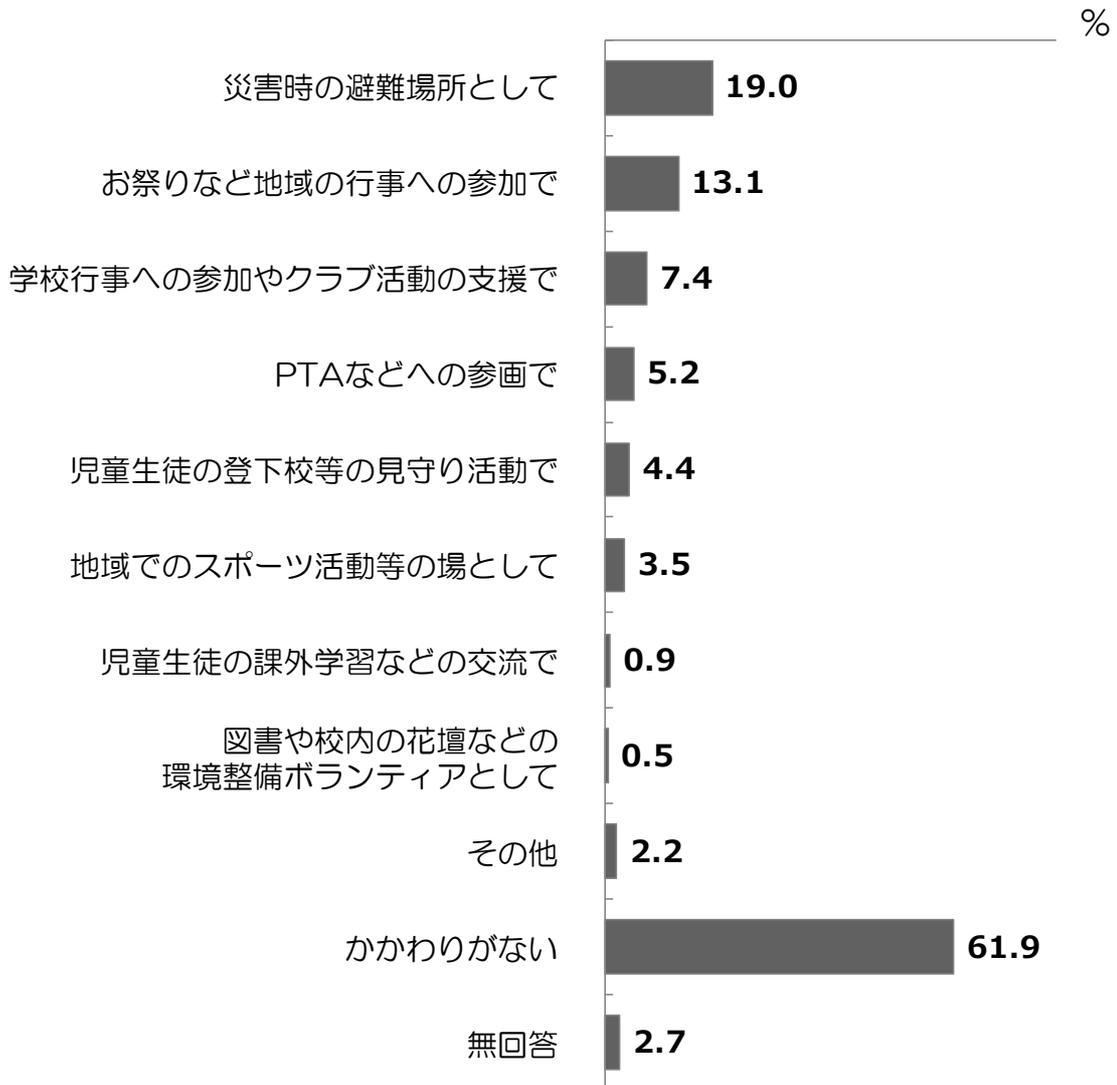


(6) 学校について

【近隣の学校とのかかわり】（問 14）

- 近隣の学校とのかかわりをみると、「災害時の避難場所として」の19.0%が最も多く、「お祭りなど地域の行事への参加で」の13.1%、「学校行事への参加やクラブ活動の支援で」の7.4%がそれに次いでおり、地域の参加しやすい活動や行事が学校とのつながりとなっています。
- 「かかわりがない」は、61.9%で6割を超えています。

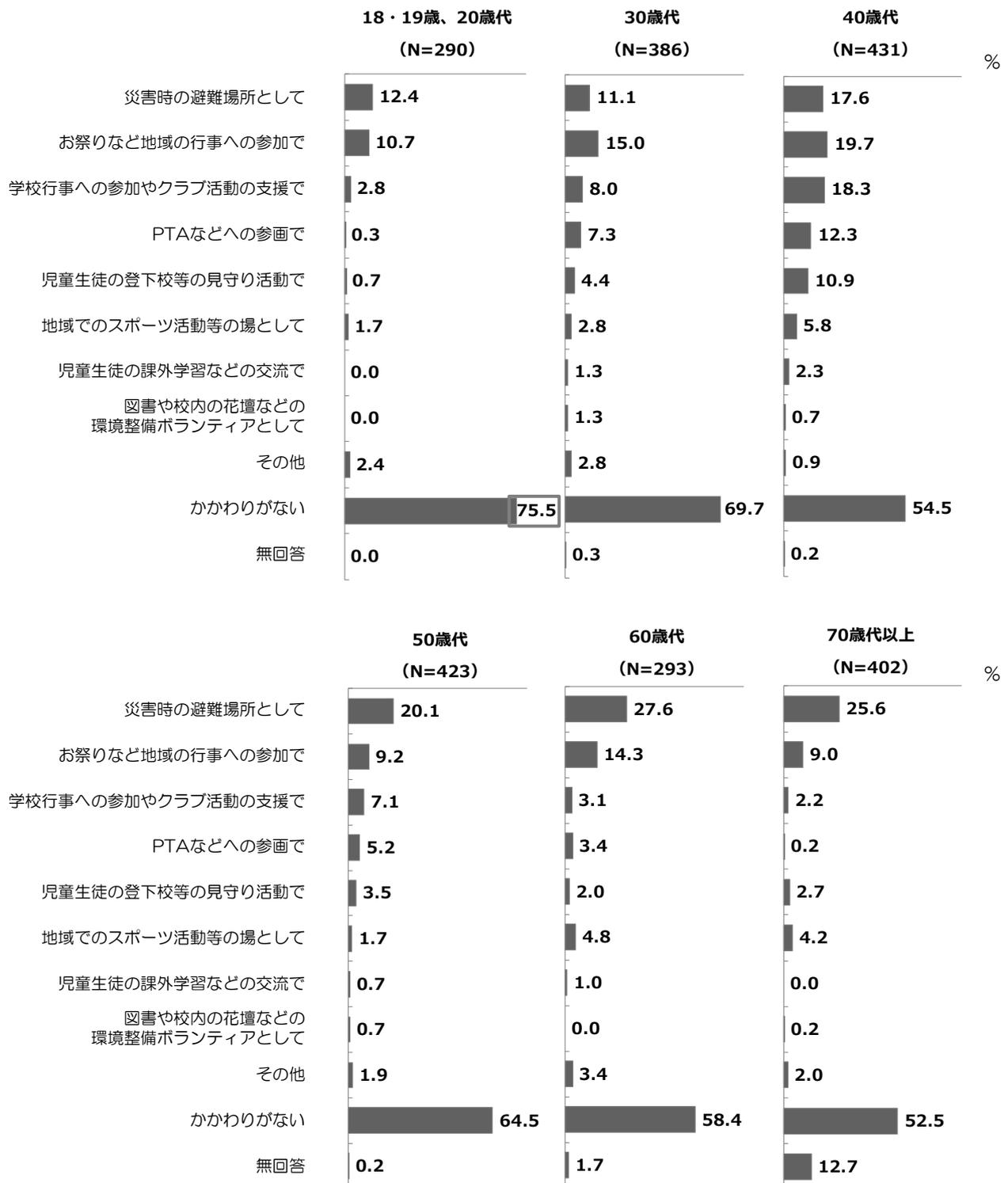
問 14. 普段、近隣の学校とどのようなかかわりがありますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]



[ 近隣の学校とのかかわり（問 14）×年代 ]

- 近隣の学校とのかかわりを年代別でみると、40 歳代は他の年代と比べて、ほとんどの項目で割合が多く、学校が身近であることが分かります。
- 「災害時の避難場所として」でのかかわりは、年代が上がるにつれて、概ね割合が多くなっています。
- 「かかわりがない」は、18・19 歳、20 歳代が 75.5%と最も多くなっています。

年代別

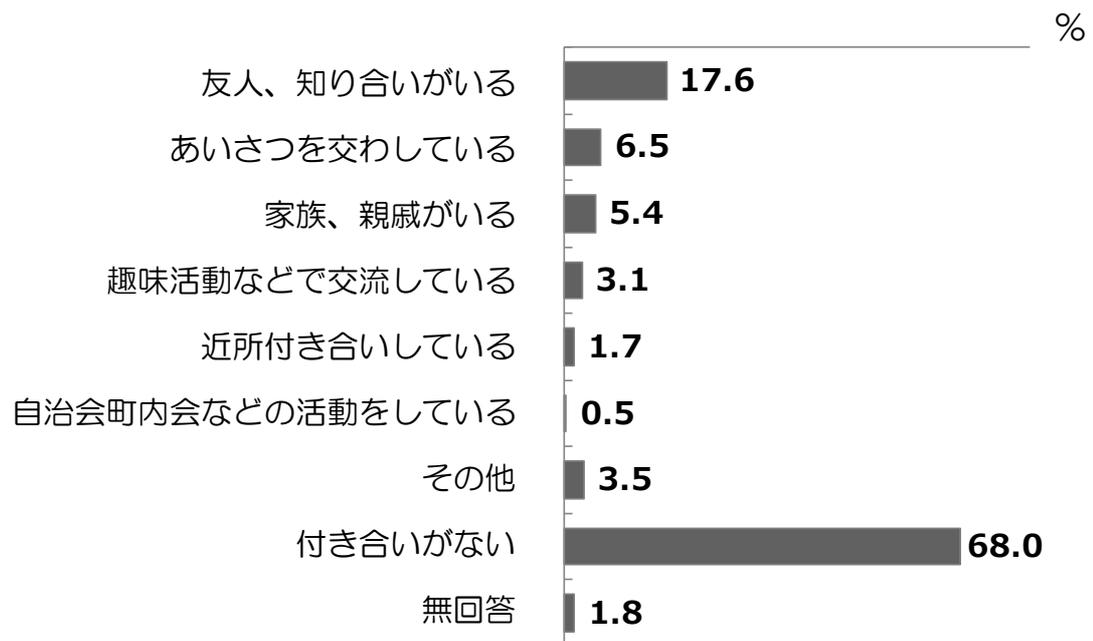


(7) 多文化共生について

【外国人との交流】（問 15）

- 外国人との交流をみると、「友人、知り合いがいる」の 17.6%が最も多く、「あいさつを交わしている」の 6.5%、「家族、親戚がいる」の 5.4%がそれに次いでいます。
- 「付き合いがない」は、68.0%で約 7 割を占めており、なかなか外国人と交流する機会がないことが分かります。

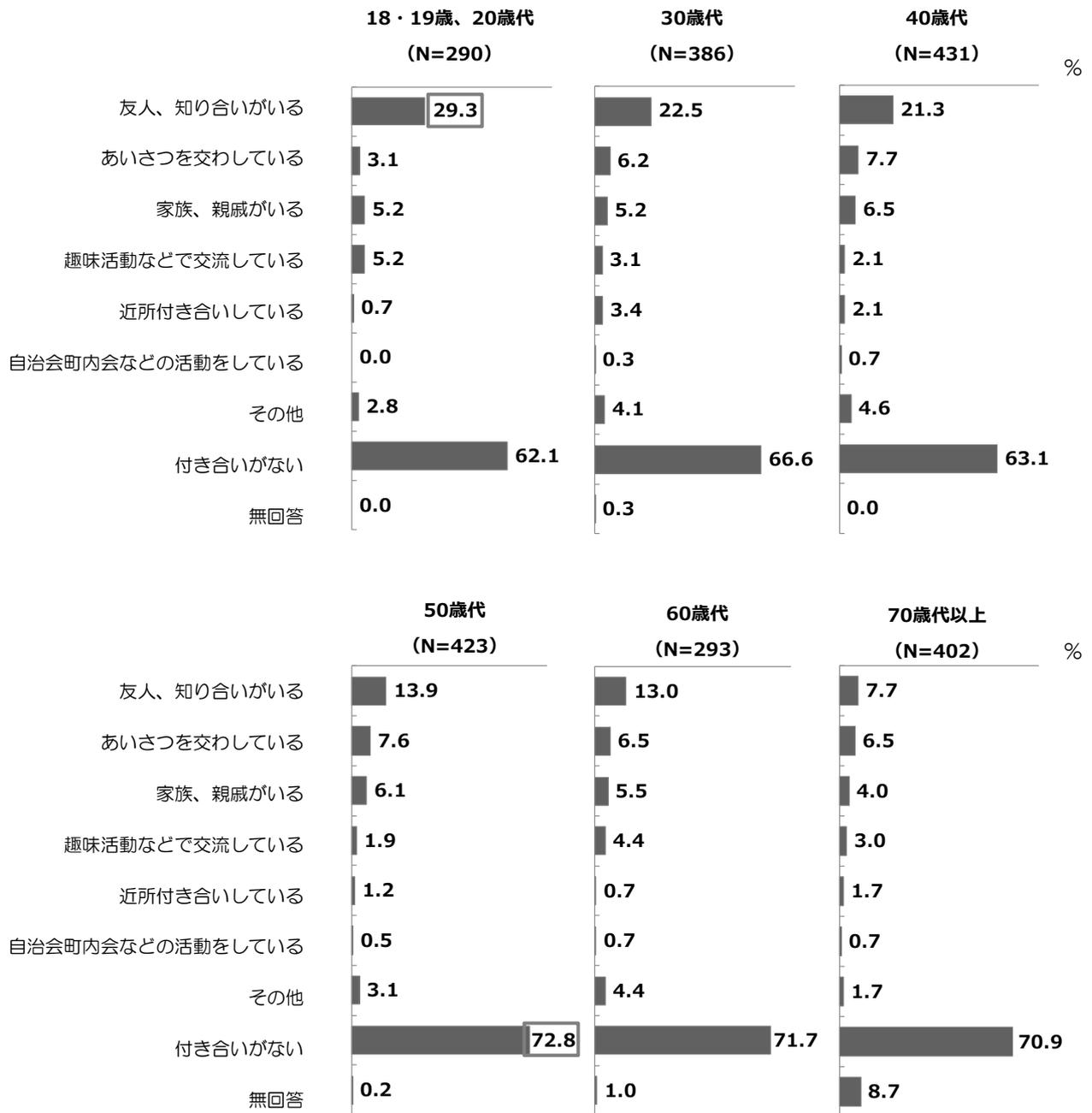
問 15. あなたは現在、外国人とどのような交流がありますか。  
(外国人の方は、日本人とどのような交流がありますか。)(〇はいくつでも) [N=2,231]



[ 外国人との交流（問 15）×年代 ]

- 外国人との交流を年代別でみると、「友人、知り合いがいる」は 18・19 歳、20 歳代が 29.3% と最も多く、年代が上がるにつれて割合が少なくなっています。
- 「付き合いがない」は 50 歳代が 72.8% と最も多く、上の年代で割合が多くなっています。

年代別



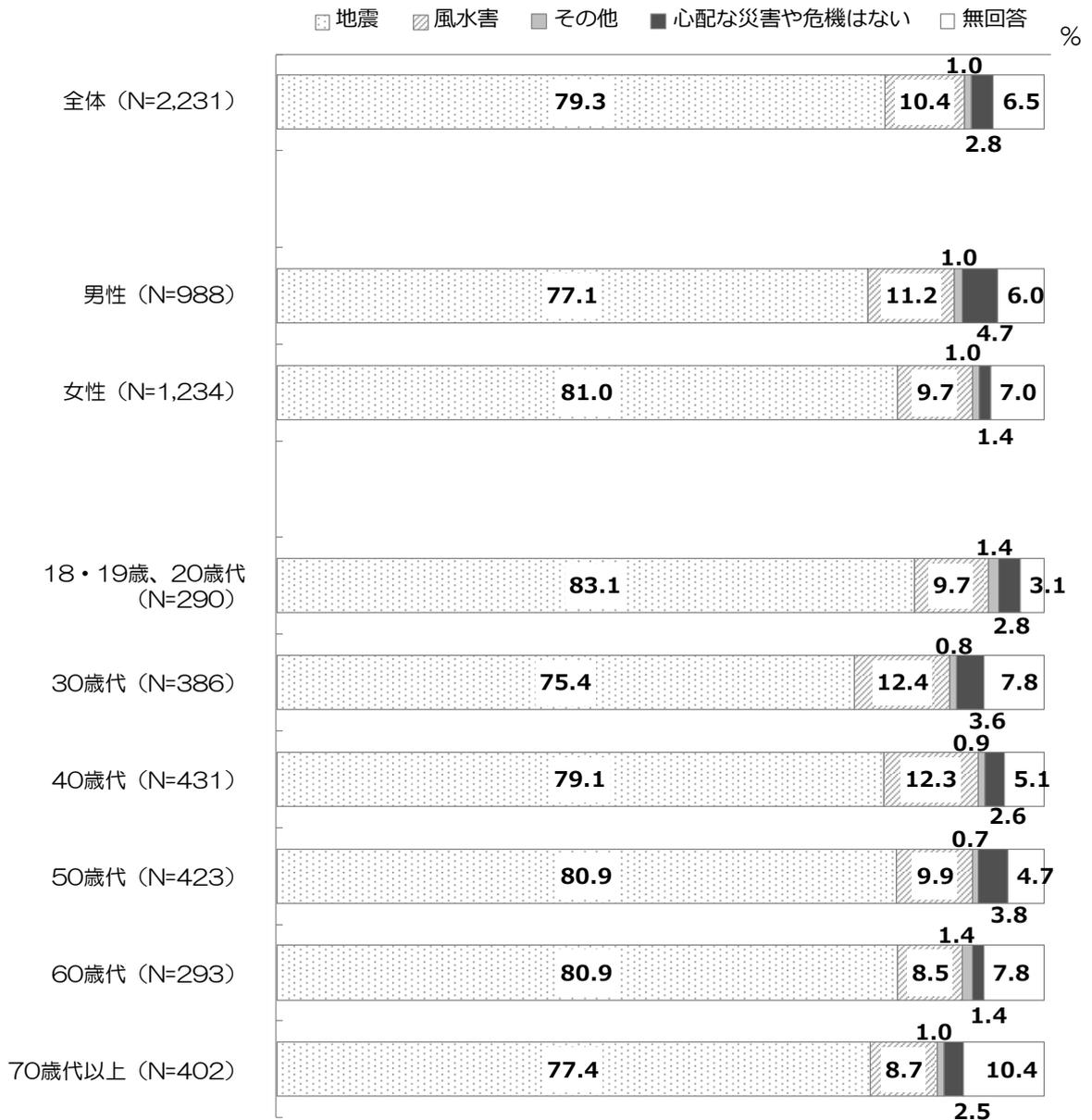
(8) 防災について

【最も心配な災害や危機】（問 16）

- 最も心配な災害や危機をみると、「地震」が79.3%と最も多くなっています。性別で比較すると、男女ともに「地震」が最も多く、若干ですが、女性の割合が多くなっています。
- 年代別でも「地震」が最も多いですが、30歳代が他の年代と比べ、若干割合が少なくなっています。

問 16. あなたが最も心配だと思う災害や危機は何ですか。（〇は1つだけ） [N=2,231]

全体/性別/年代別

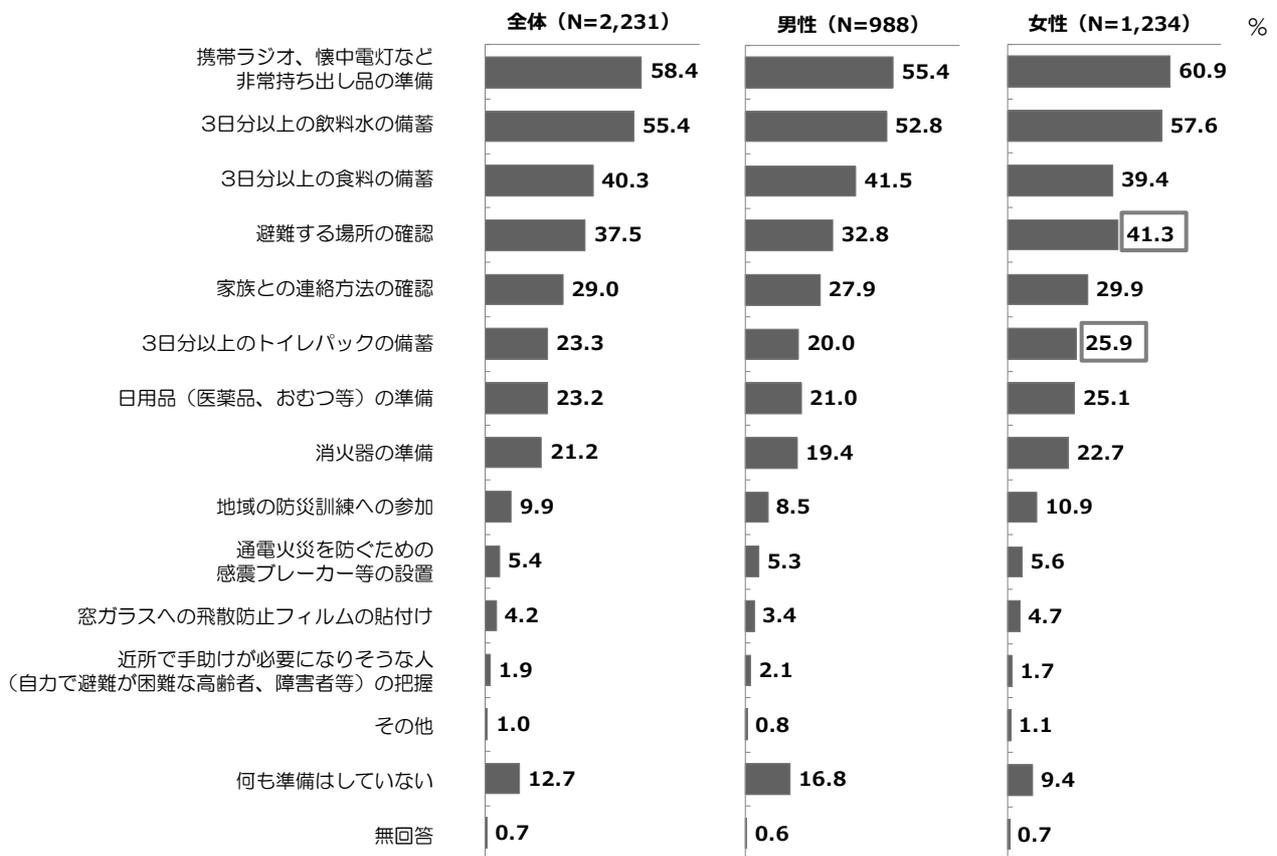


### 【地震に対する準備】（問 17）

- 地震に対する準備をみると、全体的に多い割合とは言えず、12.7%の人は「何も準備はしていない」と回答しており、地震に対する準備は万全であるとは言えません。「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」の58.4%が最も多く、「3日分以上の飲料水の備蓄」の55.4%、「3日分以上の食料の備蓄」の40.3%がそれに次いで割合が多くなっています。
- 性別で比較すると、全体的に男性よりも女性の割合が多く、なかでも女性は「避難する場所の確認」（男女比+8.5ポイント）、「3日分以上のトイレパックの備蓄」（同+5.9ポイント）が多くなっています。

問 17. 地震についておうかがいします。あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）【N=2,231】

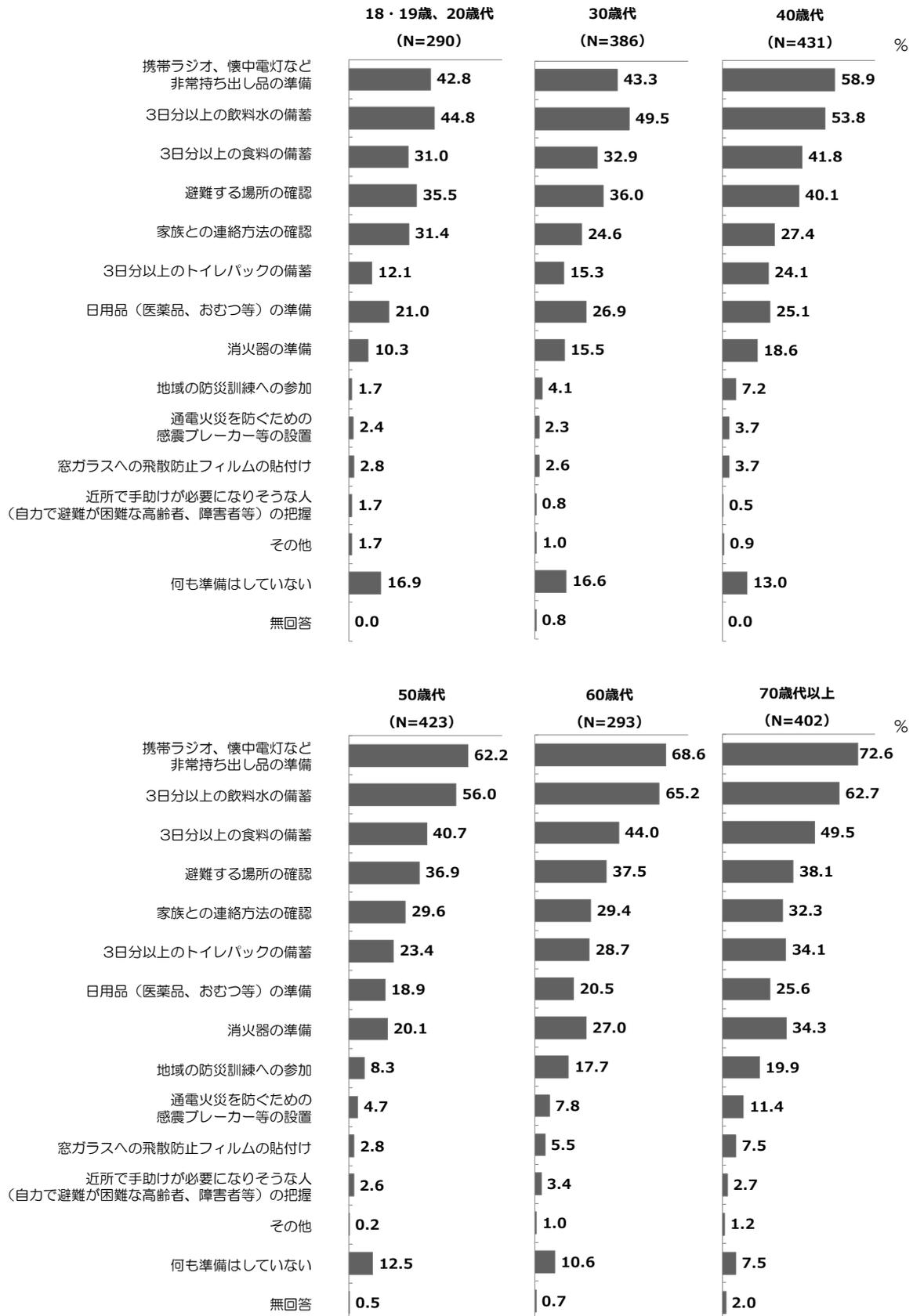
全体/性別



[ 地震に対する準備（問 17）×年代 ]

- 地震に対する準備を年代別でみると、多くの項目で、年代が上がるにつれて割合が多くなっています。

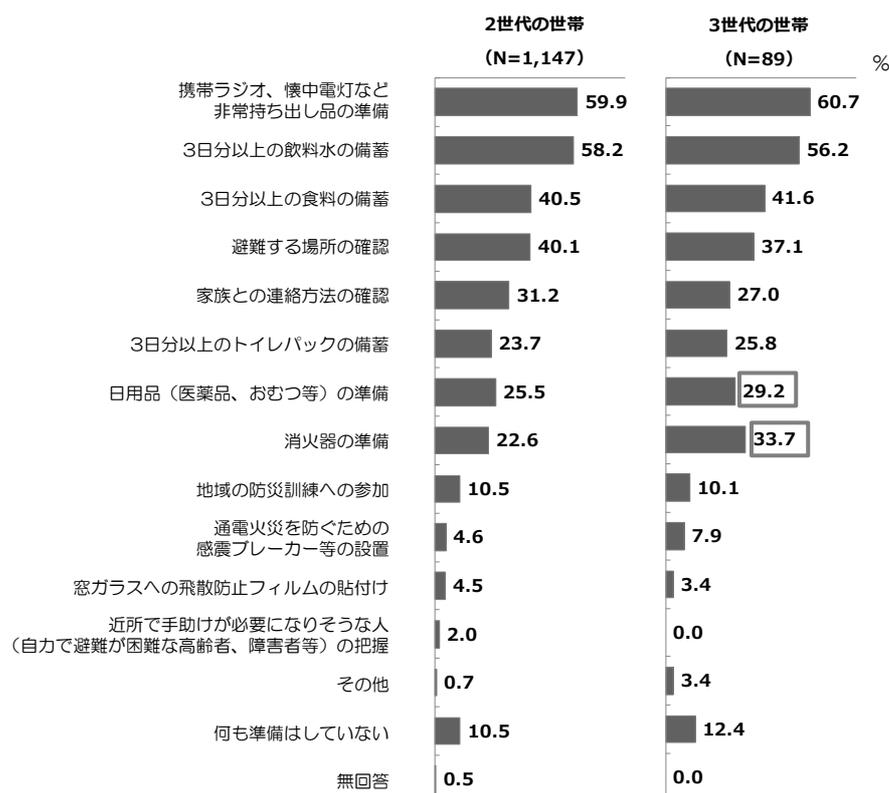
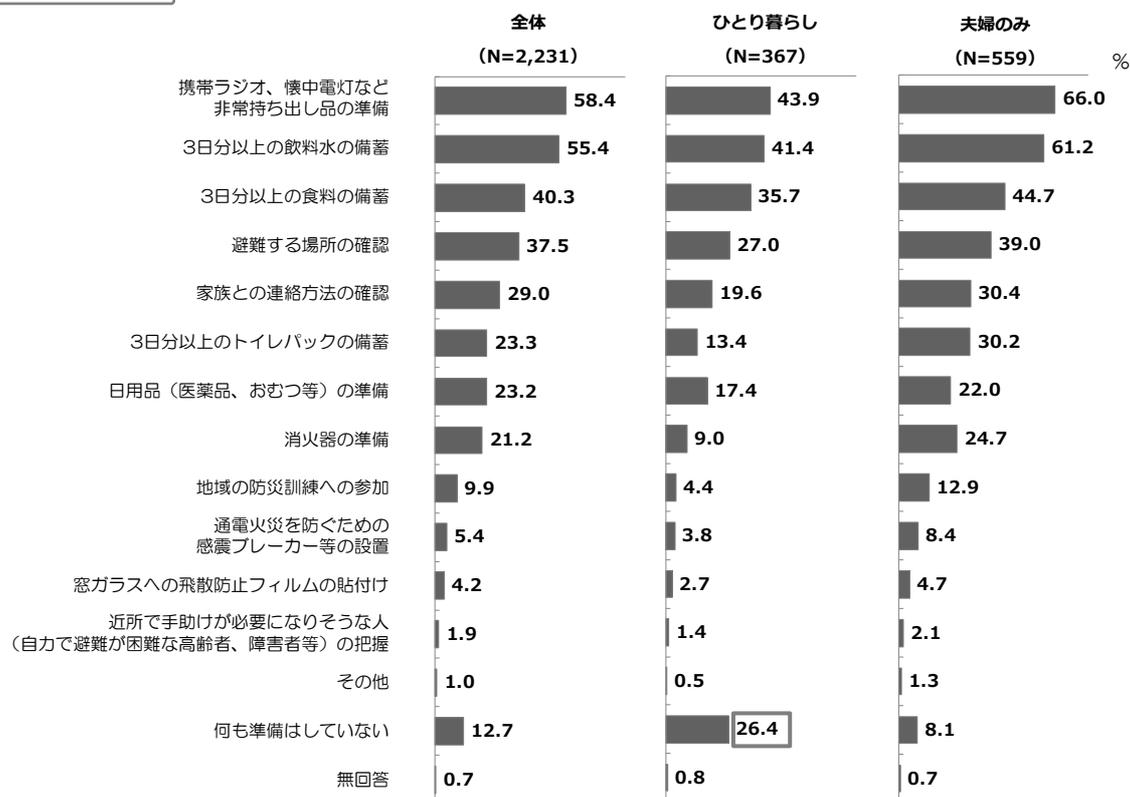
年代別



## [ 地震に対する準備（問 17）×世帯構成 ]

- 地震に対する準備を世帯構成別でみると、ひとり暮らしの備えは概ねすべての項目で少ない結果であり、「何も準備はしていない」は26.4%と最も多い割合です。
- 3世代の世帯は、「日用品（医薬品、おむつ等）の準備」の29.2%、「消火器の準備」の33.7%が、他の世帯構成と比べて割合が多くなっています。

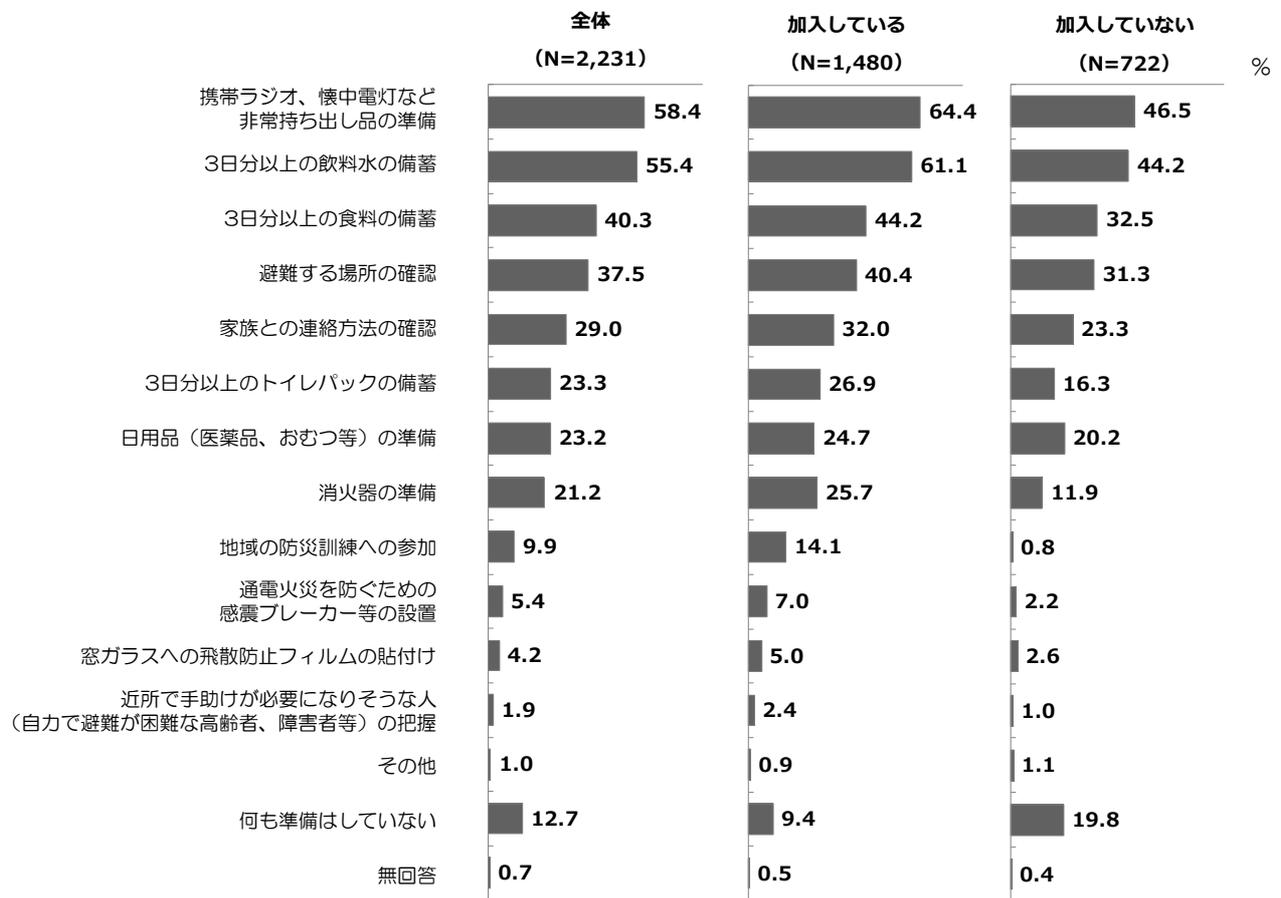
世帯構成別



[ 地震に対する準備（問 17）×自治会町内会への加入有無（問 6） ]

- 地震に対する準備を自治会町内会加入の有無で見ると、自治会町内会に加入していない人は、加入している人よりも地震に対する備えは「その他」を除くすべての項目で少ない割合となっています。

自治会町内会加入別

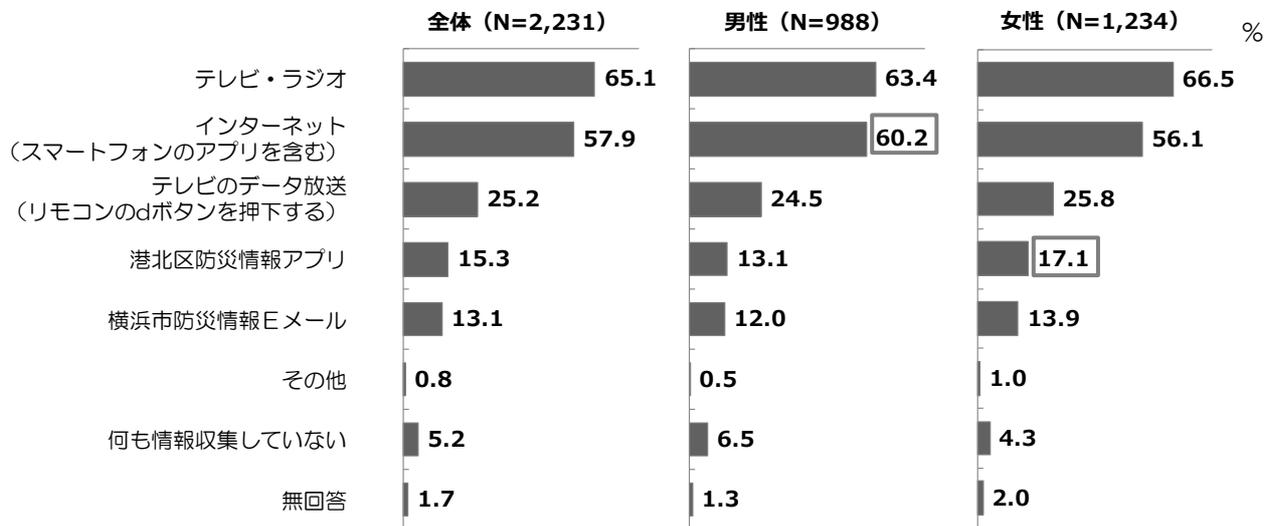


【風水害時の情報入手元】（問 18）

- 風水害時の情報入手元をみると、「テレビ・ラジオ」の65.1%が最も多く、「インターネット」の57.9%、「テレビのデータ放送」の25.2%がそれに次いでおり、日常生活において身近な情報ツールが情報入手元になっています。
- 「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、まだ割合が少ないものの、前回調査の同様の項目（民間アプリ7.9%、メール7.8%）から伸びています。
- 性別で比較すると、男性は「インターネット」（男女比+4.1ポイント）が多く、女性は「港北区防災情報アプリ」（同+4.0ポイント）が多くなっています。

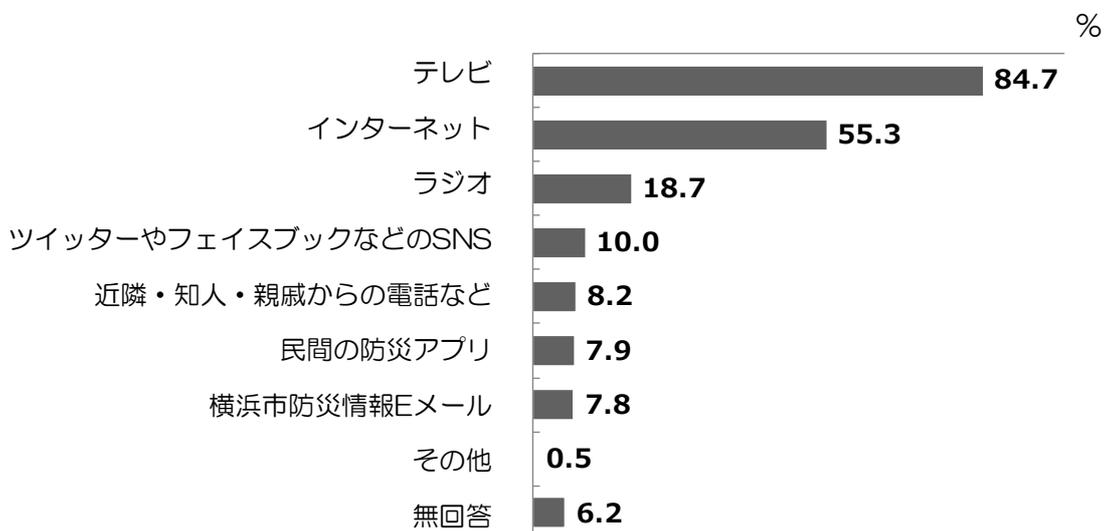
問 18. 風水害についておうかがいします。あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]

全体/性別



[ 参考：平成 28 年度 港北区区民意識調査 問 22 ]

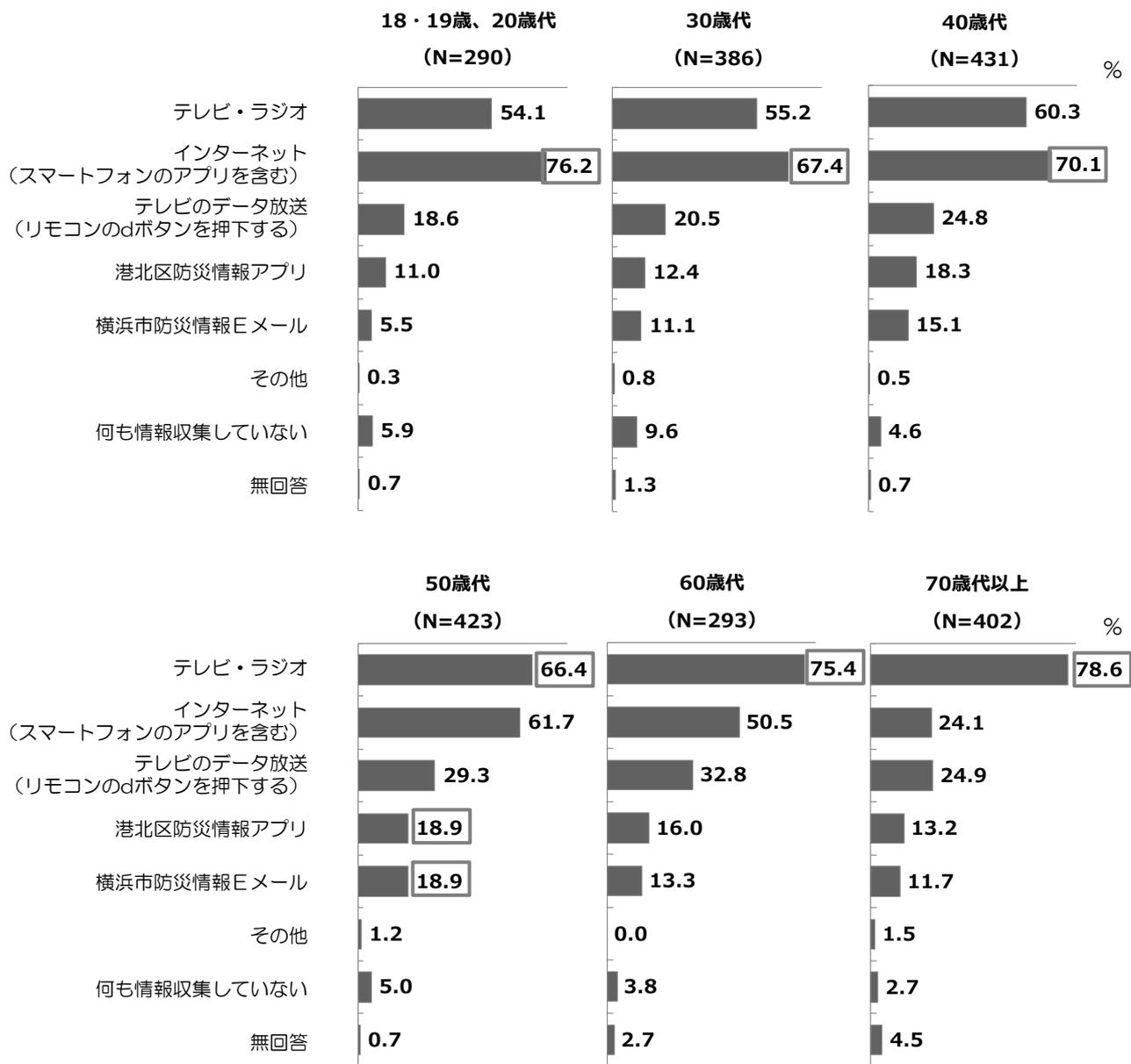
問 22.あなたは、自身や気象情報などの災害情報を、主に何から入手していますか。（〇はいくつでも） [N=2,215]



[ 風水害時の情報入手元（問 18）×年代 ]

- 風水害時の情報入手元を年代別でみると、「テレビ・ラジオ」は、78.6%で70歳代以上、「インターネット（スマートフォンのアプリを含む）」は、76.2%で18・19歳、20歳代がそれぞれ最も多く、40歳代以下では「テレビ・ラジオ」より「インターネット」の割合が多いです。
- 50歳代は「港北区防災情報アプリ」の18.9%、「横浜市防災情報Eメール」の18.9%が、他の年代と比べて割合が多くなっています。

年代別

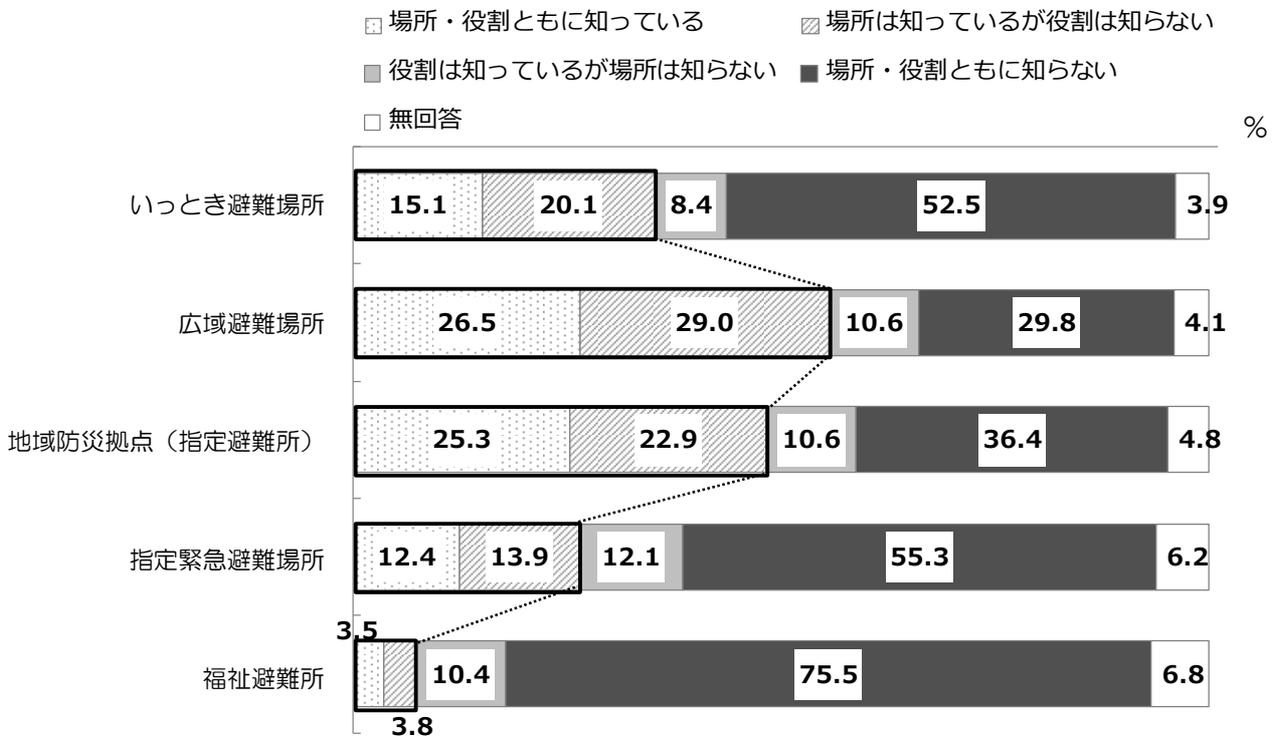


【避難場所・避難所の役割や認知状況】（問 19）

- 避難場所及び避難所の役割や認知状況をみると、「場所・役割ともに知っている」は、「広域避難場所」（26.5%）と「地域防災拠点」（25.3%）の割合が多くなっています。
- 場所の認知としては、「広域避難場所」の55.5%が最も多く、「地域防災拠点」の48.2%、「いっとき避難場所」の35.2%、「指定緊急避難場所」の26.3%、「福祉避難所」の7.3%がそれに次いでいます。「広域避難場所」と「地域防災拠点」は約5割を占めていますが、より一層の認知度向上を図っていく必要があります。

※場所の認知は「場所・役割ともに知っている」と「場所は知っているが役割は知らない」の合計を指します。

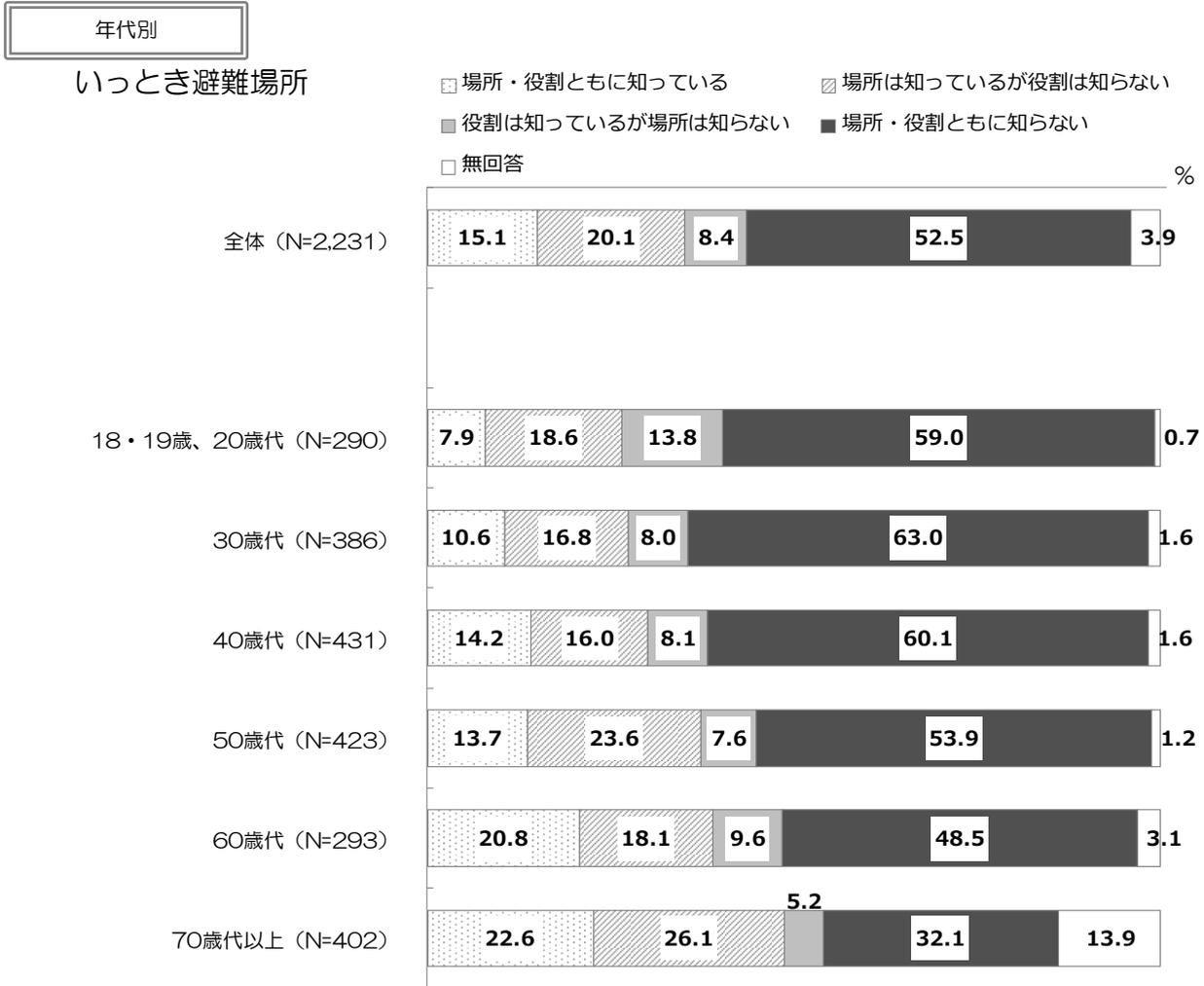
問 19. あなたは、次の避難場所や避難所の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ） [N=2,231]



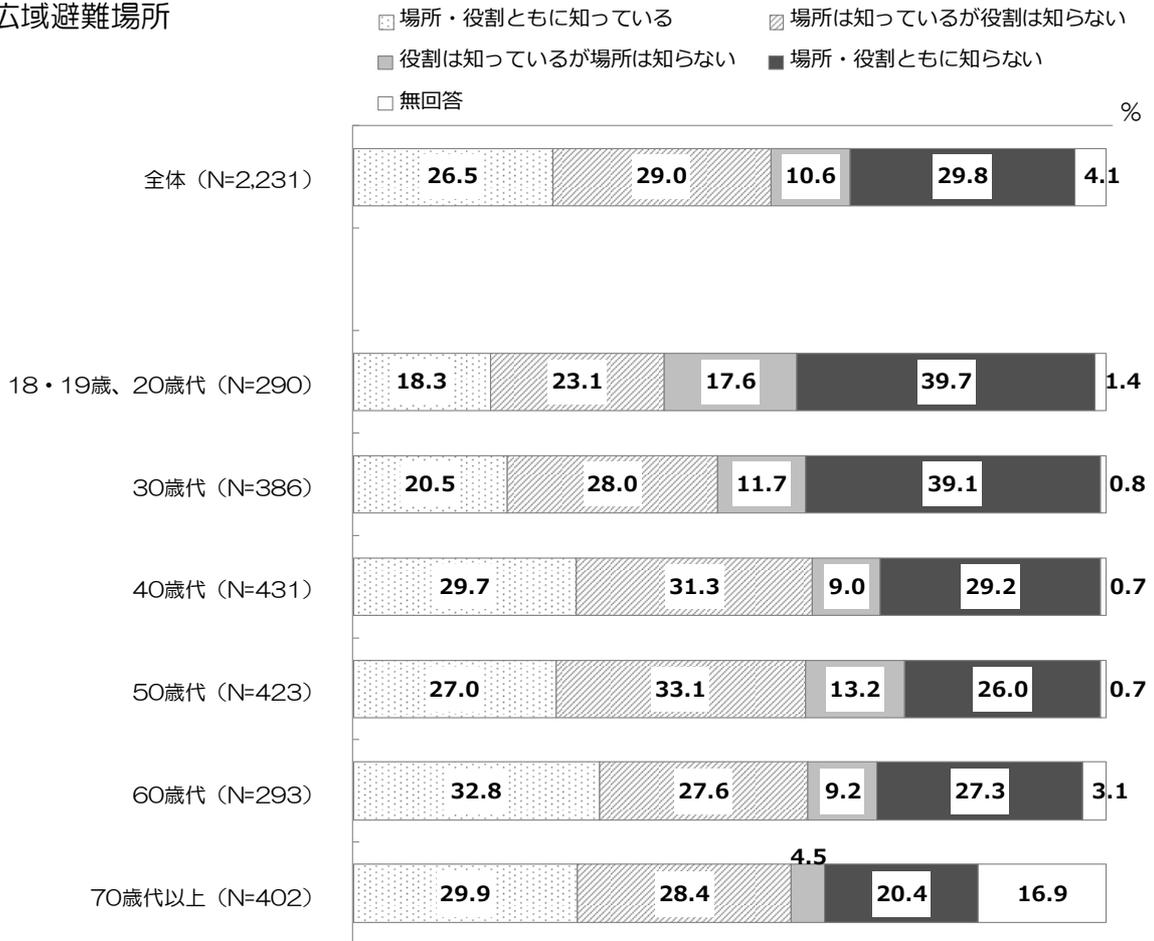
- いっとき避難場所：一時的に避難して様子を見たり、広域避難場所へ避難するために集結する場所
- 広域避難場所：大地震により発生した火災が拡大した場合、その輻射熱や煙から避難する場所
- 地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等
- 指定緊急避難場所：津波、洪水等による危険が切迫した状況において、緊急に避難する際の避難先
- 福祉避難所：地域防災拠点や自宅での生活が困難な特別な配慮を必要とする方が避難生活を送る場所

[ 避難場所・避難所の役割や認知状況（問 19）×年代 ]

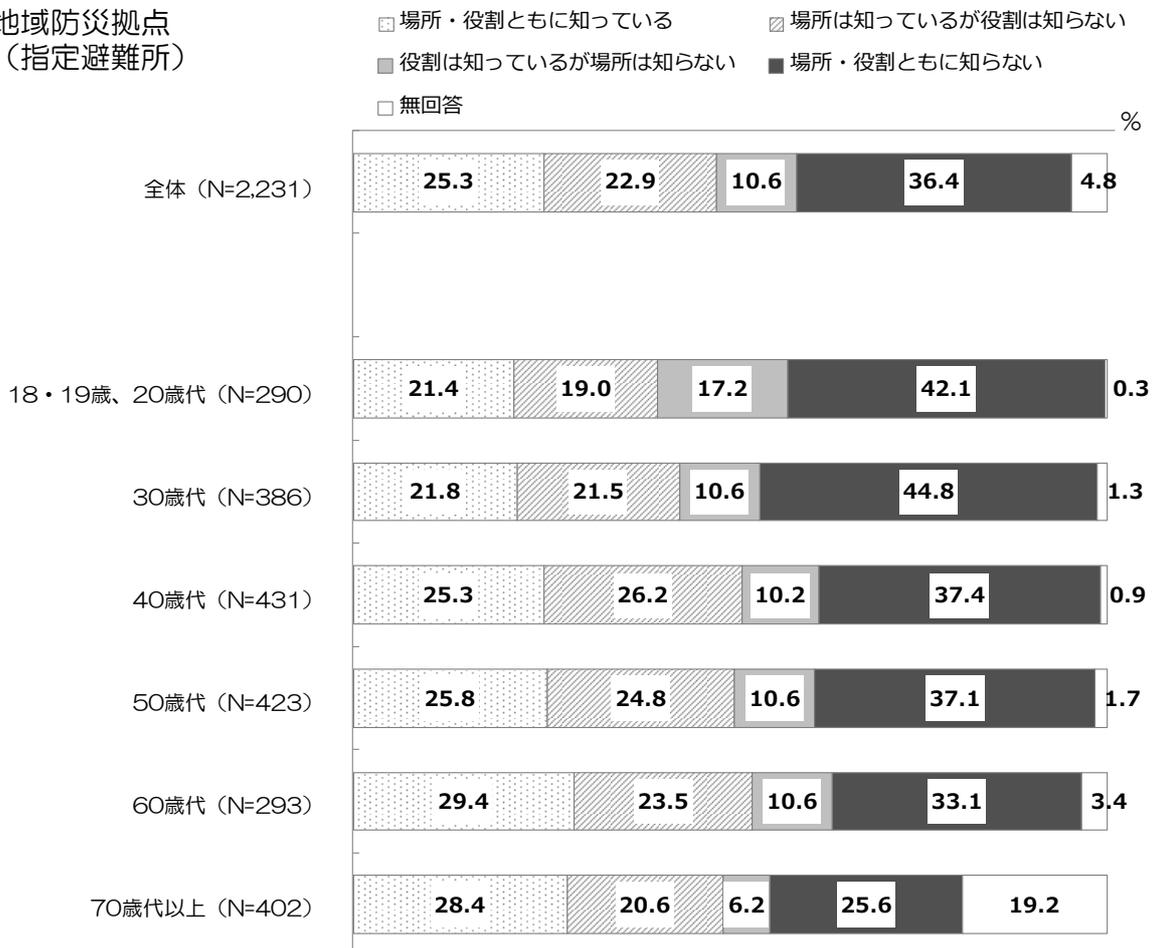
・避難場所・避難所の役割や認知状況を年代別で見ると、「いっとき避難場所」、「広域避難場所」、「地域防災拠点」の場所の認知は、上の年代ほど割合が多い傾向にあります。



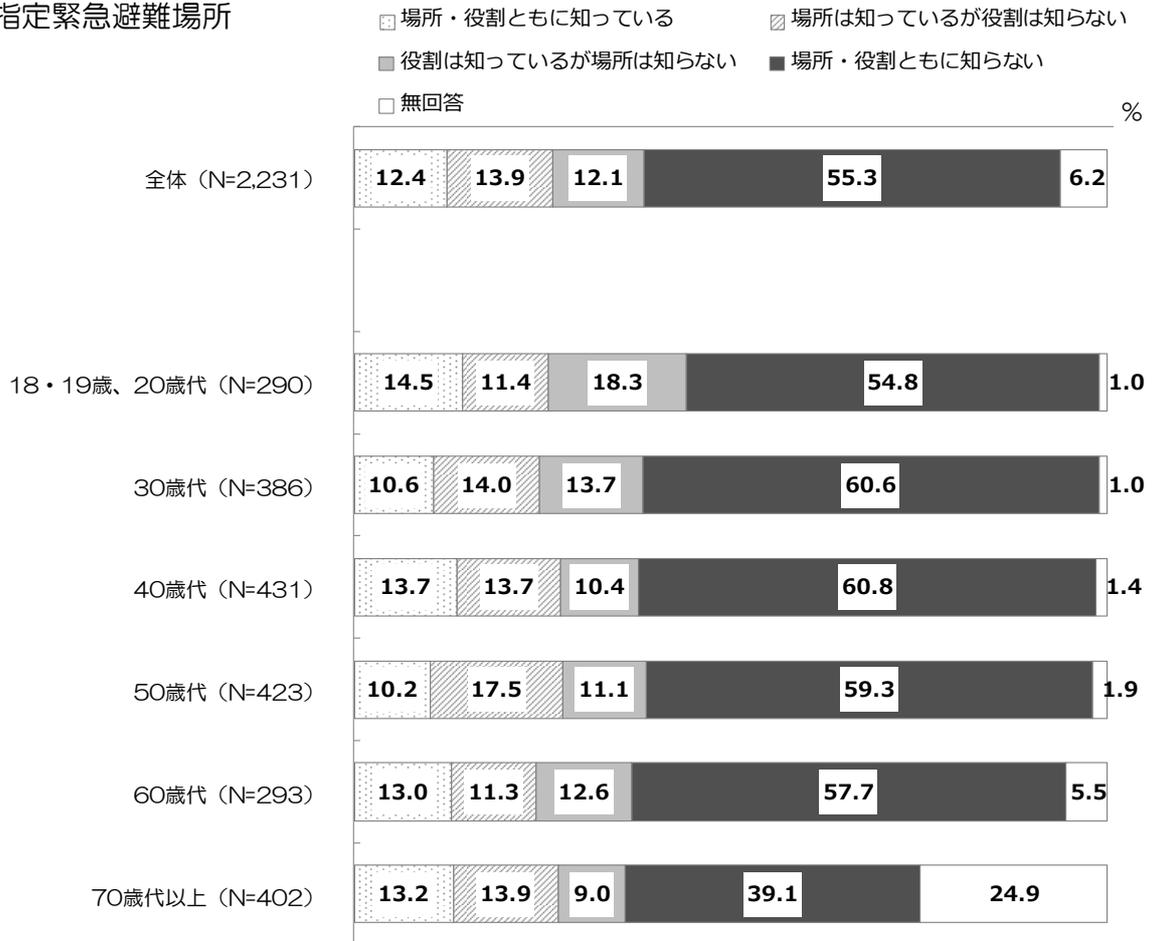
## 広域避難場所



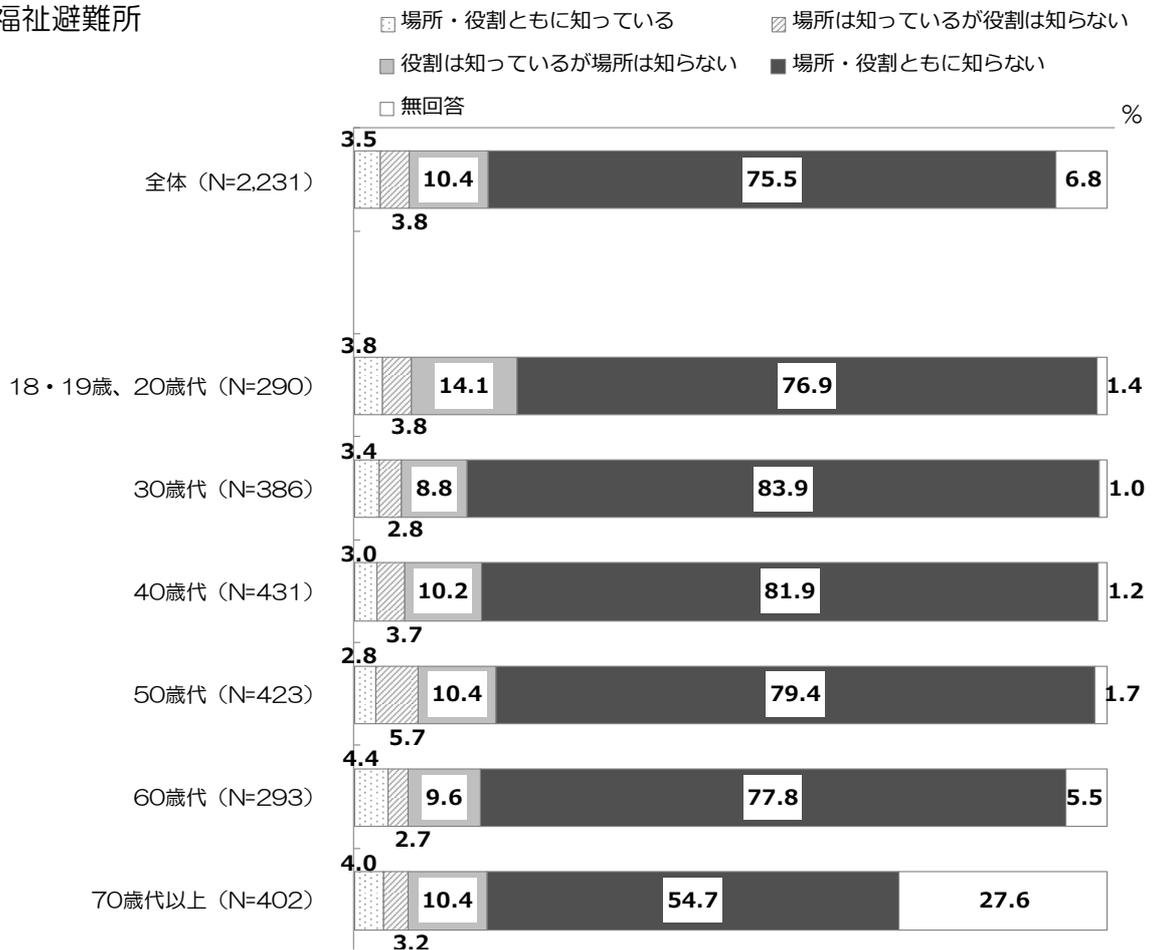
## 地域防災拠点 (指定避難所)



## 指定緊急避難場所



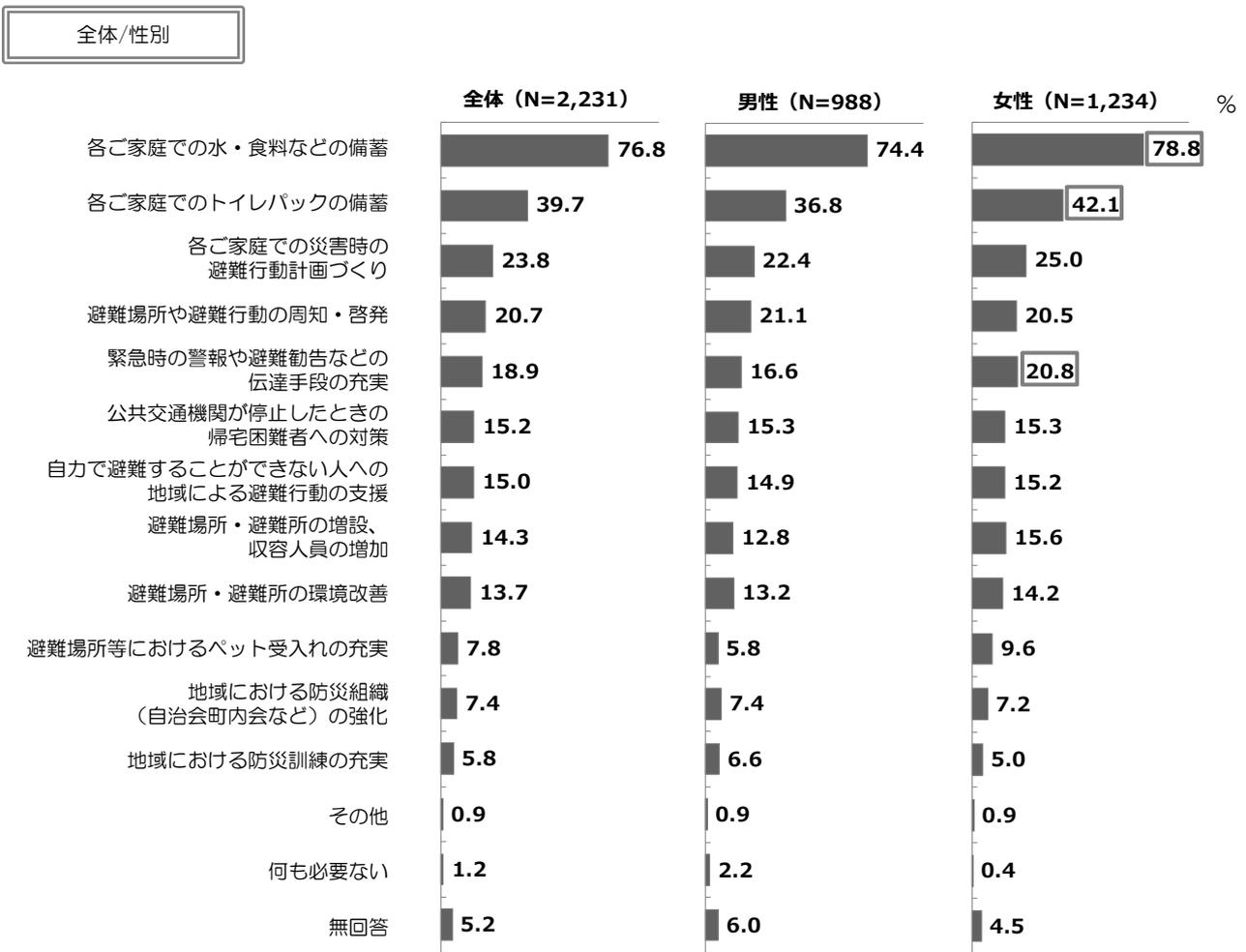
## 福祉避難所



【必要だと考える防災対策】（問 20）

- 必要だと考える防災対策をみると、「各ご家庭での水・食料などの備蓄」の76.8%が最も多く、「各ご家庭でのトイレパックの備蓄」の39.7%、「各ご家庭での災害時の避難行動計画づくり」の23.8%がそれに次いで割合が多くなっており、自身による地震や風水害による被害を防ぐ対策（自助）の意識が高まっています。
- 性別で比較すると、全体的に男性よりも女性の割合が多く、女性は「各ご家庭でのトイレパックの備蓄」（男女比+5.3ポイント）に加えて、「各ご家庭での水・食料などの備蓄」（同+4.4ポイント）、「緊急時の警報や避難勧告などの伝達手段の充実」（同+4.2ポイント）が多くなっています。

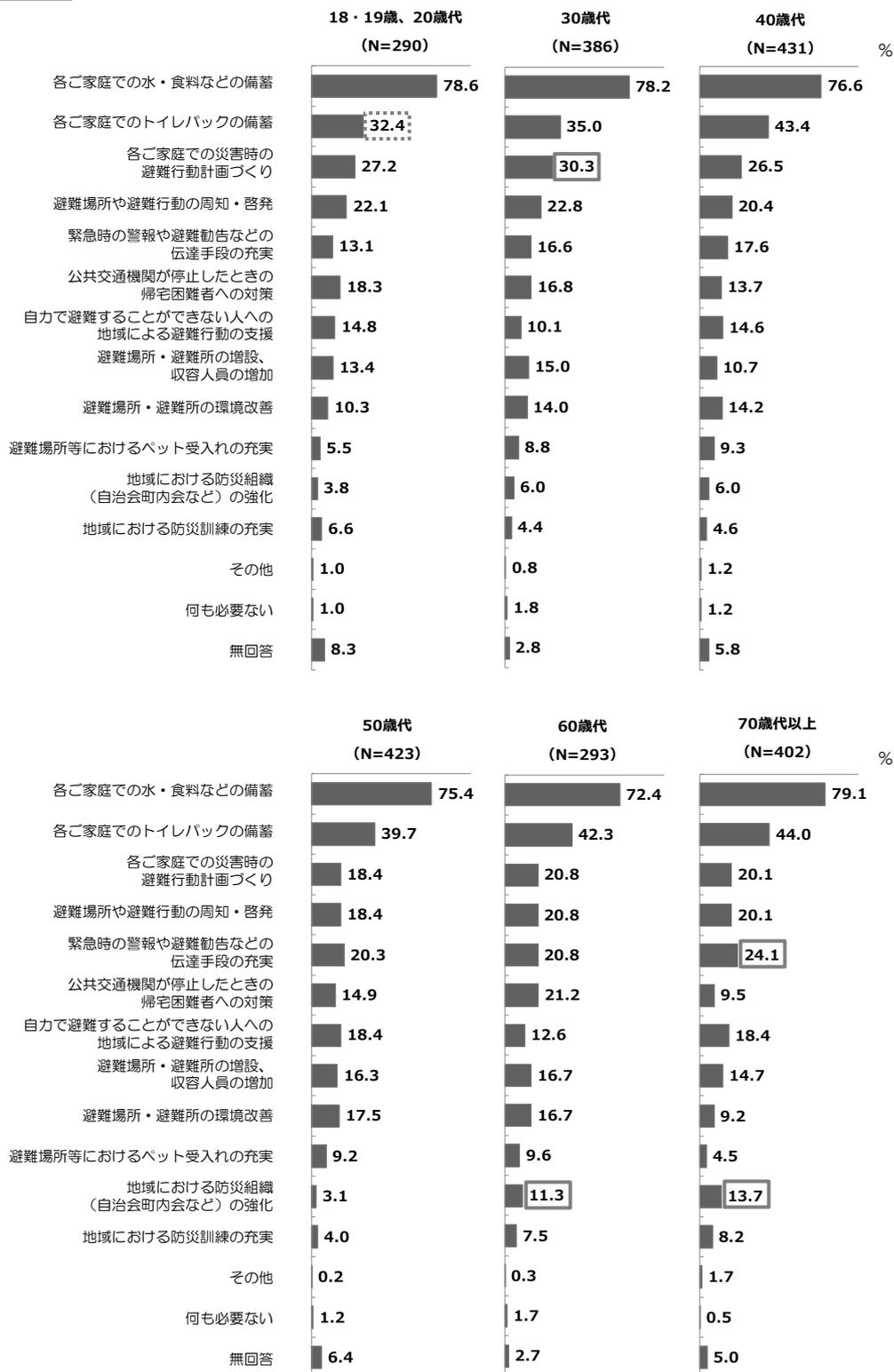
問 20. あなたが、地震や風水害に備えて特に必要だと思う対策は何ですか。（〇は3つまで）[N=2,231]



[ 必要だと考える防災対策（問 20）×年代 ]

- 必要だと考える防災対策を年代別でみると、「各ご家庭でのトイレパックの備蓄」は 32.4%で 18・19 歳、20 歳代が最も少なく、「各ご家庭での災害時の避難行動計画づくり」は 30.3%で 30 歳代が最も多くなっています。
- 70 歳代以上は、「緊急時の警報や避難勧告などの伝達手段の充実」が 24.1%と他の年代と比べて割合が多くなっています。
- 60 歳代以上では、「地域における防災組織の強化」の割合が多くなっています。

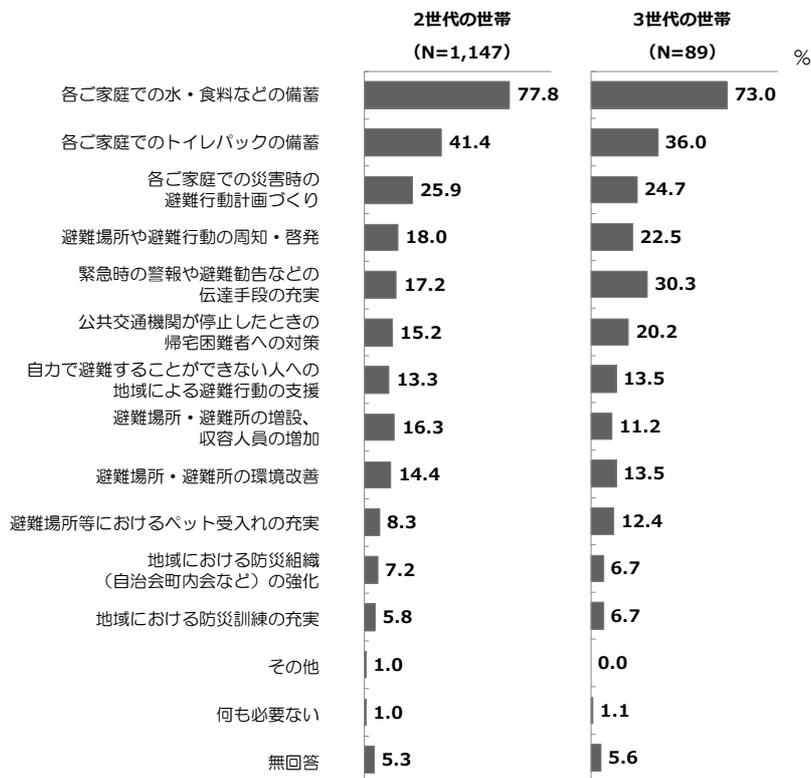
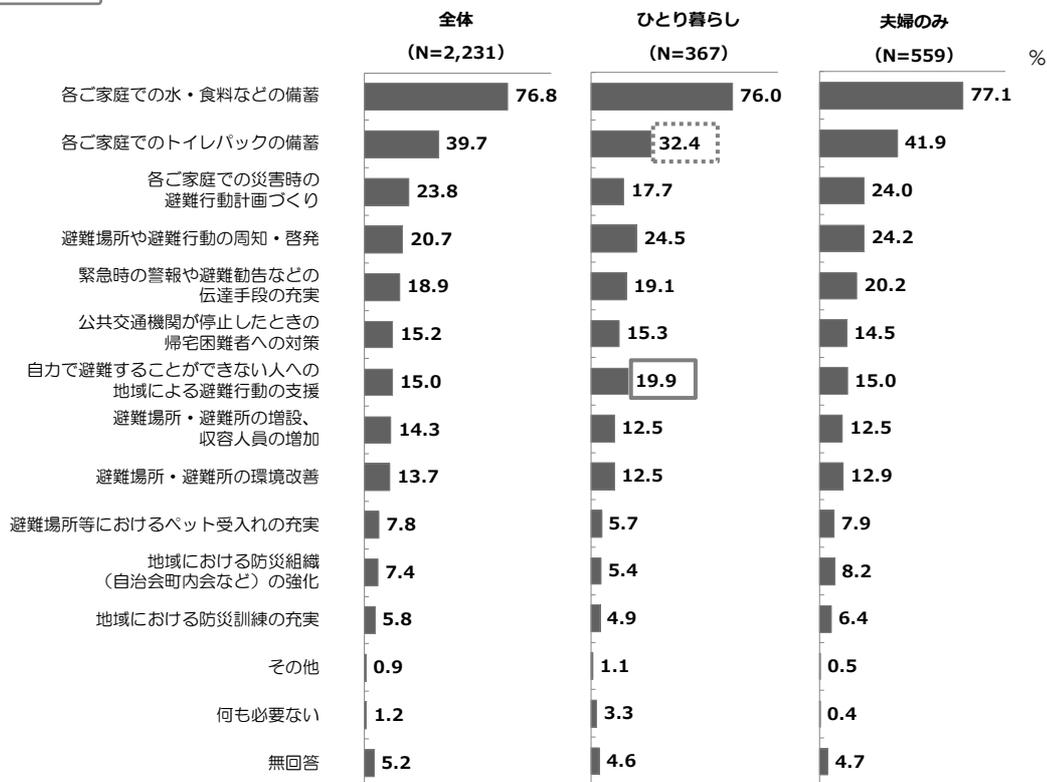
年代別



[ 必要だと考える防災対策（問 20）×世帯構成 ]

- 必要だと考える防災対策を世帯構成別でみると、ひとり暮らしは、他の世帯構成と比べて「自力で避難することができない人への地域による避難行動の支援」（19.9%）が多く、「各ご家庭でのトイレパックの備蓄」（32.4%）が少なくなっています。

世帯構成別

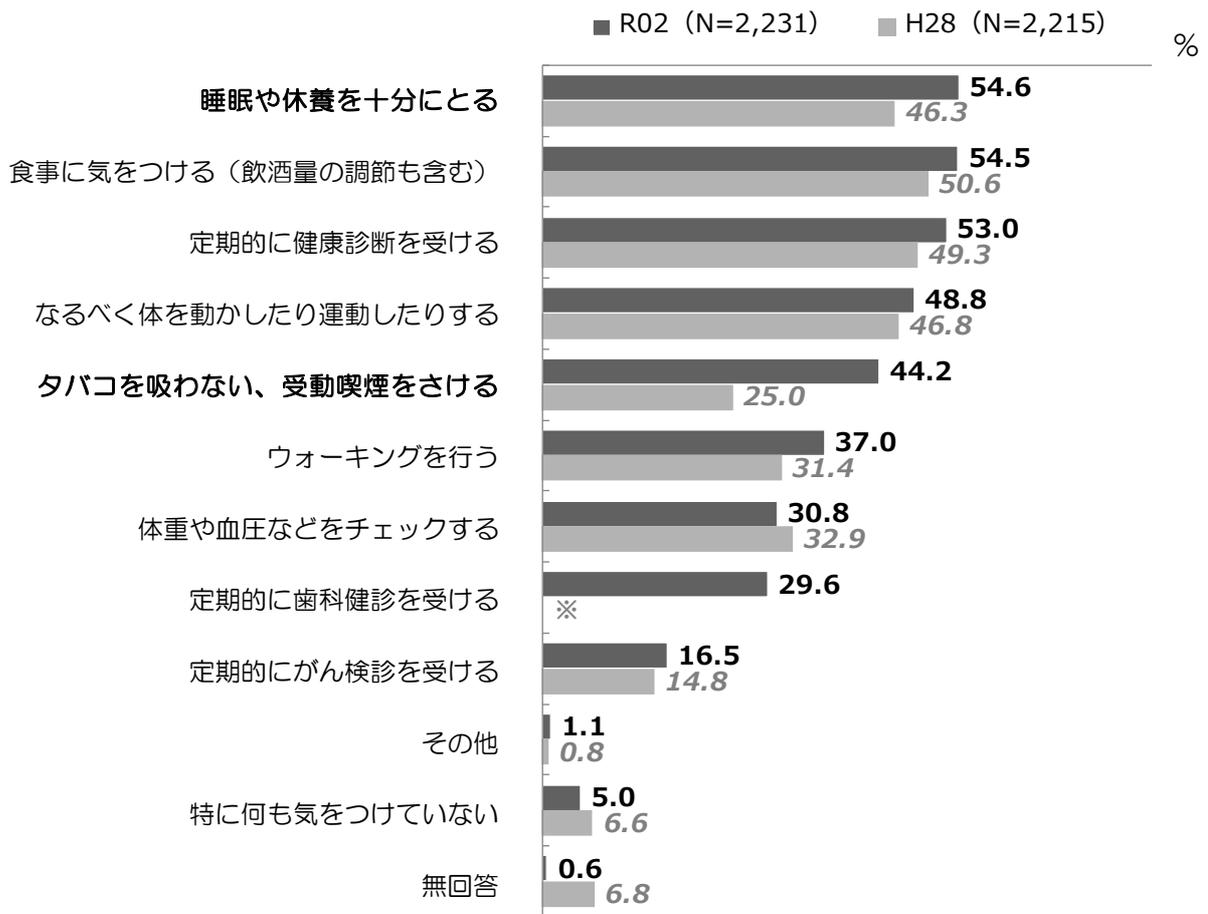


(9) 健康について

【自身の健康のために日頃気をつけていること】(問 21)

- 自身の健康のために日頃気をつけていることをみると、「睡眠や休養を十分にとる」の54.6%が最も多く、「食事に気をつける」の54.5%、「定期的に健康診断を受ける」の53.0%がそれに次いでいます。
- 前回調査と比較すると、「タバコを吸わない、受動喫煙をさける」(前回比+19.2ポイント)が大幅に上昇し、次いで、「睡眠や休養を十分にとる」(同+8.3ポイント)が増加しています。

問 21. あなたは、ご自身の健康のために、日頃どのようなことに気をつけていますか。  
(〇はいくつでも) [N=2,231]

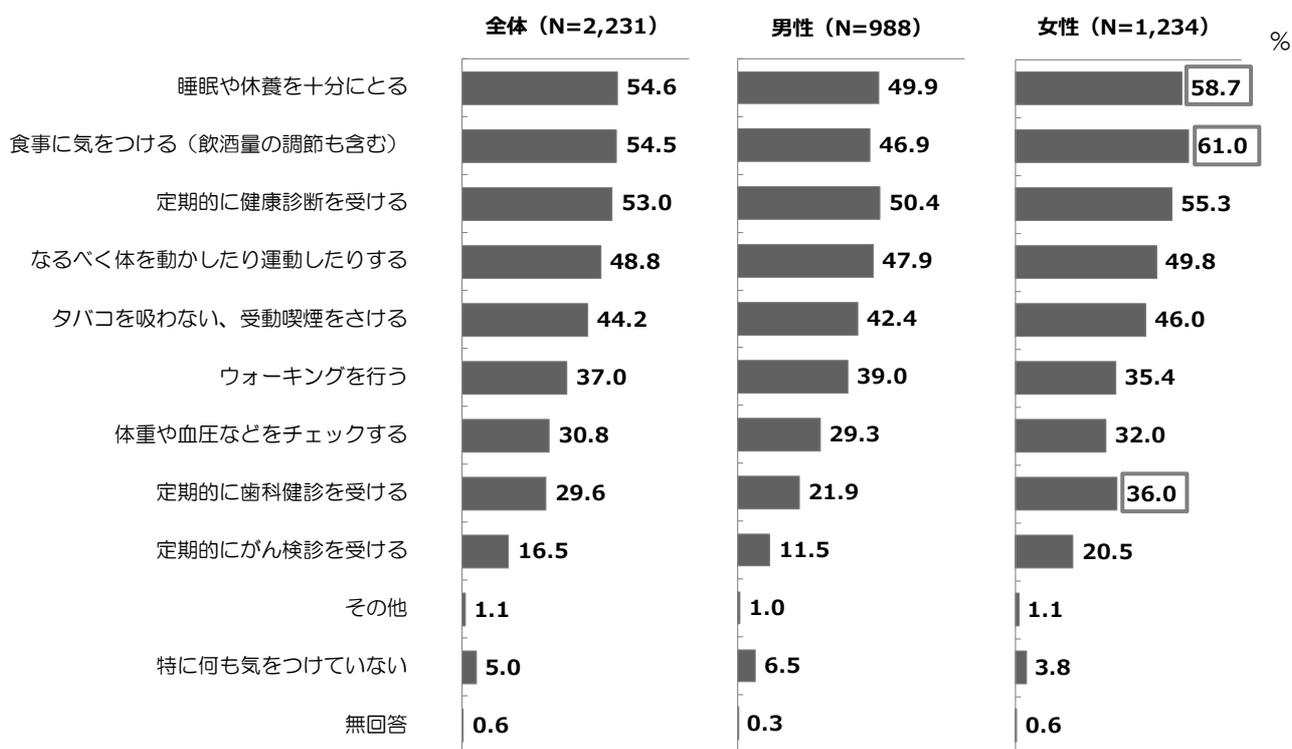


※の項目は、聴取を実施せず

[ 自身の健康のために日頃気をつけていること (問 21) ×性別 ]

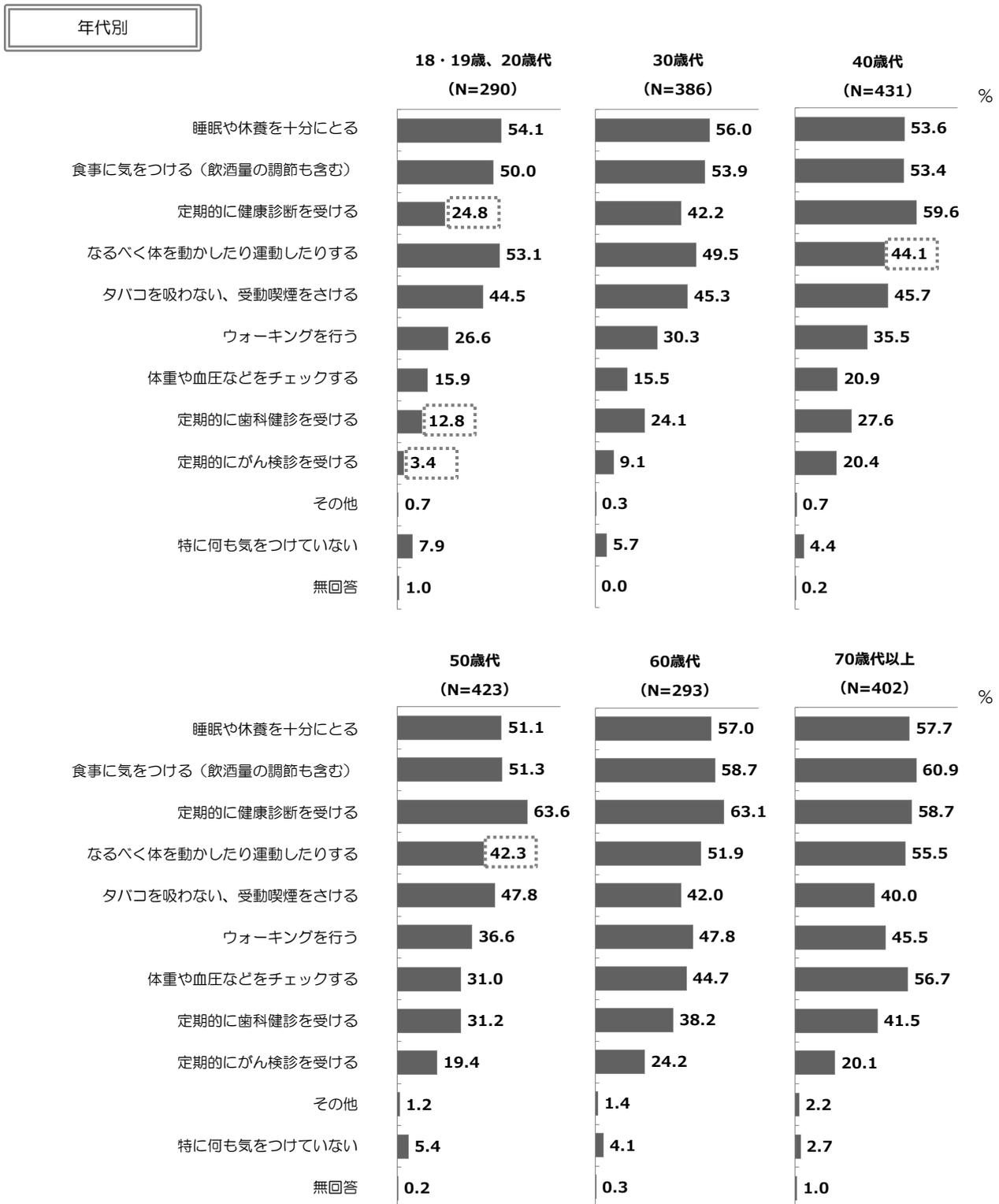
- 自身の健康のために日頃気をつけていることを性別で比較すると、全体的に男性よりも女性の割合が多く、女性は「食事に気をつける」(男女比+14.1 ポイント)に加えて、「定期的に歯科健診を受ける」(同+14.1 ポイント)、「睡眠や休養を十分にとる」(同+8.8 ポイント)が多くなっています。

性別



[ 自身の健康のために日頃気をつけていること（問21）×年代 ]

- 自身の健康のために日頃気をつけていることを年代別でみると、18・19歳、20歳代は「定期的に健康診断を受ける」（24.8%）、「定期的に歯科検診を受ける」（12.8%）、「定期的ながん検診を受ける」（3.4%）が他の年代と比べて割合が少なくなっています。
- 「なるべく体を動かしたり運動したりする」は、40歳代及び50歳代が他の年代と比べて割合が少なくなっています。
- 「ウォーキングを行う」、「体重や血圧などをチェックする」及び「定期的に歯科健診を受ける」は、年代が上がるにつれて、概ね割合が多くなっています。



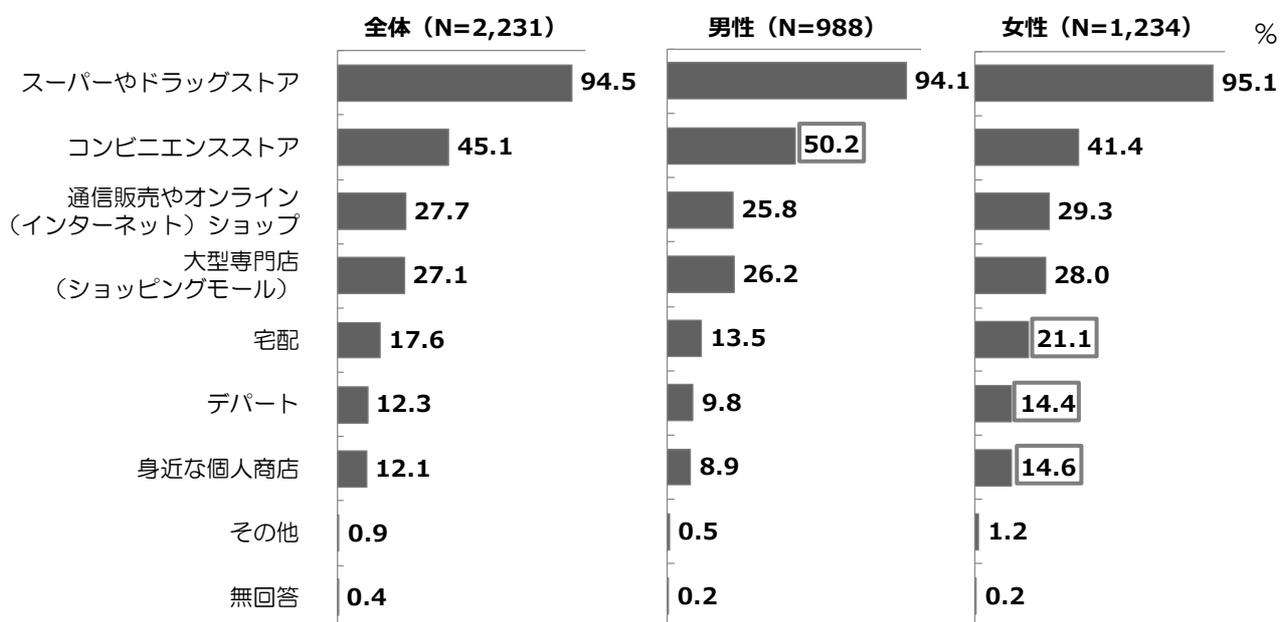
## (10) 買い物について

### 【日常の買い物で利用するお店】（問 22）

- 日常の買い物で利用するお店をみると、「スーパーやドラッグストア」の94.5%が最も多く、「コンビニエンスストア」の45.1%、「通信販売やオンライン（インターネット）ショップ」の27.7%がそれに次いで割合が多くなっています。
- 性別で比較すると、男性の「コンビニエンスストア」（男女比+8.8ポイント）以外は、男性よりも女性の割合が多く、女性は「宅配」（同+7.6ポイント）に加えて、「身近な個人商店」（同+5.7ポイント）、「デパート」（同+4.6ポイント）が多く、幅広い手段で買い物をしています。

問 22. 食料品や日用品など日常的商品を購入する際、主にどのようなお店を利用していますか。  
（〇はいくつでも） [N=2,231]

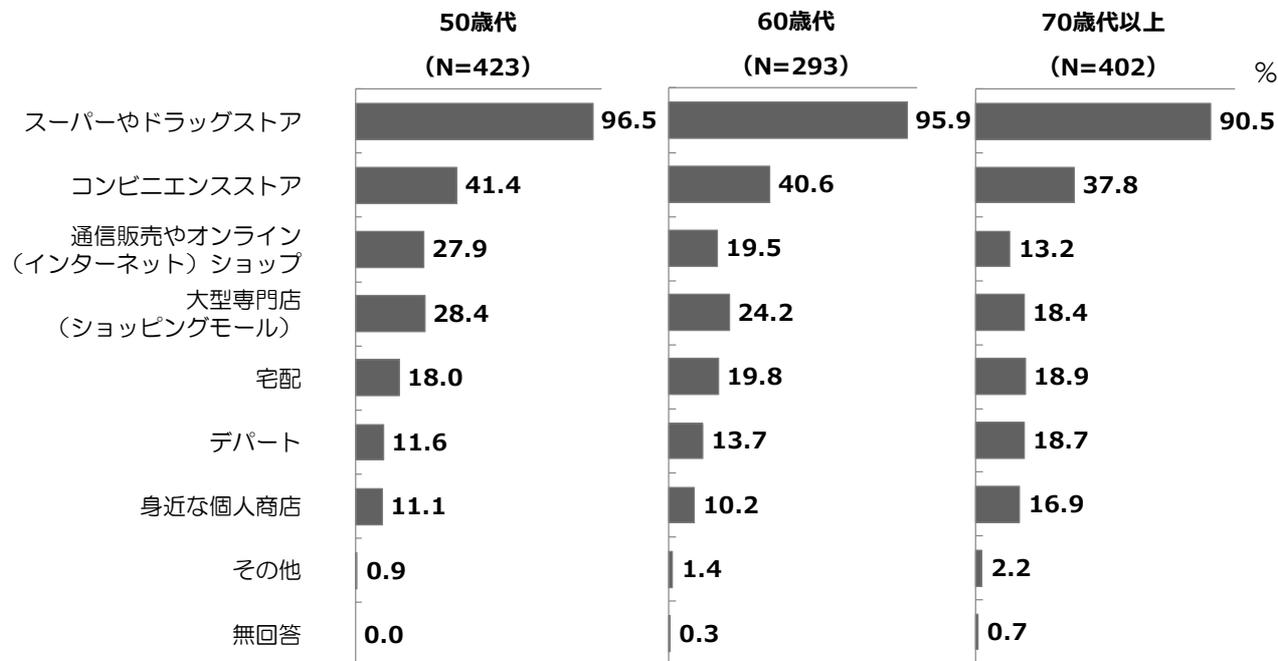
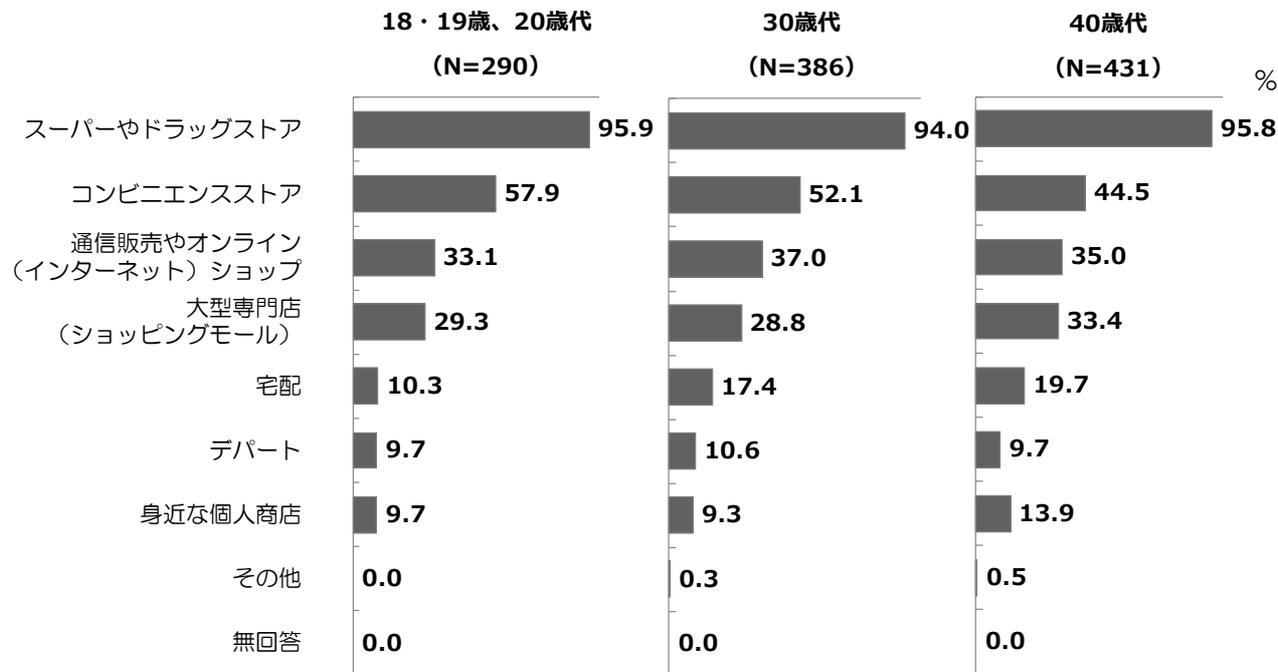
全体/性別



[ 日常の買い物で利用するお店（問 22）×年代 ]

- 日常の買い物で利用するお店を年代別でみると、「スーパーやドラッグストア」は、すべての年代で9割を超えています。
- 「コンビニエンスストア」と「通信販売やオンライン（インターネット）ショップ」は年代が上がるにつれて概ね割合が少なくなっています。

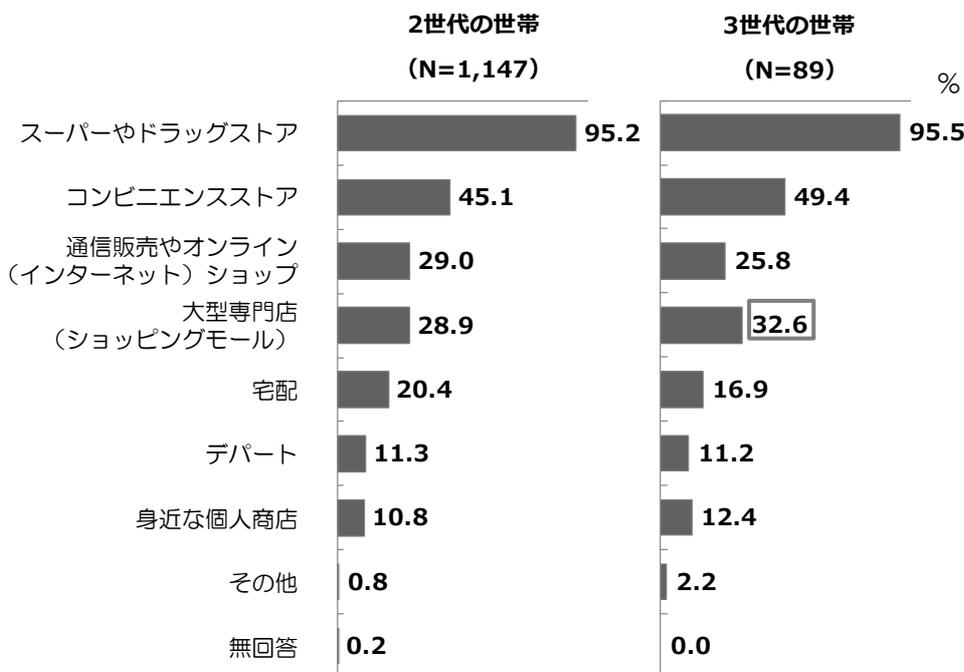
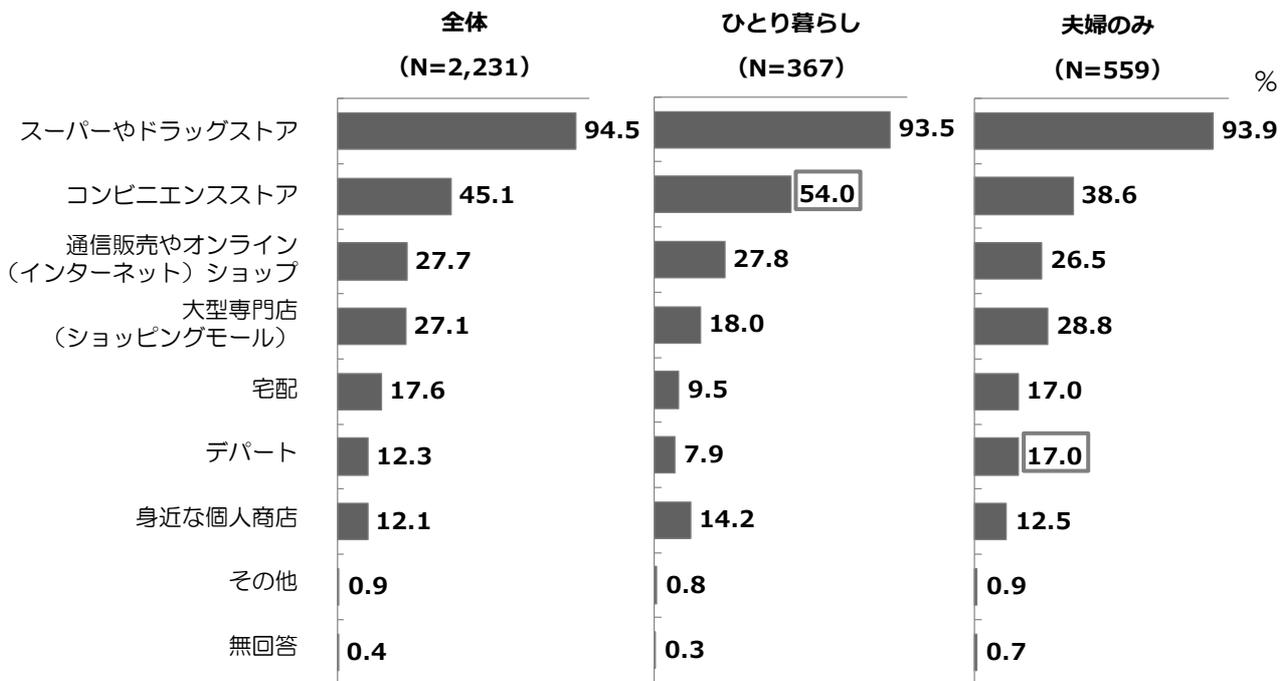
年代別



[ 日常の買い物で利用するお店（問 22）×世帯構成 ]

- 日常の買い物で利用するお店を世帯構成別で見ると、「コンビニエンスストア」はひとり暮らし（54.0%）が最も多くなっています。
- 3世代の世帯の「大型専門店（ショッピングモール）」（32.6%）、夫婦のみの「デパート」（17.0%）は、他の世帯構成と比べて割合が多くなっています。

世帯構成別

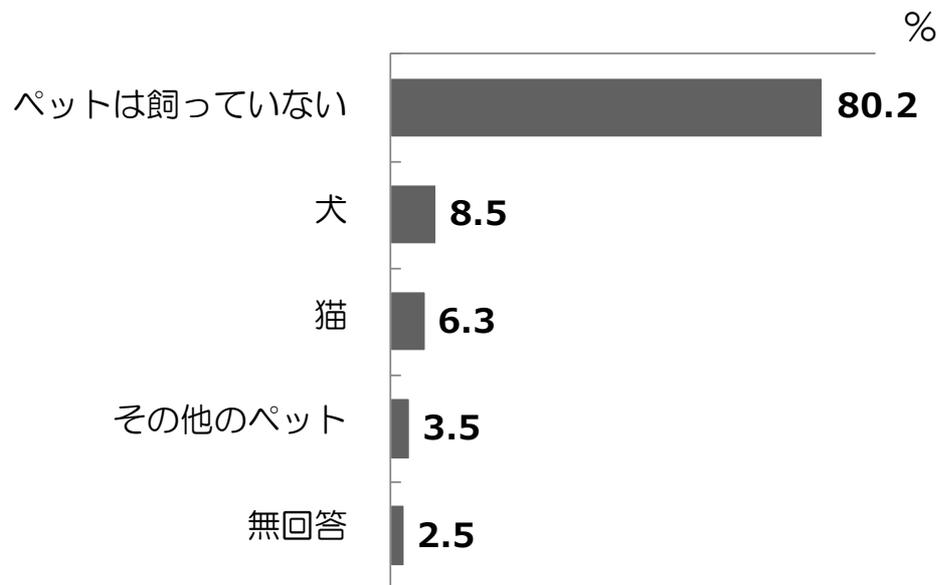


(11) ペットについて

【ペットの飼育有無と飼っているペットの種類】（問 23）

- ペットの飼育状況を見ると、全体の80.2%が「ペットは飼っていない」と回答しています。飼っている場合に、「犬」は8.5%、「猫」は6.3%、「その他ペット」は3.5%となり、「犬」や「猫」を飼っている割合がそれぞれ1割に満たない結果となっています。

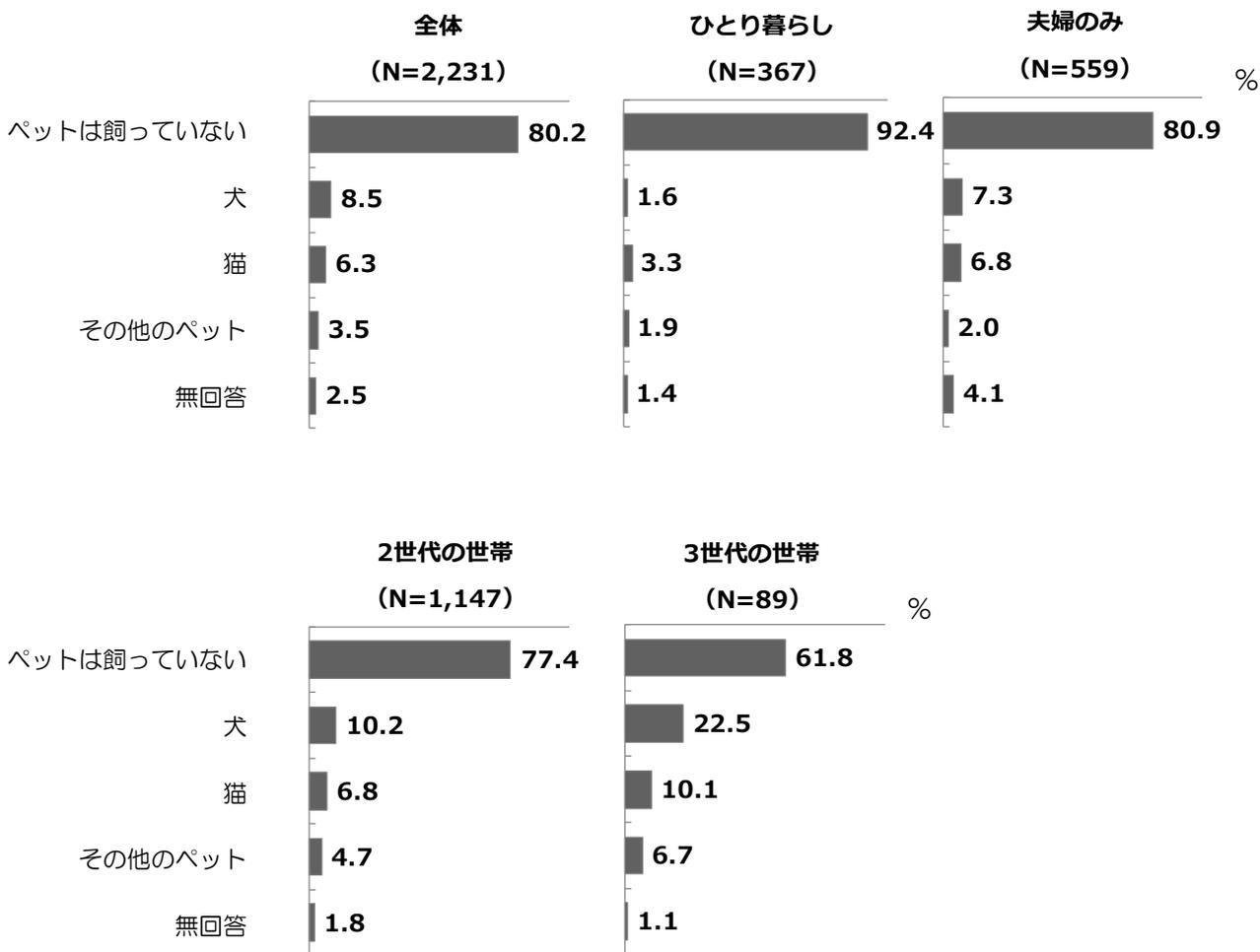
問 23. あなたのご家庭では、ペットを飼っていますか。  
また、飼っている場合、どのようなペットを飼っていますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]



[ ペットの飼育有無と飼っているペットの種類（問 23）×世帯構成 ]

- ペットの飼育状況を世帯構成別でみると、多世代であるほうがペットを飼っている割合が多くなっています。

世帯構成別

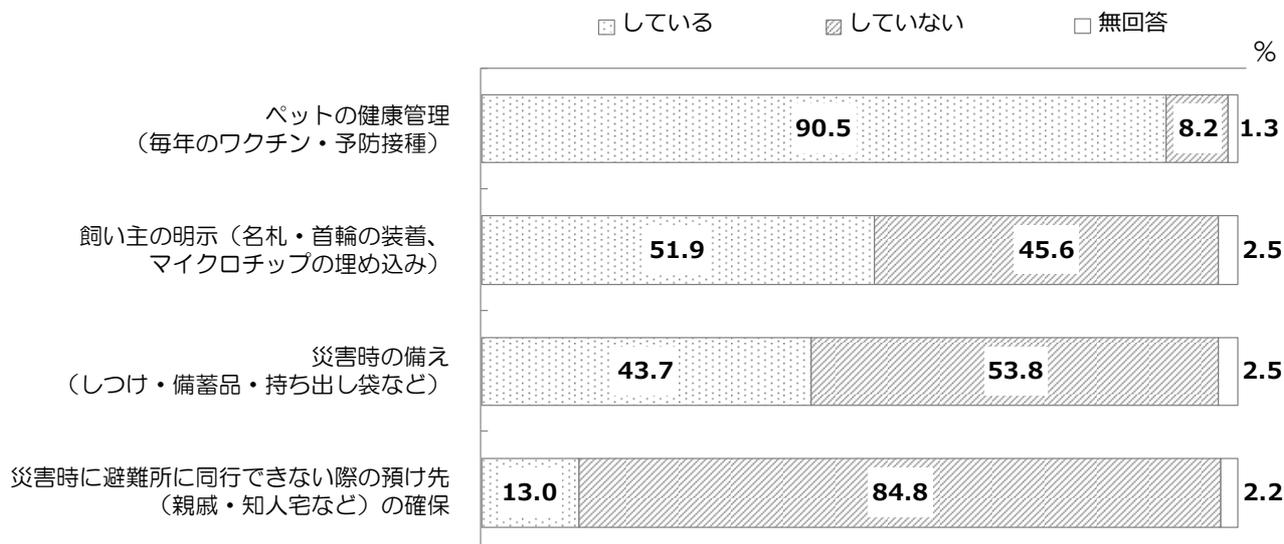


【ペットに関する日頃からの備え】（問 23-1）（問 23＝「2.猫」＋「3.犬」ベース）

- ペットに関する日頃からの備えを「している」の回答割合をみると、「ペットの健康管理」の90.5%が最も多く、「飼い主の明示」の51.9%、「災害時の備え」の43.7%、「災害時に避難所に同行できない際の預け先の確保」の13.0%がそれに次いでいます。

＜問 23 で「2 猫」「3 犬」とお答えの方＞

問 23-1. 次にあげる備えを、日頃から行っていますか。（〇は1つだけ） [N=316]



(12) 自由記述について

【区政運営またはアンケートについての意見】（問 35）

- ・595名から自由記述の回答がありました。
- ・区政運営に関するご意見を大きく分類すると「交通・道路に関すること」が162件あり、最も多く意見がありました。次いで、「広報・広聴・市民相談・情報公開に関すること」が69件、「公害・環境保全・緑に関すること」が62件、「市民活動・市民利用施設に関すること」が59件、「防災・消防・防犯対策に関すること」が58件と多くなっています。

内容（分類別）	件数
<b>交通・道路に関すること</b>	<b>162</b>
バス・地下鉄などの便	16
幹線道路や高速道路の整備	7
通勤・通学・買い物道路や歩道の整備	70
違法駐車防止や交通安全対策	31
駐輪場の整備	8
最寄り駅周辺の整備	30
<b>広報・広聴・市民相談・情報公開に関すること</b>	<b>69</b>
広報や広聴、市民相談、情報公開など市民参加の推進	23
身近な住民窓口サービス（証明書発行・各種手続きなど）	46
<b>公害・環境保全・緑に関すること</b>	<b>62</b>
公園の整備	17
緑の保全と緑化の推進	13
河川改修と水辺環境の整備	6
地球温暖化への対策、環境汚染や騒音への対策	26
<b>市民活動・市民利用施設に関すること</b>	<b>59</b>
地区センターやコミュニティハウスなどの整備や生涯学習・市民活動の振興	12
区民文化センターの整備や市民文化の振興	4
図書館・図書貸出取次サービス窓口の整備や読書習慣の推進	34
スポーツ・レクリエーションの振興や施設の整備	9
<b>防災・消防・防犯対策に関すること</b>	<b>58</b>
地震などの災害対策	27
防犯対策	31
<b>子育て支援に関すること</b>	<b>41</b>
保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助	29
学校教育の充実	2
青少年の健全育成	2
その他 子育て支援に関すること	8
<b>ごみ・リサイクルに関すること</b>	<b>31</b>
ごみの分別収集、リサイクル	22
ごみの不法投棄対策や街の美化	9
<b>経済・産業に関すること</b>	<b>30</b>
商店街の振興	4
その他 経済・産業に関すること	26
<b>福祉に関すること</b>	<b>28</b>
高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備	3
高齢者福祉サービス	8
障害者福祉サービス	3
その他 福祉に関すること	14
<b>保健・衛生・医療に関すること</b>	<b>14</b>
病院や救急医療など地域医療	10
その他 保健・衛生・医療に関すること	4
<b>観光に関すること</b>	<b>10</b>
観光の振興	10
<b>今回の調査に関すること</b>	<b>23</b>
<b>その他</b>	<b>103</b>
市民対応に関すること	36
新型コロナウイルス感染症に関すること	28
その他	39
<b>意見件数（総数）</b>	<b>690</b>
<b>自由記入 回収数</b>	<b>595</b>